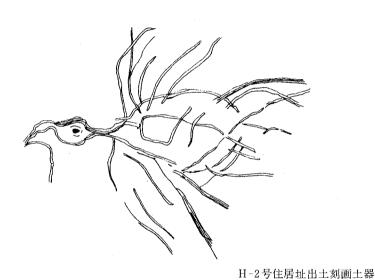
元総社明神遺跡 VI

土地区画整理事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査概報

1 9 8 8

前橋市埋蔵文化財発掘調查団

元総社明神遺跡VI



前橋市埋蔵文化財発掘調查団

例 言

- 1. 本書は、前橋市都市計画事業元総社西部第三明神地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発 掘調査報告書である。
- 2. 本遺跡の略号は62A24とする。
- 3. 調査主体は前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
- 4. 発掘調査の要項は次の通りである。

調査場所 前橋市元総社町地内

調査期間 昭和62年5月1日~12月15日

整理期間 昭和62年12月16日~63年3月25日

発掘担当者 駒倉秀一(前橋市埋蔵文化財発掘調査団)

加部二生 (同 上)

- 5. 本書の編集、執筆は担当者の討議により分担して行った。
- 6. 遺物整理、図面作成、図面整理、遺物写真等は担当者及び整理作業員が分担して行った。
- 7. 調査ならびに本報告書作成にかかわった方々は、次の通りである。(敬省略)

相田昌子 阿藤孝子 阿部栄恵 飯田五郎 石井 昭 石田洋子 井野岳史 岩木 操 太田一郎 大塚美智子 小川悦子 金井福治郎 岸 フクエ 小林延寿 駒形とし子 佐藤忠重 白井和子 住谷文彦 関根政一 竹内敏江 千明香根子 塚越則子 角田弘子 堀川千恵子 松田富美子 松本加代子 真庭卯平 真庭トシ 宮原麻吉 湯浅たまえ 湯浅道子

8. 本書作成にあたり次の方々に御教示を賜った。(敬省略)

前沢和之 田口一郎 橋本博文 坂爪久純 小穴喜一 津金沢吉茂原田和博 大江正行 北爪健二 木津博明 武部喜充 千田幸生田口正美 飯塚 誠

9. 執筆分担は以下の通りである。

駒倉秀一 I、Ⅲ、Ⅳ加部二生 II、V、Ⅵ

凡例

1. 遺構の略号は次の通りである。

H…土師器使用竪穴式住居址 B…掘立柱建物址 D…土坑 I…井戸址 W…溝状遺構 2. 挿図図版の縮尺は次の通りである。

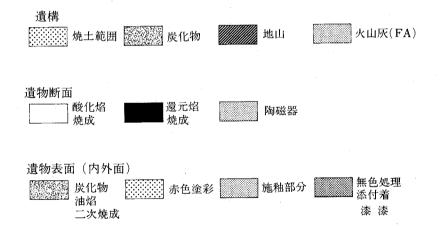
(1) 遺構

住居址→1/% 竈→1/% 土坑→1/% 溝→1/% 井戸址→1/% 建物址・畝状遺構→1/% 遺構全体図→1/∞

(2) 遺物

土師器、須恵器、鉄器、瓦¼ 石臼、石塔類→% 玉類、古銭→½

- 3. 遺構挿図中に記した断面基準線は標高で表した。
- 4. 遺構挿図中に示したN方位は、座標北である。
- 5. 遺構及び遺物挿図中の記号は次の通りである。



目 次

例			Ħ	i	
凡			例	j	
I		ž	発掘	調	査に至る経過1
Π		Ĭ	貴跡	(O)	周辺環境
			立		地
	2		周	辺	遺跡
III		シチ		調	査の経過
	1	•	調	査	方法
	2		調	査	の経過····································
IV		基	表本	層	序7
V		ij	貴構	ع	遺物8
	1		全	体	の概観······8
	2		住	居:	址12
	3		建	物	址48
	4.		畝	状	遺構49
	5		土	;	坑
	6		井	戸	址54
	7		溝	:	址54
		拝	f	ı	図60
		Ę	真	図)	版96
VI		老	<u>v.</u>	察·	

I 発掘調査に至る経過

元総社明神遺跡がある前橋市元総社町は、上野国府跡ともいわれ、歴史的に重要な地である。 この地に、今回の発掘調査に先だつ前橋市の埋蔵文化財調査が実施されたのは、昭和48年であった。前橋市都市計画課長より前橋市教育委員会社会教育課長あてに「都市計画道路(中央大橋線)の変更に伴う埋蔵文化財の現地調査依頼」があったもので、市教委は同年10月中旬、元総社地区遺物分布調査を実施した。この47.1haの表面採集により、土師器、須恵器、布目瓦等の散布状態が確認された。

その後、昭和53年9月、前橋市長より教育長あてに「元総社地区区画整理事業(仮称)に係わる埋蔵文化財の取扱い」について、意見を求めてきた。それに対して市教委では、今までの調査等をもとに、(1)養海城跡、上野国府跡については現状保存を要望する。(2)昭和48年調査の多量散布地については発掘調査、少量散布地は、遺物・遺構が発見された場合には調査をする――という回答を提出した。

その後、昭和54年12月、56年7月・10月と協議を重ねた。

昭和57年度は、国庫補助金を受けて、前橋都市計画事業西部第三明神地区土地区画整理事業に 先立つ調査依頼が、市都市区画整理部宅地開発課より市教委あてにあった。この依頼を受けて、 宅地開発課と市教委担当者との間で協議が行われ、次のような事項を申し合わせた。

- (1) 確認調査は道水路部分及び周辺地域を中心とする。
- (2) トレンチをいれて遺構を検出した場合、拡張する範囲は道水路内及びその遺構確認範囲とする。
- (3) 排土は道水路内で極力始末する、等。

これを受けて昭和57年 9 月22日~12月25日までの 3 ケ月、更に昭和58年 5 月13日~ 8 月10日までの 3 ケ月に亘り、確認調査が実施された。

翌昭和59年度には、前橋都市計画事業元総社(西部第三明神)地区区画整理事業の施行者前橋市と調査者前橋市教育委員会との間に、元総社明神遺跡の発掘調査に関する覚書を締結し、次のような取り決めをした。

- (1) 発掘調査は前橋市教育委員会で組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団がおこなう。
- (2) 発掘調査区域は39,570m²とする。但し確認調査の結果、発掘調査を必要としない区域は除外する。
- (3) 発掘調査期間は昭和59年度から昭和65年度までとする。(抜粋)

昭和62年度の調査はこの覚書に基くもので、6年目の継続調査である。今年度の調査は昭和61年11月20日で依頼をうけ、協議を重ねた後、昭和62年5月1日付で委託契約を結び、5月6日より調査を開始。そして10月9日付で調査面積増による変更契約を結び、1,277㎡の調査を12月15日に終了した。

II 遺跡の周辺環境

1 立 地

元総社明神遺跡は群馬県庁から西方2kmの地点に位置する前橋市元総社町に所在する。利根川の 西岸にあたり、前橋市街地とは川を挟んで対峙する位置にある。現地は本遺跡の調査が開始され た昭和57年当時は一面桑畑であったが、近年の目まぐるしい開発は歴史的環境の豊かな当地にま で及び、現在は区画整理が進んで、大半が宅地として以前の面影を失っている。

本遺跡の所在する地域は、群馬県のほぼ中央に聳える榛名山火山斜面の最末端で前橋台地と交わる直前に立地する。遺跡地の標高は、114.80~110mである。本遺跡の東方1.5㎞を流れる利根川は周囲の山々から、多くの中小河川を集め、日本一の流域面積を持ち、古来より坂東太郎として親しまれている。榛名山麓に集まる流水は、幾多の小河川となって多くの開析谷を形成しながら南流するのを常とする。本遺跡を分断している牛池・染谷の両河川もこうした複雑な微地形を造形しつつ前橋台地を貫流しており、遺跡内に、比高差4mの浸食崖が形成されている。現在の総社神社の北側は、かって風呂沼と呼ばれる沼があったと言われる所で、現在は牛池川が、最深部を大きく蛇行して流れている。沼の底にあたる所は桑畑で、砂が多く推積している。

前橋台地は洪積台地で、約二万四千年前に形成された厚さ10m程の前橋泥流層と一万三千年前の泥炭層を挟んだ水生上部ローム層によって構成されるが、本遺跡の調査で部分的にローム層も確認されている。

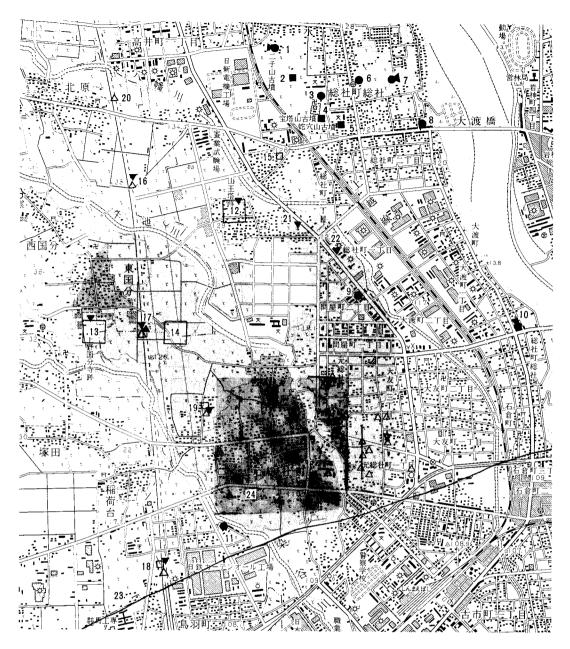
2 周辺遺跡

前橋台地における人類の足跡は、縄文時代前期までさかのぼることができる。関越道の国分寺中間地域や、下東西遺跡では諸磯期の住居跡が調査されており、中期になると、それらの分布が一気に拡大する。後晩期の遺跡としては、産業道路東遺跡、産業道路西遺跡、鳥羽遺跡、等で調査されており、本遺跡においても土器破片を検出している。弥生時代の良好な遺跡は確認されていないが、石倉町や鳥羽町では後期の土器が出土したことが、『元総社村誌』や、『前橋市史』に記載されている。この他、樽式土器を出土した、総社町の桜ヶ丘遺跡、鳥羽遺跡、赤井戸式土器を出土した、国分寺中間地域、下東西遺跡等が知られている。桜ヶ丘遺跡ではCP純層下から、樽式土器が出土している。これに対し元総社小学校校庭遺跡からは、CPで埋没した古式土師器のセットを検出しており両者間にさほどの時間差がないことが明らかになった。また、昨年度の元総社明神遺跡の調査では赤井戸式土器が古式土師器にともなって検出されている。

当該地域における古墳の出現は、5世紀中葉と推定される。それ、以前の墓制としては、国分寺中間地域の方形周溝墓が2基調査されているのみである。この地区の助産期の古墳として、東京国立博物館所蔵の多量の石製模造品を出土した、小円墳や、円筒埴輪の外面に、二次調整横ハケを持つ大小路山古墳等が考えられている。この頃の、首長層の居宅としては西方5kmの地点に

三ツ寺 I 遺跡があり、昨年度の元総社明神遺跡で検出されている北西方向に方位をもつ大溝が同様の性格を持つと思われる。こうした、めぐまれた古墳文化圏にありながら、元総社地区は空白地帯で、昭和10年の調査でも弥勒山古墳の 1 基のみであった。こうした現象は、国府に関連した都城ともいうべき街作りが行われたときに破壊されたものと推定されている。

律令体制になってからの、本地域の遺構数については、枚挙に暇がない。 台地部分は言うに及ばず、 氾濫原の斜面地帯にまで住居址が確認されている。関越道の調査部分だけで千軒あったと言われてお り、本遺跡から続いて同様の分布状況を示すと考えられることから、同様の面積比率で単純に計算し ても、国府、国分寺周辺だけで数百万軒の平安時代住居址が存在することになる。特にこの時期の住 居址は建て替えが激しく、短期間による住居の存続が軒数を増やしている大きな要因とおもわれる。こ うした、短期間な建て替えは、本地域だけの特色ではなく、おそらく、この時代全盤に言えることであろう。 しかし、肝心な国衙域の調査については確たることは言えない。むしろ、従来調査されてきてい る竪穴住居址の印象は、衛星集落的様相を呈している。遺構になんら企画性も認められず、短期 間の立て替えと種々雑多な構造、規模、方向性、遺物の内容等は、一般民衆の苫屋ととらえたほ うが妥当なようである。確かに、中央部を貫流している牛池川の氾濫原底湿地にも、昭和60年度 の調査で掘立柱建物址が検出されており、それに隣接する寺田遺跡の調査では、付近を整地あるい は、地業していることが明らかになっている。遺構の規模や性格は不明であるが、大規模な土木工 事の背景には、強大な政治力の一端を垣間見る気がする。この掘立柱建物址の年代は、柱穴掘り 方内の灰釉陶器から、10世紀に位置付けられ、すでに、国府が衰退してきた時期になってからの 建設が考えられる。今後国府域の消長を、時間的な遺構の変遷の中からとらえて行かなければな るまい。こうした中で、近年、文献の方から国府の建物配置の復元にせまった研究もなされてい る。上野国府に関する最大の文献に『上野国交替実録帳』がある。国府の炎上については交替実録 帳からは、2回読み取ることができる。長徳三 (997) 年正月十一日には府院より出火して兵庫群も 火災にあい多量の武器が焼失しており、長和四(1015)年にも府院が火災にあっている。このほか 治承四(1180)年九月三十日には、足利太郎俊綱により国府中を焼き払われるという記述が、『吾妻 鏡』にあるが、『元総社村誌』には出典は明確でないが、「府中六千戸皆灰燼ニ帰スト云」とある。 この数字は同書では想像で書かれていると断定しているが、先程の状況から見て、あながち誇張 とも思えない。まして、当時の府中の範囲は、相当広範囲であった可能性をもつ。交替実録帳に おいて群馬郡の租税収納が四分割されていると推察されていることも、人口の集中が要因ならば 頷ける。しかし、問題となるのは、現在までにそれらの災禍の痕跡が確認されておらず、はたし て実際にどれほどの被害を受け、復旧されたのかはあきらかでない。中世には永享元(1429)年に蒼 海城が築かれているが、蒼海の名は古くは『日本書記』第廿三舒明九(637)年三月乙酉朔酉戊の条、 上毛野形名に関連した記述、及び『吾妻鏡』第廿五承久三(1221)年 6 月18日条、宇治合戦の記述の 東国武士「蒼海平太」の名に見えている。又、安永三(1774)年の『上毛伝説雑記 同拾遺」「総社記 | には『日本書記』田道大蛇譚を引用して、田道の霊が大蛇に変じて蝦夷を報復した後「蒼海ノ風呂 沼へ出テ」生贄を食した。その際の生贄を祭ったのが、化粧薬師であるという。現在の町並の祖 形は蒼海城、八日市場城等の構築の頃にほぼ完成していると思われる。



1	総社二子山古墳	4
1	#25.47 .57 111.65.46	4

2 愛宕山古墳

3 紅葉山古墳

4 宝塔山古墳

5 蛇穴山古墳

6 大小路山古墳

7 遠見山古墳

8 薬師様古墳

9 丁間稲荷山古墳

10 王山古墳

11 弥勒山古墳

12 山王廃寺跡

13 上野国分寺跡

14 上野国分尼寺跡

15 村東遺跡

16 国分境遺跡

17 国分寺中間地域遺跡

18 鳥羽遺跡

19 草作遺跡

20 北原遺跡

21 産業道路西遺跡

22 産業道路東遺跡

23 推定東山道跡

24 推定上野国府域

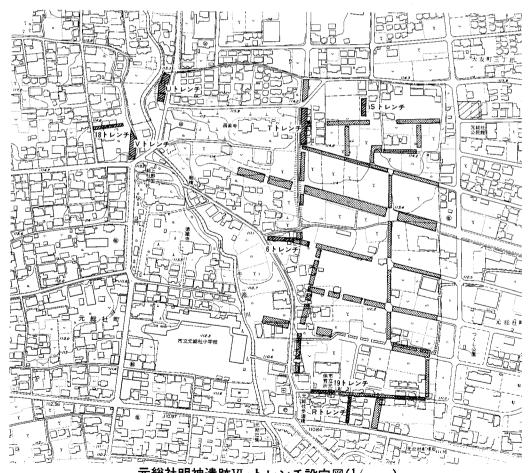
III 発掘調査の経過

1 調 查 方 法

元総社明神遺跡の発掘調査は、今回で6年次を数える。市の区画整理事業に先立つ調査のため 区画整理一課との確認事項により、道水路部分を調査対象地としている。今年度は、図のように 8本のトレンチ調査を実施した。

トレンチの呼称は57年度からの連番を用い、道水路部分に沿って東西トレンチを算用数字、南 北トレンチをアルファベットで呼称した。従って以前に発掘したトレンチと同じ道路の場合には それと同じ名称がつけられている。

調査区の設定にあたっては、測量会社に委託し、トレンチ内に座標杭を設定、国家座標に位置づけた、因みに、18トレンチ東杭を例にとると座標杭は国家座標系第IX系の X=+43,110 km、Y=-71,121kmと表わされる。



元総社明神遺跡Ⅵ トレンチ設定図(¹/_{5,000})

2 調査の経過

今年度の調査は、昭和62年 5 月 6 日から12月15日までの7 ケ月半にわたり実施された。トレンチ数 8 本、面積 1.277 m²である。 (以下トレンチは trと略す)。

4月25日に現場担当者2名、作業員16名が集まり、器材を運搬し、事務所をつくるなど発掘調査の準備が始まった。

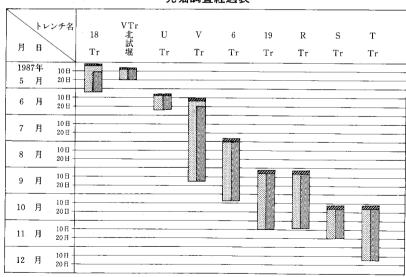
そして5月6日より18trの調査開始。東半分は土砂崩落等の安全面に気を配りながら、地表面下約3mまで掘り下げたため、やや予定が延び、もう一つの試掘トレンチと共に6月5日に埋めもどして調査終了。

6月4日からは牛池川を挟むUtrとVtrの調査に入った。Vtrは台地縁辺上にあり、住居址、溝、 土 塩等の遺構が複雑に重なったりして調査に手間取った。また梅雨時の頃でもあり、特に大溝の 湧水やたまり水の対策にも時間をとられ、思うような進捗が図れなかった。

結局次の6 trに入ったのは7 月下旬であり、19 tr とR tr の調査に入ったのは、予定を1 ケ月遅れる9 月2 日であった。

この調査は、11月の初旬には終了する計画になっていたが、この地区特有の土層の見分けにく さ等もあって、調査の遅れが気になるところであった。そこで、一層の進捗を図るため、契約変 更を機会に作業員数を増やし、19trとRtr以後の発掘に備えた。

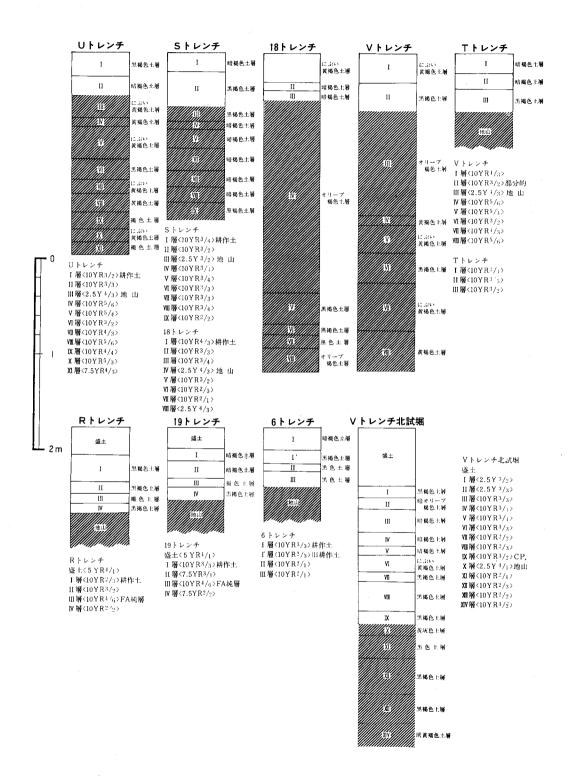
最後のTtr、Strは家屋移転を待って、10月12日に重機が入った。しかしここも予想以上の住居 址数であり、加えて秋から初冬にかけての時期で、寒さや日没時刻などの条件も重なって、大変 だったが、12月15日に終えることができた。



発堀調査経過表

表土堀削 堀り下げ・精査 実測写真

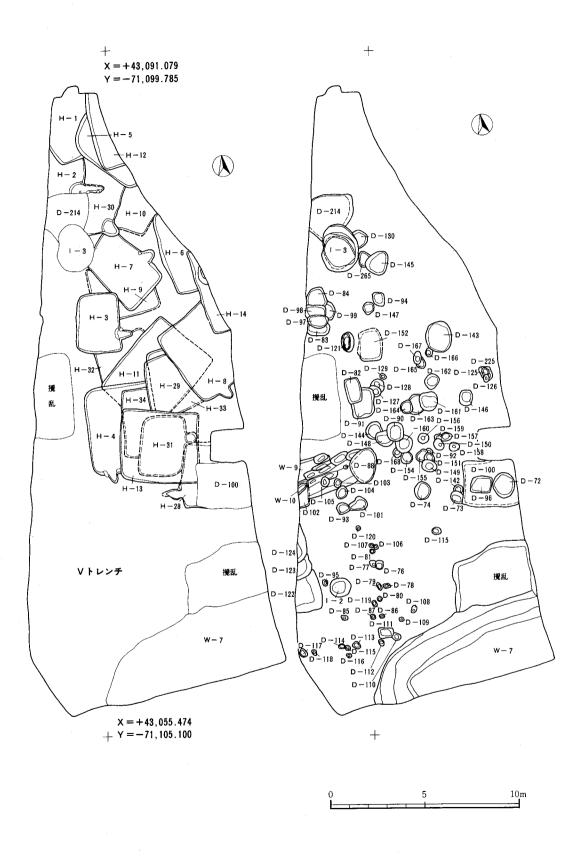
Ⅳ 基本層序

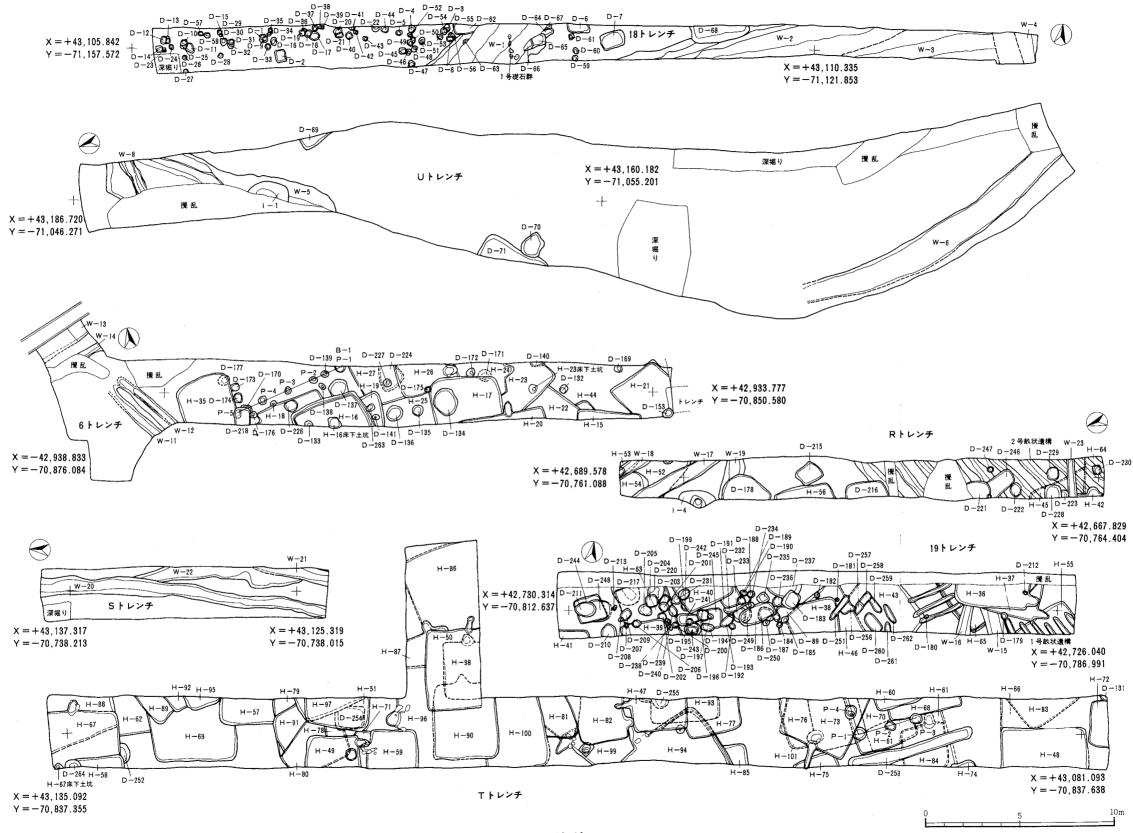


V 遺構と遺物

1 全体の概観

本年度調査で確認された、遺構総数は住居址101軒、土坑265基、溝状遺構23条、建物址 3棟、 井戸址4基、畝状遺構2面であった。それらの時期的変遷について、各地域ごとに概観してみた い。牛池川西岸地域では、台地上を東西方向に横断する18trと、その斜面部にかかるVtrで調査 を行ったが、台地上面部はすでに旧表土の削平が著しく、現地表下10cmで本台地を構成する水成 堆積の硬質土層に到達してしまった。そのため、古代以前の遺構は殆ど削平され検出されなかっ た。この傾向は台地斜面部にかかるVtrについても同様のことが指摘され、トレンチ内でも台地 上面に位置する部分ではすぐに地山が検出され古代以前の遺構はすでに削平されていた。ところ が、調査が台地斜面部に移行するにつれ黒色腐食土の堆積があつくなり、その層を切り込んで平 安期の住居址が多数検出され、緑釉陶器や石製丸鞆の破片等、律令期の貴重な遺物も出土した。 またこの地区は中世には本県最古とされる蒼海城が築かれているが、本調査区内でも関連性を持 つ5条の溝を確認することができた。この台地と川を隔てて対峙する位置の崖線直上をUtrで調 査できたが、平安時代の溝を一条検出できたのみで、あとは中世~近世の溝、土坑を検出したの みである。牛池川氾濫原の東岸では6trで昨年度の西側延長部分を調査している。ちょうど大溝 の立ち上がり部分よりも西側であり、もしも、この大溝が国衙の外域を示すものであるならば、 その内側にあたる部分である。しかし、大溝に伴ったピット等、栅列とおぼしきものも検出され ず、内区の遺構配列にも企画性は認められなかった。このトレンチでは古墳~平安期の住居址を 15軒、掘立柱建物址を1棟検出した。又、昨年度調査している八日市場城の東西方向の溝に関して は、道路工事ですでに破壊されており検出できなかった。県道前橋安中線のすぐ北側のRtr の調 査で、FAに埋没した畑の址を検出した。従来の調査では、集落はここより北側のやや微高地で切 れるものと考えられていたが、畑を切って住居址が数軒調査され、集落がもっと南へのびること が明らかになった。このトレンチの北側では、畑の畝状遺構方向と同一方位の溝状遺構を検出し ており、これらの方位がすべて、昨年度のNtr で検出された、FA下の集落の外域を画すると考 えられる大溝の方向と同じであり、この地区に大規模な地割が画されていることが明らかになっ た。Rtrに直交するかたちで北西に位置する部分を19trで調査した。西半分は多数の土坑が検出 され住居址の多くはこれにより破壊されていた。東側では平安期の住居址に破壊されるかたちで、 畑の址が検出された。FAも検出されたが状態が悪くセカンダリーな可能性が高い。しかし、方向 的にはFA下と同一方向を示す。Ttrでは昨年度のRtrの南延長部分を調査した。昨年に比べ残り 具合がよく平安期と古墳時代の2面調査を余儀なくされた。複雑に重なりあい。総数47軒の住居 址を検出した。Strではトレンチ内を北から南へと縦断する三条の溝を検出している。いずれも、 水流の痕跡が明瞭で、やや蛇行ぎみであり、平安時代の摩滅した土器片が出土している。





2 住 居 址

H-1号住居址 (fig 1-1、PL 1-1·2·4、23-1·2)

遺構 Vトレンチの北隅B-1、C--グリッドで検出した。西側の殆どが調査区域外で、東側もH-2、5、12によって破壊されていて、南西コーナー付近を検出したのみである。主軸方位は $N-27^\circ$ --Wを測る。壁はほば垂直に掘り込まれており、壁高は確認面で13cmを測る。床面は全体的に平坦で、黒褐色土を貼床しており、標高112.83mに位置する。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内では検出されなかったが、トレンチ北端において凝灰岩切石と、焼土がまとまって出土したので、調査区を拡張したが、やはり検出できなかった。おそらく、北壁中央部付近に、付されていたと、推定される。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域から出土している。大きい破片は、床面近くから出土したものが多い。しかし、接合できたものは少なかった。

出土遺物 遺物は総数444点出土している。殆どが、カワラケ類の破片であったが、鉄滓、釘状の鉄器、灰釉陶器、石製模造品、瓦片等も出土している。

H-2号住居址 (fig 1-2、PL 1-6)

遺構 Vトレンチ、 $C-1\cdot 2$ グリッドで検出した。西側の殆どが調査区域外であり、北側はH-1、南側はD-214によって破壊されていて、僅かに竈付近のみ調査できた。主軸方向は、N-8°-Eを測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高は確認面で8 cmを測る。 床面 は 標高 112.40 mに位置し、ほぼ平坦で、黒褐色土を貼床していた。 周溝、ピット等は確認されなかった。

電 (fig 1 - 3、PL 1 - 5·7) 東壁中央部に位置する。残存状態は、右袖入口部付近を D - 214 に破壊されている他は比較的良好で、天井部も、完全には崩落していなかった。 焚口部、燃焼部、天井部、煙道部ともに、凝灰岩切石を用いて、粘土で固めて構築しており、壁面は、良く焼けていた。おそらく、 焚口部を鳥居状に組んで、燃焼部の天井も凝灰岩切石で覆った、石組竈であったと推定される。 焚口幅72cm、奥行187cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がって煙道部へと至る。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域から出土しているが、特に竈付近に集中して出土している。竈 内からカワラケ、酸化焰焼成の須恵器等が出土している。

出土遺物 遺物は総数733点出土しているが、接合できたものは少なかった。特殊なものに鉄滓、 鉄器、灰釉陶器、瓦片、見込み部に鳥の絵が線刻されているカワラケ等がある。又、覆土上層か らは、元豊通寳が出土している。遺物は11世紀代に比定される。

H-3号住居址 (fig1-4、PL1-8・9)

遺構 Vトレンチ、 $E-1\cdot2$ 、F-1グリッドで検出した。 $H-7\cdot9\cdot32$ 、 $D-121\cdot147\cdot152$ と重複しており、そのいずれよりも新しい。平面形は南北に長い長方形で、 $2.2m\times3.1m$ の規模を有し、主軸方位を $N-83^\circ-W$ にもつ。壁は、ほぼ垂直に掘り込まれており、現存高4 cmを測る。床面は標高113.28mに位置し、ほぼ平坦で、部分的に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

電 (fig 1 - 5、PL23 - 5) 東壁やや南寄りに位置する。残存状態は悪く基底部分を僅かに調査しえたのみであった。焚口部左袖に、凝灰岩切石が一石残っていた。構築状況は、掘り方内に若干の粘土を用いて構築しており、燃焼部奥には偏平な円礫を用いた支柱がある。燃焼部は馬蹄形に壁外へ張り出し、焚口幅60cm、奥行92cmを測り、若干焼け込んでいる。煙道部は殆ど削平されているが、火床面から、約53°の角度でたちあがる。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域から出土している。覆土が無かったため、すべて床面直上であった。

出土遺物 総数214点出土している。黒色の蛇文岩製と思われる石製丸鞆は、竈付近より出土している。又、滑石破片、灰釉陶器、鉄滓、鉄釘、瓦類も出土している。

H-4号住居址 (fig 2-1、PL 1-10)

遺構 Vトレンチ、 $F-1\cdot 2$ 、 $G-1\cdot 2$ グリッドに位置する。 $H-11\cdot 13\cdot 29\cdot 34$ 、 $D-82\cdot 88\cdot 90\cdot 91\cdot 127\cdot 128\cdot 144\cdot 148\cdot 161\cdot 163\cdot 164$ と重複しており、H-13よりも古くその他のいずれよりも新しい。平面形は南北に長い長方形で、 $3.9\,\mathrm{m}\times 4.3\,\mathrm{m}$ の規模を有し、主軸方位を $N-0^\circ-E$ にもつ。壁は 68° の角度で掘り込まれており、壁高 $45\,\mathrm{cm}$ を測る。床面は標高 $113.18\,\mathrm{m}$ に位置し、ほぼ平坦で、部分的に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 (fig 2 - 2) 南壁西側コーナー付近に位置する。地山の硬質水性ローム層を掘り込んで、馬蹄形に壁外へ大きく張り出す。東袖部付近を若干削平されていた他は、残存状態は比較的良好であった。焚口部の右袖は、細長い円礫を用いての袖の補強材とし、それに粘土を貼って竈壁を構築している。左袖も、小円礫が一石残っていた。燃焼部の最深部には、支脚に用いたと推定される、粘土ブロックの集積が検出された。煙道部は、約 66°の角度で立ち上がるが上部の大半は、削平されていた。本トレンチで、地山を掘り込んで竈を構築していたのは、本住居址と、H-28のみである。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域から出土しているが、竈周辺に特に集中していた。竈流出土内から、カワラケ皿、羽釜破片等が出土している。

出土遺物 全体に、カワラケ、羽釜の類が多い。特殊なものに、灰釉陶器、鉄滓、瓦、鉄器、銅滓、石器、黒曜石のフレイク、炭化した種等が出土した。又、覆土上層から、寛永通寳が4枚出土している。

H-5号住居址 (fig 2-3、PL 2-3)

遺構 Vトレンチ、B-1、 $C-1 \cdot 2$ グリッドに位置する。 $H-1 \cdot 12$ と重複しており、H-1よりも新しく、H-12よりも古い。平面形は東半分が未調査であるが、現状で、隅丸方形を呈し、南北3.7m、主軸方位をN-44° -Wにもつ。壁は、59° の角度で立ち上がり、壁高10cmを測る。床面は標高112.68mに位置し、ほぼ平坦で、部分的に掘り返した土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には、検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 総数559点出土している。大半はカワラケ類の破片であった。主なものに、緑釉陶器 椀、灰釉陶器、白磁、瓦、鉄釘、鉄滓、土錘破片等がある。

H-6号住居址 (fig 2-4、PL 2-4)

遺構 Vトレンチ、 $D-2\cdot3$ 、 $E-2\cdot3$ グリッドに位置する。重複関係はH-10よりも新しく、H-14に先行する。平面形は東側大半が未調査であるが、現状で、方形を呈し、南北4.3m、主軸方位を $N-9^\circ-E$ にもつ。壁は、ほば垂直に掘り込まれており、壁高10cmを測る。床面は標高113.78mに位置し、ほば平坦で、部分的に掘り返した土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

置 調査区域内には、検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。貼床下からも、多く出土している。

出土遺物 総数685点出土している。大半は、酸化焰焼成の須恵器破片であったが、釘状鉄器、 鉄滓、緑釉陶器椀、灰釉陶器、白磁等も出土している。

H-7号住居址 (fig 2-5、PL 2-5・6・7)

遺構 Vトレンチ、 $D-1\cdot2$ 、 $E-1\cdot2$ グリッドに位置する。中央部をD-145に破壊され、西側は、H-30、1-3 に破壊されている。この他、H-9 、 $D-130\cdot152$ とも重複していた。平面形はやや歪んだ長方形を呈し、東西2.6m、南北4.0m、床面面積10.4m、主軸方位を $N-41^\circ-E$ にもつ。土層は乱れているが、大きく3層に分類された。壁は約 76° の角度で立ち上がり、壁高12cmを測る。床面は標高112.84mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

電 (fig 2 - 6、PL 2 - 8) 北壁やや東よりに検出された。煙道部を削平されている他は、比較的良好な残存状況を示し、燃焼部を壁外に突出させていた。両袖に、転石を据えて補強材とし、粘土で、固めて構築していた。天井部は完全に崩落しており、焼土ブロックが、灰層上に、確認されている。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域から、出土している。

出土遺物 殆どは、酸化焰焼成の須恵器破片であったが、鉄鏃、鉄滓、灰釉陶器、瓦片、等も 出土している。

H-8号住居址 (fig 3-1、PL 3-1⋅2⋅3)

遺構 Vトレンチ、 $E-2\cdot3$ 、 $F-2\cdot3$ グリッドに位置する。住居東側部分を調査区域外に置く。東北部をH-14に破壊されており、この他、 $H-11\cdot33$ 、 $D-126\cdot143\cdot146\cdot151\cdot166$ と重複している。平面形は正方形を呈すと推定され、東西 $3.7\,\mathrm{m}$ 、南北 $4.3\,\mathrm{m}$ 、主軸方位を $N-30\,\mathrm{m}$ 一Wにもつ。土層は、ほぼレンズ状堆積しており、大きく $3\,\mathrm{m}$ 層に分類された。壁は、約 $66\,\mathrm{m}$ の角度で立ち上がり、壁高 $14\,\mathrm{m}$ を測る。床面は標高 $112.78\,\mathrm{m}$ に位置し、ほぼ平坦で全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 (fig 3 - 2、PL 2 - 10) 南壁西隅付近より検出された。煙道部を完全に削平されている。 残存状況は比較的良好で、燃焼部を壁外に突出させていた。焚口部に石を据えていたと思われる 痕跡があり、粘土で固めて構築していた。天井部は崩落していたが、焼土ブロックは、少なかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域から出土しており、床下からも多く出土した。

出土遺物 総数724点出土しており、殆どが酸化焰焼成の須恵器破片であった。特殊なものに、 鉄器、銅滓、鉄滓、灰釉陶器、瓦類等がある。中でも、覆土中より出土した、白磁の碗は、10世 紀代に比定されるもので、玉縁の口縁を呈すと思われる。

H-9号住居址 (fig 3-3、PL 3-5・6)

遺構 Vトレンチ、D $-1\cdot2$ 、E $-1\cdot2$ グリッドに位置する。住居西南部分をH-3に破壊され、竈上面をD-145に削平されている。この他H-7、D $-147\cdot152$ 、と重複している。平面形はやや歪んだ長方形を呈し、東西3.3m、南北2.8m、主軸方位をN-0°-Eにもつ。土層はほぼレンズ状堆積しており、大きく3層に分類された。壁は、約63°の角度で立ち上がり、壁高25cmを測る。床面は標高113.10mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

電 (fig3-4、PL3-4) 北壁の中央よりやや西側に、粘土を使用して構築されていた。煙道部は完全に削平されており、残存状況は悪かった。燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出し、火床面から、 44° の角度で立ち上がり煙道部に至る。天井部は崩落しており、灰層上に、焼土ブロックが、若干検出された。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 総数790点出土しており、殆どがカワラケ類、羽釜等の酸化焰焼成須恵器破片であった。 特殊なものに、白磁碗小破片、銅滓、鉄滓、鉄器、土錘、灰釉陶器、瓦類、馬歯等があった。 H-10号住居址 (fig 3-5、PL 3-7・8)

遺構 Vトレンチ、C-2、D-2、グリッドに位置する。住居北半分が調査区域外で、西半分は、H-5・30に破壊されている。平面形は方形を呈し、現存長、東西1.7m、南北2.2m、主軸方位をN-26° -Eにもつ。土層は、ほぼレンズ状堆積しており、大きく 3 層に分類された。壁は、約 72° の角度で立ち上がり、壁高35cmを測る。床面は標高113.00mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 総数403点出土している。大半は、カワラケ類、羽釜等の酸化焰焼成須恵器破片であったが、鉄器、鉄滓、灰釉陶器、瓦類も、出土している。

H-11号住居址 (fig 4-1、PL 3-9)

遺構 Vトレンチ、 $E-2\cdot3$ 、 $F-1\cdot2\cdot3$ 、G-2グリッドに位置する。住居北側がH-8で、東南隅をH-13で破壊されている。平面形は南北に長い長方形を呈し、東西 $3.5\,\mathrm{m}$ 、南北 $4.9\mathrm{m}$ 、主軸方位を $N-50^\circ-E$ にもつ。土層は、ほぼレンズ状堆積しており、大きく $4\,\mathrm{m}$ に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高 $19\mathrm{cm}$ を測る。床面は標高 $113.04\mathrm{m}$ に位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

電 重複住居により破壊され、検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土しており、床面下からも出土している。

出土遺物 出土総数610点のうちの殆どが、酸化焰焼成須恵器の破片であったが、特殊なものも 出土している。特に、白磁碗の破片は貴重なものである。このほか、灰釉陶器、フイゴ羽口、鉄 滓、獣骨、陶器等があり、床面下からは、石鏃の出土があった。

H-12号住居址(fig 4-2、PL23-7)

遺構 Vトレンチ、B-1、C $-1\cdot 2$ グリッドに位置する。住居東側大部分が調査区域外であり、H-5 と重複していた。平面形は現状で方形を呈し、東西1.1m、南北4.1m、主軸方位をN-74°-Eにもつ。土層は、ほぼレンズ状堆積しており、大きく 3 層に分類された。壁は、約55°の角度で立ち上がり、壁高21cmを測る。床面は標高112.60mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

置 調査区域内では検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数59点出土した。大半が、酸化焰焼成の須恵器破片であった。

H-13号住居址 (fig 4-3、PL 3-10)

遺構 Vトレンチ、 $F-2\cdot3$ 、 $G-2\cdot3$ グリッドに位置する。住居東側の一部が調査区域外にかかる。重複関係は、 $H-31\cdot33\cdot34$ 、 $D-90\cdot92\cdot148\cdot149\cdot151\cdot154\cdot155\cdot156\cdot157\cdot158\cdot159\cdot160\cdot161\cdot163\cdot164\cdot168$ としていた。平面形は東西方向に長い長方形を呈し、規模は、東西4.1m以上、南北3.7m、主軸方位をN-78°-Wにもつ。土層は、ほぼレンズ状堆積しており大きく 3 層に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高35cmを測る。床面は標高113.20mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

調査区域内では検出されなかった。おそらく、東壁に付されていると推定される。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数240点出土した。大半は、酸化焰焼成の須恵器破片であったが、重要なものに鉄器の破片があった。

H-14号住居址 (fig 4-4、PL23-8・9)

遺構 Vトレンチ、D-3、E-3グリッドに位置する。住居東側の大半は調査区域外にかかり、僅かに、西壁付近を検出したに過ぎない。 $H-6\cdot8$ 、と重複しており、それらよりも新しい。平面形は方形を呈すと推定され、規模は、南北4.6m、主軸方位をN-19°-Wにもつ。土層は、ほぼレンズ状堆積していた。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高19cmを測る。床面は標高112.60mに位置し、ほぼ平坦で、部分的に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内では検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数120点出土している。大半は、酸化焰焼成の須恵器破片であったが、鉄器 馬骨等も出土している。

H-15号住居址(fig 4 - 5、PL24-1・2)

遺構 6トレンチ、B-7、B-8グリッドに位置する。住居北側の大半は調査区域外にかかり、僅かに、南壁付近のみ調査した。 $H-21\cdot22\cdot44$ と重復しており、それらよりも新しい。平面形は方形を呈すと推定され、規槻は、東西3.3m、主軸方位を $N-12^\circ-W$ にもつ。土層は、ほぼレンズ状堆積しており、大きく4層に分類される。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高33cmを測る。床面は標高111.90mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内では検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数109点であった。大半は酸化焰焼成の須恵器破片であった。

H-16号住居址 (fig 4-6、PL 4-1・2・3)

遺構 6トレンチ、A-4、 $B-3\cdot 4$ 、グリッドに位置する。住居南側半分は調査区域外のため完掘できなかった。 $H-18\cdot 19$ 、D-137よりも新しく、 $D-133\cdot 263$ より先行する。平面形は方形を呈しており、規模は、東西3.6m、南北2.2m以上を測り、主軸方位をN-79°-Wにもつ。土層は、レンズ状堆積しており、大きく5層に分類される。壁は67°で立ち上がり、壁高48cmを測る。床面は標高111.85mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝は、調査範囲内では全周しており、ピットは確認されなかった。

竈 調査区域内では検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数600点出土している。大半は、酸化焰焼成の須恵器であったが、棒状鉄器、 鉄滓、骨片等も出土している。

H-17号住居址 (fig 4 - 7、PL 4 - 5)

遺構 6トレンチ、A-5・6、B-5・6、グリッドに位置する。住居南側半分は調査区域外であり、さらに、H-20に破壊されているため、形状は不明であった。 $H-23\cdot24\cdot25\cdot26$ 、 $D-171\cdot172$ よりも新しく、H-20、 $D-134\cdot195$ よりも先行する。規模は、東西3.5m、南北2.3m以上を測り、主軸方位をN-0° — Eにもつ。土層は、レンズ状堆積しており、大きく2層に分類される。壁はほぼ、垂直に掘り込まれており、壁高15cmを測る。床面は標高112.10mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内では検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数952点にのぼっている。大半は、酸化焰焼成の須恵器の破片であったが、 鉄器類も、6点出土している。

H-18号住居址 (fig 5-1、PL 4-6)

遺構 6トレンチ、A-3、 $B-3\cdot 4$ 、グリッドに位置する。住居南側の大部分は調査区域外、H-16に破壊されているために調査できなかった。H-16、 $D-176\cdot 219\cdot 226$ と重復しており、それらのいずれよりも古い。規模は、東西3.5m、南北は、調査区域内0.6mを確認している。主軸方位はN-11°-Wにもつ。土層は、レンズ状堆積しており、大きく 4 層に分類される。壁は約69°の角度で立ち上がり、壁高15cmを測る。床面は標高112.12mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 西壁北側隅部付近にて検出された。南半分は調査区域外のため、未完掘である。地山の黄

褐色ローム層を掘り込んで構築しており、焼きは弱く、焼土ブロックは少なかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は僅かに総数30点出土したのみである。

H-19号住居址 (fig 5-2、PL 4-7・8)

遺構 6トレンチ、A-4、B-4、グリッドに位置する。住居西側はH-16によって破壊されており、南側大部分は調査区域外のために調査できなかった。重複関係はH-27より新しく、H-16、D-141よりも古い。規模は、調査区域内で東西0.9m、南北1.9mを確認しているに過ぎない。主軸方位はN-1°-Wにもつ。土層は、レンズ状堆積しており、大きく2層に分類される。壁は約65°の角度で立ち上がり、壁高21cmを測る。床面は標高111.99mに位置し、ほぼ平坦であった。貼床はなく、周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には確認されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数130点出土している。殆どは、酸化焰焼成の須恵器の破片であったが、鉄器、鉄滓等も若干出土している。

H-20号住居址 (fig 5-3、PL24-5)

遺構 6トレンチ、B-5・6・7グリッドに位置する。南側の大部分を調査区域外におく。 重複関係はH-17・22・23と切り合う。規模は、東西4.6m、南北は、調査区域内0.6mを確認している。主軸方位はN-11°-Wにもつ。土層は、ほぼレンズ状堆積しており、大きく3層に分類される。壁は67°の角度で立ち上がり、壁高23cmを測る。床面は標高112.05mに位置し、ほぼ平坦であった。床面は部分的に貼床が、施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。

電 (fig 5 - 4) 北壁中央部やや東よりに確認された。残存状況は、比較的良好で、燃焼部は、馬蹄形に壁外に張り出す。天井部は、崩落しており、焼土ブロックは少なかった。又、煙道部は全く削平されていた。構築状況は、地山のローム層を掘り込んで、若干の粘土を用いており、焚口部幅52cm、奥行88cmを測り、煙道部へは、67°の角度で立ち上がる。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、117点出土している。殆どは、土師器の小破片であった。

H-21号住居址 (fig 5-5、PL 4-9·10)

遺構 6トレンチの東端、A-7・8、B-7・8グリッドに位置する。南側の一部を調査区域外におき、東は昨年度調査トレンチにより破壊されていた。昨年度の段階ではD-153は確認されていたが、本住居址の存在は未確認であった。本年度調査区のトレンチ東壁直下の位置には昨年度W-36の西側立ち上がりがあり、同溝によって本住居東壁は破壊されていることになる。重

複関係はこの他、H-15、D-153にも切られている。規模は、東西 $2.7\,\mathrm{m}$ 、南北は、調査区域内 $1.7\,\mathrm{m}$ を確認している。主軸方位は $N-64\,^\circ$ —Eにもつ。土層は、ほぼ水平に堆積しており、大きく $2\,\mathrm{m}$ 層に分類される。壁は約 $55\,^\circ$ の角度で立ち上がり、壁高 $18\,\mathrm{cm}$ を測る。床面は標高 $112.02\,\mathrm{m}$ に位置し、ほぼ平坦であった。床面は部分的に貼床が、施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。

置 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数136点出土している。殆どは、土師器の小破片であった。

H-22号住居址 (fig 5-6、PL 5-1・2)

遺構 6トレンチ、 $A-6\cdot7$ 、 $B-6\cdot7$ グリッドに位置する。僅かに住居北壁の一部を検出したのみであり、周囲はトレンチ南壁、 $H-15\cdot20\cdot23$ により囲まれていて、三角形を呈している。重複関係はこの他、H-44が、本住居の床面下に構築されていた。規模は、現存長、東西3.5m、南北2.2mを確認しており、主軸方位をN-42°-Wにもつ。土層は、ほぼレンズ状に堆積しており、大きく3層に分類される。壁面はほぼ、垂直に掘り込まれており、壁高15cmを測る。床面は標高112.02mに位置し、ほぼ平坦であった。床面は部分的に貼床が、施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、76点あった。

H-23号住居址 (fig 5-7、PL 5-3・4・5・6)

遺構 6トレンチ、 $A-6\cdot7$ 、 $B-6\cdot7$ グリッドに位置する。住居北側の一部を調査区域外に置く。重複関係は、 $H-17\cdot20\cdot24$ 、D-172に破壊されており、H-22、 $D-140\cdot171$ より後出する。規模は、東西3.2m、南北2.5mを測り、主軸方位をN-32°-Wにもつ。土層は、ほぼレンズ状に堆積しており、大きく5層に分類される。壁面はほぼ、垂直に掘り込まれており、壁高15cmを測る。床面は標高111.95mに位置し、ほぼ平坦であった。床面は部分的に貼床が、施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、90点あった。殆どは、土師器の小破片であった。

H-24号住居址 (fig 6-1、PL 5-7)

遺構 6トレンチ、A―6、B―6グリッドに位置する。住居北側―部を調査区域外に置き、

東南部分をH-17、 $D-171\cdot 172$ によって破壊されていた。重複関係は、このほかH-23も切っている。規模は、東西2.7m、南北1.6m以上を測り、主軸方位を $N-90^\circ-W$ にもつ。土層は、ほぼ水平に堆積しており、大きく 3層に分類される。壁面は 61° の角度で立ち上がり、壁高17cmを測る。床面は標高112.13mに位置し、平坦であった。床面はほぼ全面的に貼床が、施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。

電 (fig 6 - 2、PL 5 - 8) 東壁中央よりやや南よりの位置に、粘土を使用して構築されていた。燃焼部は、馬蹄形に壁外に張り出す。天井部は崩落し、煙道部は、削平されているが、火床面から、約37°の角度で立ち上がる。焚口部幅64cm、奥行62cmを測る。

遺物出土状態 遺物は竈周辺に集中して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、80点出土している。殆どは、土師器の小破片であったが、工具状を 呈す鉄器が出土している。

H-25号住居址 (fig 6-3、PL 5-5)

遺構 6トレンチ、 $B-4\cdot5$ グリッドに位置する。遺構は、南側を調査区域外に置き、周りを、 $H-17\cdot19\cdot26\cdot27$ 、D-175によって破壊されており、住居本来の壁面を持たない。さらに、床面中央には、 $D-135\cdot136$ が深く掘り込まれ、従来の面影を全く残さない。規模は残存長、東西2.7m、南北1.7mを測る。土層は、ほぼ水平に堆積しており、大きく2層に分類される。床面は標高112.23mに位置し、ほぼ平坦であった。床面はほぼ全面的に貼床が施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、209点出土している。殆どは、土師器の小破片であった。

H-26号住居址 (fig 6-4、PL 5-10)

遺構 6トレンチ、A-5、B-5グリッドに位置する。遺構は、北側が調査区域外であり、東南部をH-17、D-175によって破壊されており、 $H-24\cdot25\cdot27$ 、D-224よりも後出する。平面形は、方形と推定され、規模は、東西2.7m、南北1.9mを測る。土層はレンズ状堆積しており、大きく4層に分類される。床面は標高112.11mに位置し、ほぼ平坦であった。床面はほぼ全面的に貼床が施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位をN-9°-Wにとる。

電 (fig 6 - 5) 東壁南側の位置に、凝灰岩の加工材及び粘土と黒色土を使用して構築されていた。天井部は崩落しており、壁の焼けは強い。燃焼部は、馬蹄形に壁外に張り出し、中央やや奥に支脚の痕跡と思われる窪みを持つ。焚口部幅50cm、奥行76cmの規模を有し、右袖部には、四角に整えた凝灰岩の切石が検出された。焚口部にも、破片が三石残っており、鳥居状石組竈であ

った可能性をもつ。煙道部はすでに削平されていて、全く消失しているが、火床面から44°の角度で立ち上がった位置から煙道部になる。掘り方は、ほぼ同型で、袖石の据え痕が認められた他は特別な遺構は検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は竈周辺に集中して出土した。

出土遺物 遺物は総数169点出土した。殆どは、土師器の小破片であったが、鉄滓も若干出土した。

H-27号住居址 (fig 6-6、PL 6-2・3)

遺構 6トレンチ、 $A-4\cdot5$ 、 $B-4\cdot5$ グリッドに位置する。遺構は、北側が調査区域外であり、東側をH-26、D-227、西側をH-19によって破壊されている。先行して、H-25、D-224がある。平面形は、方形と推定され、規模は、残存部分で、東西2.3m、南北4.0mを測る。壁は殆ど垂直に掘り込まれており、壁高23cmを測る。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく2層に分類される。床面は標高112.04mに位置し、ほぼ平坦であった。床面は殆ど全面的に貼床が施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位をN-79° -Eにとる。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、382点出土している。殆どは、土師器、須恵器の小破片であったが、 馬歯が出土している。

H-28号住居址 (fig 6-7、PL 6-5)

遺構 Vトレンチ、 $G-2\cdot3$ 、H-3グリッドに位置する。遺構は、東側が一部調査区域外にかかり、中央部から南東部にかけてを $D-72\cdot73\cdot96\cdot100\cdot142$ によって破壊されており、H-13によって切られている。平面形は、方形と推定され、規模は、南北3.4m、東西は残存部分で、最高3.6mを測る。土層はほぼ水平に堆積していた。床面は標高112.62mに位置し、ほぼ平坦であった。貼床、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位をN-56°-Wにとる。

竈 (fig 6 - 8、PL 6 - 4) 西壁南隅に検出された。地山の硬い水生砂質土層を掘り込んで、壁外に構築されていた。右袖には、凝灰岩切石が、一石残っており、炊口部を鳥居状に組んだ石組竈であったと推定される。燃焼部の中央部には、支脚に用いられた、河原石が据えられており、火床面からは、緩やかな角度で煙道部へと移行する。焼け込みは、弱く、焼土は殆ど確認されなかった。煙道部は、先ばそりの馬蹄形を呈し、先端を、D-74によって切られている。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、22点出土したのみである。殆どが、酸化焰焼成の須恵器小破片であった。

H-29号住居址 (fig 7-1)

遺構 Vトレンチ、 $F-2\cdot3$ グリッドに位置する。遺構は、北東がH-8によって、南側は、H-13によって破壊されており、床面下に、 $H-4\cdot11\cdot29\cdot33\cdot34$ が構築されている。平面形は、方形と推定され、規模は、南北2.9m、東西は残存部分で、最高2.7mを測る。土層はほぼ水平に推積していた。床面は標高112.80mに位置し、ほぼ平坦であった。 貼床は部分的に施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位はN-3°-Wにとる。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、203点出土した。釘状鉄器が出土した。

H-30号住居址(fig 7-2、PL 3-7・8)

遺構 Vトレンチ、 $C-1\cdot 2$ 、 $D-1\cdot 2$ グリッドに位置する。遺構は、北側をH-5 によって、西側をH-2、I-3、D-214で、破壊されていた。先行して、 $H-7\cdot 10$ 、D-130が構築されていた。平面形は、長方形と推定され、規模は、南北2.4m、東西1.4m 測る。壁は 70° の角度で立ち上がり、壁高38cmを測る。土層はほぼ水平に堆積していた。床面は標高112.98mに位置し、ほぼ平坦であった。貼床は部分的に施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位は $N-87^\circ-W$ にとる。

竈 (fig 7 - 3、PL 6 - 6) 東壁中央部に位置する。燃焼部を円形に壁外に張り出す。焼けは弱く、残り具合も悪い。煙道部は全く失われている。焚口部幅80cm、奥行102cmの規模を有し、44°の角度で立ち上がり煙道部へと至る。壁面は若干、粘土を用いている。

遺物出土状態 遺物は竈周辺に集中して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、235点出土している。殆どは、酸化焰焼成の須恵器破片であったが、 釘状の鉄器、鉄滓等が出土している。

H-31号住居址 (fig 7-4、PL 6-7)

遺構 Vトレンチ、 $F-2\cdot3$ 、 $G-2\cdot3$ グリッドに位置する。遺構は、H-13の床面下で検出された。 $H-28\cdot34$ よりは新しい。平面形は、長方形で、規模は、残存長南北2.3m、東西2.9mを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高4cmを測る。土層は水平に堆積しており、床面は標高113.00mに位置し、平坦であった。貼床は部分的に施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位はN-82°-Wにとる。

竈 (fig 7 - 5) 東壁のほぼ中央部に位置する。燃焼部を円形に壁外に張り出す。焼けは弱く、残り具合も悪い。焚口部幅50cm、奥行60cmの規模を有し、44°の角度で、立ち上がり、消失している煙道部へと至る。壁面は若干の粘土を用いている。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、165点出土した。殆どは、酸化焰焼成の須恵器小破片であったが、棒状の鉄器、刀子状鉄器、銅滓、鉄滓、馬骨等が出土している。

H-32号住居址 (fig 7-6、PL 6-8)

遺構 Vトレンチ、 $F-1\cdot 2$ 、E-2グリッドに位置する。遺構は、南側の殆どをH-11号住居に破壊されており、北西隅部も、D-152で切られている。平面形は、方形で、規模は、残存長南北2.1m、東西2.7mを測り、壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高20cmを測る。土層は殆ど水平に堆積していた。床面は標高113.10mに位置し、ほぼ平坦であった。貼床は部分的に施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位は $N-85^\circ-E$ にとる。

電 調査区域内には、検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、168点出土している。殆どは、酸化焰焼成の須恵器小破片であったが、 鉄器類も、若干出土している。

H-33号住居址 (fig 7-7、PL 6-9·10)

遺構 Vトレンチ、 $F-2\cdot3$ 、E-2グリッドに位置する。遺構は、H-29の床面下で検出された。北側の殆どをH-8号住居に破壊されており、南側はH-13が切っていた。先行して、 $H-4\cdot11\cdot34$ が構築されていた。平面形は、方形で、規模は、南北3.2m、東西2.8m以上を測る。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高18cmを測る。土層は水平に堆積していた。床面は標高112.78mに位置し、ほぼ平坦であった。貼床は部分的に施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位を $N-1^\circ-W$ にとる。

電 調査区域内には、検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、125点出土した。殆どは、酸化焰焼成の須恵器小破片であったが、釘 状鉄器が二点出土している。

H-34号住居址 (fig 7-8、PL 7-2)

遺構 Vトレンチ、F-2 グリッドに位置する。遺構は、北側の殆どを $H-29\cdot31$ 、D-154 によって破壊されており、西壁の南側も、D-90に切られていた。平面形は、方形で、規模は、西壁で、3.5mを測り、東西残存長1.6m以上を測る。壁は52°の各度で立ち上がり、土層はほぼ水平に堆積していた。床面は標高112.94mに位置し、ほぼ平坦であった。貼床は部分的に施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位をN-3°-Eにとる。

竈 調査区域内には、検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、62点出土したのみである。鉄釘が出土している。

H-35号住居址 (fig 8-1、PL 7-3・4・5)

遺構 6トレンチ、A-2、 $B-2\cdot3$ グリッドに位置する。遺構は、南側を調査区域外に置き、東壁中央部をD-218によって破壊されている。平面形は、長方形と推定され、規模は、南北2.9 m 以上、東西2.8 m を測る。壁は61°の角度で立ち上がり、壁高15 cm を測る。土層はほぼレンズ状に堆積しており、大きく3 層に分けられる。床面は標高112.17 m に位置し、ほぼ平坦であった。貼床は部分的に施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位はN-11° - Wにとる。

竈 調査区域内には、検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、115点出土した。

H-36号住居址 (fig8-2、PL7-6・7・8)

遺構 19トレンチ、 $A-7\cdot8$ グリッドに位置する。遺構は、北側を調査区域外に置く。平面形は、方形で、規模は、南北現存長1.4m、東西3.8mを測る。壁は62°の角度で立ち上がり、壁高9cmを測る。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく3層に分けられる。床面は標高110.78mに位置し、ほぼ平坦であった。貼床は部分的に施されており、周溝、ピット等は確認されなかった。主軸方位はN-81°-Eにとる。

竈 (fig 8 - 3) 東壁南寄りで確認された。燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出し若干の粘土を用いて構築されていた。焚口部幅60cm、奥行80cmの位置で、63°の角度で立ち上がり、煙道部へと至る。左袖部に袖石を抜いた痕跡と思われる、ピットがあった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、140点出土した。重要なものに、鉄器、鉄滓等があった。

H-37号住居址 (fig8-4、PL7-8)

遺構 19トレンチ、A $-7\cdot8$ 、B $-7\cdot8$ グリッドに位置する。住居の大半をH-36によって破壊されている。平面形は方形を呈し、東西4.3m、南北2.0m以上を測り、主軸方位をN-84° -Wにもつ。土層はレンズ状堆積しており、大きく 3層に分類された。壁は70°の角度で掘り込まれており、壁高11cmを測る。床面は標高110.78mに位置し、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 (fig 8 -5)東壁南隅で検出された。燃焼部は三角形に壁外に張り出しており、焼けは弱い。天井部は崩落しておりロームブロックが確認されている。焚口幅44cm、奥行100cmを測り、50°の角度で立ち上がり、煙道部へと至る。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 総数43点出土している。大半は、土師器の小破片であった。

H-38号住居址 (fig 8-6、PL 7-9)

遺構 19トレンチ、 $A-4\cdot5$ 、 $B-4\cdot5$ グリッドに位置する。住居南側を調査区域外に置き、 $D-183\cdot184\cdot185\cdot186\cdot251$ に破壊されており、床面下にH-46がある。平面形は方形を呈し、東西3.1m、南北1.8m以上を測り、主軸方位を $N-70^\circ-E$ にもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく5 層に分類された。壁は 55° の角度で立ち上がり、壁高30cmを測る。床面は標高110.63mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。西南隅部に炭化物の集積が認められた。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、61点出土したのみであった。大半は、土師器小破片であったが、石製模造品の破片や、軽石製のすり石が出土した。

H-39号住居址 (fig 8-7、PL 7-10)

遺構 19トレンチ、 $A-2\cdot3$ グリッドに位置する。住居北側を調査区域外に置き、 $D-206\cdot207$ に破壊されており、D-202を切って構築している。床面下にH-46がある。平面形は方形を呈し、東西3.1m、南北1.8m以上を測り、主軸方位を $N-70^\circ-E$ にもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく5層に分類された。壁は 55° の角度で掘り込まれており、壁高30cmを測る。床面は標高110.63mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。西南隅部に炭化物の集積が認められた。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、33点のみであった。

H-40号住居址 (fig 8-8、PL 8-1)

遺構 19トレンチ、 $A-3\cdot 4$ 、B-3 グリッドに位置する。住居北側を調査区域外に置き、 $D-191\cdot 199\cdot 231\cdot 242$ に破壊されている。平面形は方形を呈し、東西2.6m、南北1.7m以上を測り、主軸方位をN-54°-Eにもつ。土層はレンズ状堆積しており、大きく 4 層に分類された。壁は77°の角度で立ち上がり、壁高20cmを測る。床面は標高110.62mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は大半が、酸化焰焼成須恵器であったが、多量の骨片も出土している。

H-41号住居址 (fig 8-9)

遺構 19トレンチ、B $-1\cdot2$ グリッドに位置する。住居南側、西側を調査区域外に置く。平面形は方形を呈し、残存長東西1.6m以上、南北0.4m以上を測り、主軸方位を $N-82^\circ-E$ にもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく2層に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高13cmを測る。床面は標高110.91mに位置し、ほぼ平坦で、全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で6点のみである。

H-42号住居址 (fig 9-1)

遺構 Rトレンチ、G-1 グリッドに位置する。住居西側の大半は調査区域外で、僅かに東壁の竈付近のみ調査できた。東壁の一部も、W-23、D-228によって破壊されていた。平面形は方形を呈すると推定され、残存長東西0.2m以上、南北は北東隅部を破壊しているD-228の北側には及ばないことから、2.7m前後と思われる。主軸方位をN-82° -Wにもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく 3 層に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高13cmを測る。床面は標高110.10mに位置し、ほぼ平坦であった。貼床、周溝、ピット等は確認されなかった。

電 (fig 9 - 2、PL 8 - 2) 東壁南隅部に検出された。焚口部には用材と推定される円礫が多数検出された。燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出す。焚口部幅62cm、奥行50cmの位置で、51°の角度で立ち上がり、完全に削平されていた煙道部へ至る。

遺物出土状態 遺物は竈周辺に集中して出土した。

出土遺物 遺物は総数31点出土した。

H-43号住居址(fig 9-3、PL 8-3・4・5・6)

遺構 19トレンチ、 $A-5\cdot6$ 、 $B-5\cdot6$ グリッドに位置する。住居の北側及び南側を調査 区域外に置き、西側をH-46に切られる。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西 $1.1\,\mathrm{m以}$ 上、南北 $2.5\,\mathrm{m}$ 以上を測る。主軸方位を $N-50^\circ-W$ にもつ。土層はほぼレンズ状堆積をしており、大きく $4\,\mathrm{m}$ 層に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高 $30\,\mathrm{cm}$ を測る。床面は標高 $110.52\,\mathrm{m}$ に位置し、ほぼ平坦であった。貼床、周溝、ピット等は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数50点出土した。殆どは、土師器の破片であったが、鉄器が一点出土して

いる。

H-44号住居址 (fig 9-4、PL 8-7・8)

遺構 6トレンチ、B-7グリッドに位置する。住居の南側を調査区域外に置き、 $H-15\cdot 22$ に破壊されていた。平面形は方形を呈すると推定され、残存長東西2.0m、南北1.2mを測る。主軸方位をN-69°-Eにもつ。土層はほぼレンズ状堆積をしており、大きく4層に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高30cmを測る。床面は標高111.76mに位置し、ほぼ平坦で、直上に焼土の集積が認められ、部分的に貼床が施されていた。周溝、ピット等は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で65点出土した。殆どは、土師器の小破片であった。

H-45号住居址 (fig 9-5、PL 8-9)

遺構 Rトレンチ、F-1、 $G-1\cdot 2$ グリッドに位置する。住居の西側及び南側を調査区域外に置く。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西 $0.3\,\mathrm{m}$ 、南北 $4.3\,\mathrm{m}$ を測る。主軸方位をN -19° —Wにもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく2 層に分類された。壁はほぼ直角に掘り込まれており、壁高 $24\,\mathrm{cm}$ を測る。床面は標高 $110.18\,\mathrm{m}$ に位置し、ほぼ平坦で、部分的に貼床が施されていた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土したが量は少なかった。

出土遺物 遺物は総数12点のみであった。殆どは、酸化焰焼成の須恵器小破片であった。

H-46号住居址 (fig 9 - 6、PL 8 - 10)

遺構 19トレンチ、A-5、 $B-4\cdot5$ グリッドに位置する。住居の南側約半分を調査区域外に置く。平面形は長方形を呈すと推定され、東西3.4m、南北残存長2.8mを測る。主軸方位を $N-41^\circ-E$ にもつ。土層はほぼレンズ状堆積しており、大きく4 層に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高14cmを測る。床面は標高110.48mに位置し、ほぼ平坦であった。貼床、周溝、ピット等は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数29点出土した。殆どは、土師器の小破片であった。

H-47号住居址 (fig 9-7、PL 9-1)

遺構 Tトレンチ、 $I-1\cdot 2$ 、J-2グリッドに位置する。住居の東側約半分を調査区域外に置く。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西1.8m、南北2.7mを測る。主軸方位をN-13°-Wにもつ。土層はほぼレンズ状堆積しており、大きく4層に分類された。壁は69°の角度で掘り込まれており、壁高27cmを測る。床面は標高113.34mに位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 (fig 9 - 8、PL24 - 7) 北壁に位置する。残存状況は非常に良好で、天井部も崩落せずに残っていた。焚口部を壁際に設け、燃焼部は三角形に壁外に張り出し、壁から90cmの位置でほぼ垂直に立ち上がり、煙道部に至る。主軸方位 $N-13^\circ-W$ の方向に持つ。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、205点出土した。殆どは、須恵器の小破片であった。

H-48号住居址 (fig10-1、PL48-8)

遺構 Tトレンチ、 $N-1\cdot 2$ 、 $O-1\cdot 2$ グリッドに位置する。住居の西側約半分を調査区域外に置く。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西2.2m、南北4.5mを測る。主軸方位を $N-24^\circ$ —Wにもつ。土層はレンズ状堆積しており、大きく4層に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高14cmを測る。床面は標高113.60mに位置し、平坦であった。部分的に貼床されており、周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、337点出土している。殆どは、土師器の小破片であったが、石製模造品の剣型品が出土している。

H-49号住居址(fig10-2、PL25-1)

遺構 Tトレンチ、E-1グリッドに位置する。住居の西側約半分を調査区域外に置く。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西1.6m、南北2.7mを測る。主軸方位をN-2°-Eにもつ。土層はレンズ状堆積しており、大きく6層に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高29cmを測る。床面は標高113.68mに位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、南壁際竈右脇に貯蔵穴と推定される、ピットが検出されている。周溝は確認されなかった。

電 (fig10-3、PL24-9) 南壁東隅部に於いて検出された。燃焼部を馬蹄形に壁外に張り出す。焼け込みはあまり強くなく、焚口部幅44cm、奥行86cmの位置で60°の角度で立ち上がり、煙道部へと到る。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、141点出土した。殆どは、土師器の小破片であった。

H-50号住居址 (fig10-4、PL9-2)

遺構 Tトレンチ、 $F-2\cdot3$ 、 $G-2\cdot3$ グリッドに位置する。住居の南壁を調査区域外に置くが、検出されている南西隅部の位置から、床面は殆ど完掘できており、もう数cmで南壁に至るものと推定される。平面形は東西に長い長方形を呈しており、東西dm0、南北dm2.8m0 割る。主軸方位をdm0~dm0、土層はほぼレンズ状堆積しており、大きくdm0 層に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高dm0 高、床面は標高dm113.70dm1に位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 (fig10—5) 東壁南隅部に於いて検出された。残存状況は非常に良好で、天井部も崩落せずに残っていた。燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出す。焚口部幅32cmで、奥行80cmの位置で、70°の角度で立ち上がり、煙道部へと至る。天井部分は若干のスサ混じりの粘土を構築材に用いる。燃焼部中央直下の掘り方内より獣骨の出土がまとまってあった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、1,459点にのぼっている。殆どは、須恵器の小破片であったが、石製模造品の臼玉未製品と獣骨の出土が特筆される。

H-51号住居址 (fig10-6、PL9-3)

遺構 Tトレンチ、E-2、F-2グリッドに位置する。住居の東側約半分を調査区域外に置く。床面下に、 $H-71\cdot78\cdot79\cdot80\cdot91\cdot97$ 、D-254がある。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西1.8m、南北は全長 3.4 mを測る。主軸方位をE-12°-Eにもつ。土層はレンズ状堆積しており、大きく 4 層に分類された。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、 壁高15cmを測る。床面は標高113.65mに位置し、平坦であった。部分的に貼床されており、周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 出土遺物は、総数で160点あった。殆どは、酸化焰焼成の須恵器破片であった。

H-52号住居址(fig10-7)

遺構 Rトレンチ、 $A-1\cdot 2$ 、B-2 グリッドに位置する。住居の東側約半分を調査区域外に置き、北側はH-54、W-18に破壊されている。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西 $2.4\,\mathrm{m}$ 、南北 $2.0\,\mathrm{m}$ を確認したに過ぎない。主軸方位を $N-56\,\mathrm{e}$ 一Wにもつ。土層はレンズ状堆積しており、大きく 6 層に分類され覆土中にはFAの純層を検出している。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高 $40\,\mathrm{cm}$ を測る。床面は標高 $109.80\,\mathrm{m}$ に位置し、平坦であった。部分的に貼床さ

れており、壁際でピットを検出している。周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、226点出土した。殆どは、土師器の小破片であった。

H-53号住居址 (fig10-8、PL9-4)

遺構 Rトレンチ、A-1グリッドに位置する。住居北側、東側の大半を調査区域外に置き、僅かに、一辺の一部を検出したに過ぎない。主軸方位を $N-39^\circ$ —Wにもつ。土層は水平に堆積しており、大きく 6 層に分類され覆土上層中にはFAの純層を検出している。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高56cmを測る。床面は標高109.64mに位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、壁際でピットを検出している。周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、7点のみであった。石田川期に属すと考えられる。

H-54号住居址 (fig10-9、PL9-5・6)

遺構 Rトレンチ、 $A-1\cdot 2$ グリッドに位置する。住居北側、西側の大半を調査区域外に置き、東側はH-53に破壊されており、僅かに、南東隅の一部を検出したに過ぎない。主軸方位を $N-81^\circ-E$ にもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく3層に分類され覆土上層中にはFAの純層を検出している。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高18cmを測る。床面は標高109.63mに位置し、平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、**63**点出土した。殆どは、土師器の小破片であったが、鉄滓が一点出 土している。

H-55号住居址 (fig11-1、PL9-7)

遺構 19トレンチ、A-8、 $B-7\cdot8$ グリッドに位置する。住居南側、東側の大半を調査区域外に置き、僅かに、北東隅の一部を検出したに過ぎない。主軸方位を $N-43^\circ-E$ にもつ。土層は水平に堆積しており、大きく3層に分類され覆土中にはFAの純層を検出している。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高14cmを測る。床面は標高110.94mに位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、119点出土している。殆どは、土師器の小破片であった。

H-56号住居址 (fig11-2、PL9-8・9)

遺構 Rトレンチ、C-1、D-1グリッドに位置する。住居西側の大半を調査区域外に置く。 重複遺構は無かった。主軸方位をN-1°-Wにもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく 3層に分類され、掘り込み面はFA純層の水平堆積層直下からである。壁は約70°の角度で掘り込まれており、壁高24cmを確認している。床面は標高110.04mに位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、119点出土している。殆どは、土師器の小破片であった。石田川期に 比定されると思われる。

H-57号住居址 (fig11-3)

遺構 Tトレンチ、D-2グリッドに位置する。住居東側の約半分を調査区域外に置き、南側をH-79に破壊される。主軸方位をN-6°-Eにもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく 2 層に分類される。壁は66°の角度で掘り込まれており、壁高29cmを確認している。床面は標高 113.67mに位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、113点出土している。殆どは、土師器の小破片であったが、棒状の鉄器、鉄釘等が出土している。

H-58号住居址 (fig11-4、PL9-10)

遺構 Tトレンチ、A-1、B-1グリッドに位置する。住居西側の大半を調査区域外に置き、北東、南東コーナーをD-252、D-264に破壊される。主軸方位を $N-46^\circ-E$ にもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく2層に分類される。壁は 41° の角度で掘り込まれており、壁高17cmを確認している。床面は標高113.58mに位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、53点出土している。殆どは、土師器の小破片であったが、鉄滓が一点出土している。

H-59号住居址 (fig11-5、PL10-1)

遺構 Tトレンチ、E-1、 $F-1\cdot 2$ グリッドに位置する。住居の西側を調査区域外に置く。 電煙道部をH-49に破壊され、 $H-71\cdot 96$ を壊して構築されている。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西2.0m、南北2.4mを測る。主軸方位をN-0°-Eにもつ。土層はほぼ水平堆積しており、大きく2 層に分類された。壁は61°の角度で立ち上がり、壁高18 cm を測る。床面は標高113.70mに位置し、平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 (fig11-6、PL10-2) 北壁ほぼ中央部に於いて検出された。残存状況は比較的良好であったが、天井部は全く削平されていた。燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出す。左袖のみ石と土師器長胴甕を伏せて用材に使用しており、焚口部幅60cmで、奥行60cmの位置で、ほぼ垂直に立ち上がり、煙道部へと至る。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、340点出土している。殆どは、土師器の小破片であったが、石製模造品臼玉、鉄滓等が出土している。

H-60号住居址(fig11-7)

遺構 Tトレンチ、L-2、M-2グリッドに所在する。住居東側の大半を調査区域外に置く。平面形は隅丸方形で主軸方位をN-16°-Wにもつ。重複関係は、H $-68\cdot70$ を破壊して本住居は構築されていた。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく4層に分類される。壁は50°の角度で掘り込まれており、壁高40cmを確認している。床面は標高113.53mに位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、236点出土した。殆どは、土師器の小破片であった。

H-61号住居址 (fig11-8、PL10-3)

遺構 Tトレンチ、L $-1\cdot2$ 、M $-1\cdot2$ グリッドに所在する。住居西側の約半分を調査区域外に置き、北東をH-70、B-2、南側はH-74、中央部をD-253によって一部破壊される。床面下にはH-84が構築されている。平面形は方形と推定され、主軸方向をN-17°にもつ。土層はほぼレンズ状堆積をしており、大きく 4 層に分類される。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高 7 cmを確認している。床面は標高113.68mに位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、574点出土している。殆どは、土師器の小破片であったが、鉄滓が一点出土している。

H-62号住居址 (fig12-1)

遺構 Tトレンチ、B $-1\cdot 2$ 、C-2グリッドに所在する。住居東側の約半分を調査区域外に置き、北側をH-67.88に、南側はH-69.89によって一部破壊される。平面形は方形と推定され、主軸方位を $N-5^\circ-W$ にもつ。土層は1層のみを確認している。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高10cmを確認している。床面は標高113.78mに位置し、ほぼ平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

置 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、242点であった。殆どは、土師器の小破片であったが、武器と思われる鉄器が出土している。

H-63号住居址 (fig12-2、PL10-4)

遺構 19トレンチ、 $A-2\cdot3$ 、 $B-2\cdot3$ グリッドに所在する。住居北側の一部を撹乱によって破壊され、南側は調査区域外にかかり、床面はH-39、 $D-200\cdot201\cdot202\cdot203\cdot204\cdot205\cdot206\cdot207\cdot208\cdot209\cdot220\cdot238\cdot239\cdot240$ によって破壊され、D-217が床面下に構築されていた。平面形は長方形と推定され、主軸方位を $N-31^\circ-W$ にもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく 2 層に分類される。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高 7 cm を確認している。床面は標高110.65mに位置し、平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、83点出土している。殆どは、土師器の小破片であった。

H-64号住居址(fig12-3、PL10-5)

遺構 Rトレンチの最南端、 $G-1\cdot 2$ グリッドに所在する。住居の西、南、東側の一部を調査区域外に置き、H-45を破壊しており、H-42、D-230、2 号畝 状遺構によって切られている。平面形は方形と推定され、主軸方位を $N-77^\circ-W$ にもつ。土層はレンズ状堆積しており、大きく 3 層に分類される。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高19cmを確認している。床面は標高110.07mに位置し、平坦であった。部分的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、17点出土している。いずれも小破片のみであり、図示できるものは無かった。石田川期に属すと推定される。

H-65号住居址(fig12-4、PL10-6)

遺構 19トレンチ、 $A-6\cdot7\cdot8$ 、B-7グリッドに所在する。住居の北側を撹乱によって破壊される。 $H-36\cdot37$ 、 $D-179\cdot212$ 、 $W-15\cdot16$ 、1 号畝状遺構と重複しており、そのすべてに先行する。遺構平面形は方形と推定され、主軸方位を $N-44^\circ$ —Eにもつ。土層はほぼレンズ状堆積しており、大きく4層に分類される。壁は 65° の角度で掘り込まれており、壁高26cmを確認している。床面は標高110.48mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、157点出土している。殆どは、土師器の小破片であったが、床面近くで、陶邑ON46期に並行すると思われる須恵器の蓋が出土した。

H-66号住居址 (fig12-5、PL10-7·8)

遺構 Tトレンチの南端、N-2、O-2グリッドに所在する。住居の東側を調査区域外に置き、西側はH-48、南側はH-72、D-131によって破壊されていた。平面形は方形と推定され、規模は、確認長 $5.7m\times3.9m$ とかなり大きく、おそらく、一辺8m前後の大型住居であると思われる。主軸方位を $N-0^\circ-E$ にもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく6層に分類される。壁は 78° の角度で掘り込まれており、壁高17cmを確認している。床面は標高113.58mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、310点出土している。殆どは、土師器の小破片であったが、鎌の先端 部と思われる、鉄器が出土している。6世紀前半代の所産と考えられる。

H-67号住居址 (fig12-6、PL10-10)

遺構 Tトレンチ、A-1、 $B-1\cdot 2$ グリッドに位置する。住居の北側と南側を調査区域外に置き、南東部をH-58、 $D-252\cdot 264$ によって破壊される。床面下にH-62.88が構築されている。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西3.6m、南北2.9mを測る。主軸方位をN-85° -E にもつ。土層はほぼ水平堆積しており、大きく2 層に分類された。壁は68° の角度に掘り込まれて

おり、壁高14cmを測る。床面は標高113.70mに位置し、ほぼ平坦であった。全面的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電 (fig12-7、PL10-9) 東壁に於いて検出された。残存状況は比較的良好であったが、煙道部は全く削平されていた。右袖のみ凝灰岩切石を竈構築の補強材として用いていた。焚口はちょうど壁際にあり、燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出す。幅45cm、奥行83cmの位置で、77°の角度で立ち上がり、煙道部へと至る。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、459点出土している。殆どは、土師器、須恵器の小破片であったが、 鉄片、釘状の鉄器等が出土している。

H-68号住居址 (fig12-8、PL25-6)

遺構 Tトレンチ、L-2、M-2グリッドに所在する。住居の東側を調査区域外に置き、東北側は、H-60で、西側の一部はB-2によって破壊されていた。H $-61\cdot70\cdot84$ は先行する。平面形は方形と推定され、規模は、確認長東西1.2m×南北3.9mを測る。主軸方位をN-13°-Wにもつ。土層は水平に堆積しており、大きく2層に分類される。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高25cmを確認している。床面は標高113.50mに位置し、平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、259点出土している。殆どは、土師器の小破片であった。6世紀前半 代の所産と推定される。

H-69号住居址 (fig13-1)

遺構 Tトレンチ、 $C-1\cdot 2$ 、 $D-1\cdot 2$ グリッドに所在する。住居の東側を調査区域外に置き、さらに、 $H-89\cdot 92\cdot 95\cdot 57$ によって、破壊されており、床面下にH-62が構築されている。平面形は方形と推定され、規模は、確認長東西3.2m×南北4.1mを測る。主軸方位をN-2°-Wにもつ。土層はレンズ状堆積しており、大きく 3 層に分類される。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高20cmを確認している。床面は標高113.70mに位置し、平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、636点に及んでいる。その殆どは、土師器の小破片であった。

H-70号住居址 (fig13-2、PL11-1)

遺構 Tトレンチ、L $-1\cdot2$ 、M $-1\cdot2$ グリッドに所在する。住居の東側を調査区域外に置き、東南側は、H $-60\cdot68\cdot76$ 、B-2によって破壊されており、先行してH $-61\cdot73\cdot84$ がある。平面形は方形と推定され、規模は、確認長東西3.2m×南北3.1mを測る。主軸方位をN-74°-Eにもつ。土層はレンズ状堆積しており、大きく 3 層に分類される。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高11cmを確認している。床面は標高113.70mに位置し、平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

置 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、328点出土している。殆どが、土師器の小破片であった。

H-71号住居址 (fig13-3)

遺構 Tトレンチ、 $E-1\cdot 2$ 、F-1グリッドに所在する。住居は $H-49\cdot 51\cdot 59$ によって破壊されており、先行してH-78が構築されている。僅かに北東のコーナー付近を検出したのみで、原型を知る術もない。規模は、確認長東西2.0m×南北0.8mを測る。方位は東壁でN-8°-Eにもつ。土層は乱れており、壁はほぼ垂直に掘り込まれていて、壁高8cmを確認している。床面は標高113.86mに位置し、ほぼ平坦であった。確認面全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

置 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、16点のみであった。すべて、土師器の小破片で図示すらできなかった。6世紀代の所産と推定される。

H-72号住居址 (fig13-4、PL11-2·3)

遺構 Tトレンチの最南端、 $O-1 \cdot 2$ グリッドに所在する。住居の南側を調査区域外に置き、東南隅をD-131によって破壊されていた。先行してH-66が構築されている。平面形は方形と推定され、規模は、確認長南北1.1m×東西2.3mを測る。主軸方位をN-85°-Wにもつ。土層はほぼレンズ状堆積しており、大きく4層に分類される。壁は57°の角度で掘り込まれており、壁高40 cmを確認している。床面は標高113.50mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。西側床面直上において、炭化物の集積が認められた。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、70点出土している。殆どが、土師器、須恵器の小破片であった。

H-73号住居址(fig13-5)

遺構 Tトレンチ、K $-1\cdot2$ 、L $-1\cdot2$ グリッドに位置する。住居の東側を調査区域外に置き、南側をH-76によって破壊される。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西2.8m、南北2.8mを測る。主軸方位をN -17° -Wにもつ。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高9cmを測る。床面は標高113.52mに位置し、ほぼ平坦であった。全面的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 (fig13—6) 北壁西側隅付近に於いて検出された。残存状況は悪く、煙道部と燃焼部上面を削平されていた。左袖部に袖石に用いられたと推定される凝灰岩切石が一石残っていた。燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出し、最大幅67cmを測り、奥行94cmの位置で55°の角度で立ち上がり、煙道部へと至る。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、575点出土している。大半は、土師器の小破片であったが、鉄滓が二点出土している。

H-74号住居址 (fig13-7、PL11-4)

遺構 Tトレンチ、M-1、N-1グリッドに位置する。住居西側の大半を調査区域外に置く。H-61と重複しており、より新しい。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西 $0.3\,\mathrm{m}$ 、南北 $1.2\,\mathrm{m}$ を測る。主軸方位を $N-19\,\mathrm{m}$ -Wにもつ。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高 $21\,\mathrm{m}$ を測る。床面は標高 $113.43\,\mathrm{m}$ に位置し、ほぼ平坦であった。全面的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内では検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、37点出土しており、殆どが、土師器の小破片であった。

H-75号住居址(fig13-8、PL25-7)

遺構 Tトレンチ、K-1、L-1グリッドに位置する。住居西側の大半を調査区域外に置く。 平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西0.8m、南北2.2mを測る。H-76と重複しており、 それに先行する。主軸方位をN-21°-Wにもつ。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高40cmを 測る。土層はレンズ状堆積しており、大きく5層に分けられる。床面は標高113.66mに位置し、 平坦であった。全面的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内では検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、22点出土しており、殆どが、土師器の小破片であった。

H-76号住居址 (fig14-1、PL11-5)

遺構 Tトレンチ、K $-1\cdot 2$ 、L $-1\cdot 2$ グリッドに位置する。住居の東側を調査区域外に置く。平面形は方形を呈すと推定され、残存長東西3.6m、南北3.5mを測る。主軸方位をN-66° -Wにもつ。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高22cmを測る。床面は標高113.68mに位置し、平坦であった。全面的に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 (fig14-2、PL25-8) 西壁ほぼ中央部に於いて検出された。残存状況は煙道部上面を削平されていた他は比較的良好で、天井部は完全に崩落していた。焼け込みは強く、焼土ブロックが多量に検出された。構築にあたっては、粘土と付近の土を巧みに用いており、燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出し、最大幅54cmを測り、奥行80cmの位置で、緩やかな角度で立ち上がり、煙道部へと至る。煙道はほぼ水平に真っすぐ延び、幅20cm、長さ60cmを確認している。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、1,014点に及んでいる。その殆どが、土師器の小破片であったが、石製模造品の破片、鉄釘等が出土している。

H-77号住居址 (fig14-3、PL11-6)

遺構 Tトレンチ、 $J-1\cdot 2$ グリッドに位置する。住居東側約半分が調査区域外で、北側はH-47に破壊されている。先行して $H-93\cdot 94$ が構築されていた。平面形は方形を呈し、規模は、東西残存長1.5m、南北2.8mを測り、主軸方位をN-14°-Wにもつ。土層は水平に堆積しており、大きく 3 層に分類された。壁は72°の角度で掘り込まれており、壁高26cmを測る。床面は標高113.55mに位置し、ほぼ平坦で全面に黒褐色土を貼床していた。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、157点出土しており、大半は、土師器の小破片であったが、釘状を呈する鉄器が出土している。

H-78号住居址 (fig14-4)

遺構 Tトレンチ、 $E-1\cdot 2$ グリッドに位置する。周囲を $H-49\cdot 51\cdot 71$ 、D-254にそれぞれ破壊されており、僅かに北壁の一部付近のみ残存していた。北壁の方位を $N-78^\circ-E$ にもつ。 先行して床面下に $H-80\cdot 91$ が構築されていた。壁は殆ど残らず、壁高 2 cm程度を確認したに過ぎない。床面は標高113.96mに位置し、ほぼ平坦であった。周溝、ピット等は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 本住居址に伴うと思われる遺物は殆ど皆無であった。

出土遺物 遺物は総数で、74点出土しているが、殆どが重複している住居の所産であった。重複関係から、6世紀後半代の所産と推定される。

H-79号住居址(fig14-5)

遺構 Tトレンチ、D $-1\cdot2$ 、E $-1\cdot2$ グリッドに所在する。住居の東西壁を調査区域外に置き、中央部から南側にかけては、H $-80\cdot91\cdot97$ によって破壊されていた。先行してH-57が構築されている。平面形は方形と推定され、規模は、東西3.1 m 以上を測り、南北は1.6 m を調査区域内で確認している。北壁方位を $N-85^\circ-W$ にもつ。土層は水平に堆積していた。壁はほば垂直に掘り込まれており、壁高30 cm を確認している。床面は標高113.68 m に位置し、平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、183点出土している。殆どは、土師器の小破片で、6世紀初頭の所産と考えられる。

H-80号住居址 (fig14-6、PL11-7)

遺構 Tトレンチ、D $-1\cdot2$ 、E $-1\cdot2$ グリッドに所在する。住居の北西隅部付近のみ残存する。中央部から南側にかけては、H $-49\cdot51\cdot78$ によって破壊されていた。平面形は方形と推定され、規模は、東西2.4m以上を測り、南北は1.4mを調査区域内で確認している。北壁方位をN -55° —Wにもつ。土層はほぼ水平に堆積していた。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高12 cmを確認している。床面は標高113.81mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、48点のみであった。殆どは、土師器の小破片であった。6世紀初頭 に位置付けられる。

H-81号住居址(fig14-7、PL11-8)

遺構 Tトレンチ、 $G-1\cdot 2$ 、 $H-1\cdot 2$ グリッドに所在する。住居の東壁を調査区域外に置き、北壁から、西壁にかけてを $H-90\cdot 100$ で、南壁の一部をH-82によって破壊されていた。先行してH-99がある。平面形は方形と推定され、規模は、東西確認長2.2mを測り、南北は西壁が完存しており4.2mを確認している。北壁方位をN-13° -Eにもつ。土層は水平に堆積しており、大きく 3 層に分けられた。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高35cmを確認している。床面は標高113.70mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されな

かった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、648点確認されている。石製模造品臼玉、骨片等が出土している。

H─82号住居址 (fig15—1、PL11—9·10)

遺構 Tトレンチ、 $H-1\cdot 2$ 、 $I-1\cdot 2$ グリッドに所在する。住居の東壁を調査区域外に置き、南壁の一部をH-47の竈煙道部によって破壊されていた。先行して $H-81\cdot 94\cdot 99$ が床面下に構築されていた。平面形は東西方向に長い長方形と推定され、規模は、東西2.8m以上を測り、南北は2.4m以上を調査区域内で確認している。北壁方位を $N-9^\circ-W$ にもつ。土層はレンズ状に堆積しており、大きく 3層に分けられた。壁はほぼ垂直に掘り込まれており、壁高38cmを確認している。床面は標高113.70mに位置し、平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 (fig15—2) 南壁の西隅部付近において検出された。煙道部は後出するH—47によって、全く削平されており、焚口部をちょうど壁付近に置く。焚口部と住居床面とのレベル差は無く、ほぼ垂直に立ち上がって煙道部に続く。天井部は完全に崩落しており、焼土ブロックが、灰層上に厚く詰まっていた。構築に当たっては、粘土を用いて壁面を貼っていた。焚口部幅60cm、奥行50cmを測り、68°の角度で立ち上がり煙道部へと至る。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、484点出土している。殆どが、土師器の小破片であったが、石製模造品剣型品、骨片等が出土している。

H-83号住居址(fig15-3、PL12-1)

遺構 Tトレンチ、N-2、O-2グリッドに所在する。住居東側の大半を調査区域外に置く。僅かに北西隅部付近のみを調査できた。H-66の床面下に構築されていた。平面形は方形と推定され、規模は、残存長東西2.1m以上、南北2.9m以上を測る。主軸方位をN-36°-Wにもつ。土層はほぼ水平に堆積しており、大きく2層に分けられた。壁は74°の角度で掘り込まれており、壁高26cmを確認している。床面は113.58mに位置し、平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

置 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、276点出土している。殆どは、土師器の小破片であった。

H-84号住居址 (fig15-4、PL12-2)

遺構 Tトレンチ、 $M-1\cdot 2$ グリッドに所在する。住居西側の一部を調査区域外に置く。平面形はほぼ正方形で、規模は、東西2.2m以上、南北2.3m以上を測る。主軸方位をN.-8° -Eにもつ。壁高4cmを確認している。床面は標高113.55mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。 $H-61\cdot 68\cdot 70$ 、D-253と重複しており、すべてに先行する。

電 (fig15-5、PL12-3) 東壁南寄りに検出された。上半部を削平される。焚口部はちょう ど壁際にあり、燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出す。焼け込みはさほど強くなく、焚口部最大幅54 cmを測り、奥行84cmの位置で63°の角度で立ち上がり、煙道部へと至る。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、304点出土している。その殆どが、土師器の小破片であったが、鉄滓が一点出土している。

H-85号住居址 (fig15-6、PL12-4)

遺構 Tトレンチ、J-1、K-1グリッドに所在する。住居南東の隅部付近を検出したのみであった。北側はH-94によって破壊されていた。平面形は方形と推定され、規模は、残存長東西1.1m以上、南北3.8m以上を測る。主軸方位を $N-9^\circ-W$ にもつ。土層はレンズ状堆積をしており、大きく 3 層にわけられた。壁高44cmを確認している。床面は標高113.46mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、129点出土している。大半は、土師器の小破片であった。

H-86号住居址(fig15-7、PL12-5)

遺構 Tトレンチ拡張部、 $F-3\cdot 4$ 、 $G-3\cdot 4$ グリッドに所在する。北東のコーナー付近と、南側を調査区域外におき、西壁を $H-50\cdot 87$ に破壊される。平面形は方形と推定され、規模は、残存長東西4.5m以上、南北3.9m以上を測る。主軸方位をN-23°-Wにもつ。土層はほぼ水平堆積しており、大きく2層に分けられた。壁高は28cmを確認している。床面は標高113.80mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、505点出土しており、殆どは、土師器の小破片であった。

H-87号住居址 (fig15-8)

遺構 Tトレンチ、 $F-2\cdot3$ 、G-3グリッドに所在する。北壁を調査区域外におき、西壁をH-96、南壁をH-50によって破壊されている。先行してH-86が構築されていた。平面形は方形と推定され、規模は、残存長東西4.5m以上、南北3.9m以上を測る。主軸方位をN-76°-Eにもつ。壁高28cmを確認している。床面は標高113.80mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 (fig15-9) 東壁南寄りに検出された。焚口はちょうど壁際にあり、燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出している。焼け込みはさほど強くない。煙道部は削平されており、焚口部幅52cm、奥行66cmを測る。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、607点出土しており、大半は、土師器の小破片であった。

H-88号住居址 (fig16-1)

遺構 Tトレンチ、 $A-1\cdot 2$ 、 $B-1\cdot 2$ グリッドに所在する。北壁、東壁を調査区域外におく。重複関係は、H-62よりも新しく、H-67よりも古い。平面形は方形と推定され、規模は、残存長東西1.6m以上、南北4.0m以上を測る。主軸方位を $N-22^\circ-W$ にもつ。壁高27cmを確認している。床面は標高113.50mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、128点出土している。殆どは、土師器の小破片であった。6世紀の後 半代に比定される。

H-89号住居址 (fig16-2、PL12-6)

遺構 Tトレンチ、B-2、C-2グリッドに所在する。東側の一部を調査区域外とH-92による破壊のため、調査できなかった。先行して $H-62\cdot69$ が構築されていた。平面形は方形と推定され、規模は、残存長東西2.0m以上、南北1.2m以上を測る。主軸方位をN-89°-Eにもつ。壁高15cmを確認している。床面は標高113.55mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、74点のみであった。殆どが、土師器の小破片であった。 6 世紀後半代に位置付けられる。

H-90号住居址 (fig16-3、PL12-7)

遺構 Tトレンチ、 $F-1\cdot 2$ 、 $G-1\cdot 2$ グリッドに所在する。東南隅部を調査区域外に置き、東壁竈付近は、 $H-50\cdot 98$ による破壊のため調査できなかった。先行して $H-81\cdot 96\cdot 100$ が構築されている。平面形は東西にやや長い長方形で、規模は、東西 $3.7\,\mathrm{m}$ 、南北 $3.2\,\mathrm{m}$ を測る。主軸方位を $N-89\,\mathrm{m}$ 一 E にもち、壁高 $48\,\mathrm{cm}$ を確認している。床面は標高 $113.58\,\mathrm{m}$ に位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 (PL12-8) 住居北東部は、いたみがひどく竈の位置は確認されたが、上部構造は殆ど明らかでない。掘り方調査の結果、燃焼部を馬蹄形に壁外に張り出していた。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、1,130点出土している。殆どが、土師器の小破片であったが、桃の種子が一点出土している。

H-91号住居址 (fig16-4、PL12-9)

遺構 Tトレンチ、 $D-1\cdot 2$ 、 $E-1\cdot 2$ グリッドに所在する。東南隅部と北西隅部を調査区域外に置く。平面形は正方形で、規模は、東西3.1m、南北3.3mを測る。主軸方位をN-59° 一 Eにもつ。土層はほばレンズ状堆積を呈しており、壁高18cmを確認している。床面は標高113.48mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

炉址 床面中央部やや東寄りに焼土の集積が認められたが、掘り込み等は無く、炉址と認定するまでは、至らなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。大形の破片や、接合されたものは床面直上のものが多かった。

出土遺物 遺物は総数で、481点出土している。大半は、土師器の小破片であったが、床面近くで、陶邑TK208型式期並行と思われる須恵器が出土している。

H-92号住居址 (fig16-5、PL12-6)

遺構 Tトレンチ、C-2グリッドに所在する。僅かに西北隅部を調査できたのみで、他は調査区域外とH-95による破壊のため、調査できなかった。先行して $H-69\cdot89$ が構築されていた。土層はレンズ状堆積を呈しており、大きく4層に分けられた。平面形は方形と推定され、規模は、東西 $1.1\,\mathrm{m}$ 、南北 $1.8\,\mathrm{m}$ を測る。主軸方位を $N-52^\circ-E$ にもち、壁高 $22\,\mathrm{cm}$ を確認している。 床面は標高 $113.48\,\mathrm{m}$ に位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、24点出土したのみであった。殆ど土師器であったが、釘状の鉄器が 一点出土している。

H-93号住居址 (fig16-6)

遺構 Tトレンチ、I-2、J-2グリッドに所在する。東側半分を調査区域外に置く。北壁から、西壁にかけてを $H-47\cdot 94$ によって上面を削平されていた。又、竈の前面には、D-255が深く掘り込まれており、床面を破壊されていた。先行してH-77が構築されている。平面形は方形と推定され、規模は、東西1.1m、南北3.6mを測る。主軸方位をN-5°-Wにもつ。土層はほぼ水平堆積しており、壁高28cmを確認している。床面は標高113.40mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 北壁に付されていた。天井部は完全に崩落しており、燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出し、 奥行63cmの位置で62°の角度で立ち上がり、削平されていた煙道部へと連なっていた。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、204点出土している。大半は、土師器の破片であったが、刀子状の鉄器が一点出土している。

H-94号住居址 (fig16-7、PL12-10)

遺構 Tトレンチ、 $I-1\cdot 2$ 、 $J-1\cdot 2$ グリッドに所在する。西側約半分を調査区域外に置く。重複関係は、 $H-47\cdot 77\cdot 92\cdot 93$ よりも古く、H-85よりも新しい。平面形は方形と推定され、規模は、残存長東西3.7m、南北4.8mを測る。主軸方位をN-53°-Eにもつ。壁高54cmを確認している。床面は標高113.32mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されていた。北東隅部にピットが一個検出されており、主柱穴の一つと考えられる。周溝は竈の付く北壁を除いて巡っていた。

竈 (fig16—8) 北壁に付され、右半分の上面をH—47によって破壊されていた。焚口部をちょうど壁際に置き、燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出す。焚口部、最大幅88cm、奥行150cmを測る。袖石は凝灰岩切石を用いていたが、右側のみ元の位置を保ち、左袖石は焚口部にずり落ちていた。支柱は燃焼部中央に細長い河原石を据えていた。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、587点出土している。大半は、土師器の小破片であったが、棒状金具、 種子等が出土している。

H-95号住居址 (fig17-1、PL12-6)

遺構 Tトレンチ、C-2、D-2 グリッドに所在する。東側の大半を調査区域外に置く。H $-69\cdot92$ と重複しており、いずれよりも新しい。平面形は正方形で、規模は、東西0.8m、南北1.7

mを測る。主軸方位を $N-20^\circ-W$ にもつ。土層はほぼレンズ状堆積をしており、壁高26cmを確認している。床面は標高113.30mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

置 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、71点出土しており、殆ど土師器であった。

H-96号住居址 (fig17-2、PL13-1)

遺構 Tトレンチ、 $F-1\cdot 2$ 、 $G-1\cdot 2$ グリッドに所在する。東北隅部と、西側の一部を調査区域外に置き、 $H-50\cdot 59\cdot 90\cdot 100$ により周囲を破壊されている。平面形は方形と推定され、規模は、東西5.7m以上、南北4.8m前後とおそらく、一辺7mを越える大型住居であったと推定される。主軸方位をN-0° -Wにもつ。壁高30cmを確認している。床面は標高113.54mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電(fig17-3)北壁の中央部に位置する。両袖に凝灰岩切石を置く。燃焼部を馬蹄形に壁外に張り出し、煙道部は全く破壊されていた。焚口部の最大幅80cm、奥行75cmの位置で40°の角度で立ち上がり、削平されていた煙道部へと至る。焼け込みはさほど強くない。焚口部を鳥居状に組んだ石組竈と推定される。石材はもろく、調査中に崩れてしまった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、216点出土している。大半は、土師器の小破片であった。

H-97号住居址 (fig17-4、PL13-2)

遺構 Tトレンチ、E-2 グリッドに所在する。東側の大半を調査区域外に置く。平面形は方形と推定され、規模は、東西 $0.8\,\mathrm{m}$ 、南北 $1.7\,\mathrm{m}$ を測る。重複関係はH-51よりも古く、H-79・ $80\cdot 91$ 、D-254よりも新しい。主軸方位を $N-20^\circ-W$ にもつ。土層はほぼレンズ状堆積をしており、壁高 $26\,\mathrm{cm}$ を確認している。床面は標高 $113.30\,\mathrm{m}$ に位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、62点出土している。大半は、土師器の小破片であった。

H-98号住居址 (fig17-5、PL13-3)

遺構 Tトレンチ、F-3、 $G-2\cdot3$ グリッドに所在する。住居の南側を調査区域外に置き $H-50\cdot90$ により破壊されている。平面形は方形と推定され、規模は、東西3.0m以上、南北1.9m以上を測る。主軸方位を $N-90^\circ-W$ にもつ。土層はレンズ状堆積しており、大きく6層にわけら

れた。壁高 5 cmを確認している。床面は標高113.53 mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、中央部は堅くしまっていた。ピット、周溝は確認されなかった。

竈 (fig17-6) 北壁の中央部に位置する。上面を削平される。焚口部幅63cm、奥行66cmの位置で50°の角度で立ち上がり煙道部へと至る。燃焼部は馬蹄形に壁外に張り出し、焚口部、最大幅64cm、奥行66cmを測る。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、222点出土しており、殆どが、土師器の小破片であった。滑石製勾玉、 鉄釘等が出土している。

H-99号住居址(fig17-7、PL13-4・5・6・7・8)

遺構 Tトレンチ、 $H-1\cdot 2$ 、 $I-1\cdot 2$ グリッドに所在する。住居の西側を調査区域外に置き、 $H-81\cdot 82\cdot 94\cdot 100$ によって破壊されている。平面形は方形と推定され、規模は、東西3.5 m以上、南北2.2 m以上を測る。主軸方位を $N-52^\circ-W$ にもつ。壁高16cmを確認している。床面は標高113.68mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

電 (fig17-8、PL26-2) 北壁の中央部に位置する。H-81によって右袖上半部を破壊される。燃焼部は大きく壁外に張り出す。焚口部は、両袖に細長い河原石を立てており、崩落していたが、長さ40cm程の細長い河原石を両袖石にのせて鳥居状に組んでいた、石組竈であったと推定される。左袖のみ、長胴甕を二個体伏せて、壁の補強材としていた。燃焼部にはやや右側に動いていたが、角閃石安山岩を加工して三角錘状にした支脚が残っていた。焚口部の最大幅52cm、奥行166cmを測り66°の角度で立ち上がって、削平されていた煙道部へと至る。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、60点出土している。殆どが、土師器の小破片であったが、骨片が一点出土している。

H-100号住居址(fig17-9、PL13-9·10)

遺構 Tトレンチ、 $G-1\cdot 2$ 、 $H-1\cdot 2$ グリッドに所在する。住居の東西を調査区域外に置き、H-90により北壁を破壊されている。先行して $H-81\cdot 99$ が構築されていた。平面形は方形と推定され、規模は、東西3.6m以上、南北3.2m以上を測る。主軸方位をN-79°-Eにもつ。壁高35cmを確認している。床面は標高113.65mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物はほぼ全域に散在して出土した。

出土遺物 遺物は総数で、391点出土している。大半は、土師器の小破片であったが、石製模造

品臼玉の未製品が一点出土している。

H-101号住居址(fig17-10、PL14-1)

遺構 Tトレンチ、K $-1\cdot 2$ グリッドに所在する。住居の東側を調査区域外に置き、南側を $H-73\cdot 76$ によって破壊されている。平面形は方形と推定され、規模は、東西1.7 m以上、南北1.3 m以上を測る。主軸方位をN-79° -Eにもつ。壁高2 cmを確認している。床面は標高113.50 mに位置し、ほぼ平坦であった。全面に貼床されており、ピット、周溝は確認されなかった。

竈 調査区域内には検出されなかった。

遺物出土状態 遺物は、細片が少量出土したのみである。

出土遺物 遺物は総数で、8点出土している。殆どは、土師器の小破片であった。

3 建物址

B—1号掘立柱建物址(fig18—1、PL14—2 ⋅ 3 ⋅ 4)

遺構 6トレンチ、 $A-3\cdot4$ 、 $B-2\cdot3$ グリッドにおいて、北東に並ぶ5個のピットが確認された。これらは、その掘り方の底面レベル、埋没土層の共通性、各ピット間の距離等から考えて掘立柱建物跡であると考えられる。調査区域内で、桁行四間確認しているが、梁間は何軒になるのか明らかでない。隣接する、H-18とほぼ同方位の $N-70^\circ-E$ に方向性を持つ。各柱穴間の芯々距離は軒並み132cm ~135 cmの値を示す。重複関係は、P-5が D-218 に破壊されているのみで、切り合いからの前後関係は殆ど明らかにしがたい。柱穴の形態は円形もしくは、やや歪んだ楕円形を呈し、規模はいずれも、径56cm ~48 cmの値を測る。遺物は総数で、7点出土している。すべて古墳時代の土師器小破片であった。遺物は、本遺溝に伴うかどうかで明らかでない。

B-2号掘立柱建物址(fig18-2)

遺構 Tトレンチ、L $-1\cdot2$ 、M $-1\cdot2$ グリッドに位置する。H $-61\cdot68\cdot70\cdot73\cdot76$ を破壊して構築されている。南北2間、東西1間の計4個のピットが検出された。主軸方位をN $-14^\circ-$ Wにとる。形状はすべて円形を呈しており、確認面で、いずれも径48cm ~60 cmの規模を有する。各ピット間の芯々距離は、128cm ~144 cmを測る。深さは、東側のP-4のみ44cmと深く、他は、軒並み24cm前後を測る。地層断面はほぼ類似した状況をしめしている。遺物は総数で53点出土しているが、いずれも古墳時代の土師器の小破片であった。遺構の時期は、切り合い関係、地層断面等から見て、平安時代末期と思われる。

1号礎石群 (fig18-3、PL14-5)

18トレンチ、A-6、B-6 グリッドに位置する。W-1 がかなり埋没後、構築されている。南北 3 間、東西 1 間分検出されている。主軸方位を $N-14^\circ$ -Wに持つ。礎石には、径16cm -30cm 前後の比較的平たい石を利用して、しっかりと据えられており、一石のみ、約半分破損した石臼が転用されていた。礎石の下には、それらを固定するような栗石は確認されなかった。各々の芯々距離は24cm -27cm を測る。伴う遺物は前述の石臼だけであり、W-1 の埋没時間を考えると、近世以降の所産と考えられよう。

4 畝状遺構

1号畝状遺構 (fig18-4、PL14-6・7・8)

19トレンチA $-6\cdot7$ 、B $-6\cdot7\cdot8$ グリッドに位置する。北側はH $-36\cdot37$ によって破壊され、H $-43\cdot55\cdot65$ が完全に埋没後耕作されている。地割りの方位は、二方向あり、各々はほぼ直交する。畝の上半部は削平されており、畝と畝の間隔は36cm ~28 cmの値を示す。地層断面からFA降下後の様相を呈しており、2 号畝状遺構とは、若干時期を異にする。遺物は6 世紀前半代の土師器が少量出土したのみである。

2号畝状遺構 (fig18-5、PL27-1·2·3)

Rトレンチの南半分には、FAに埋没する畝状遺構が広がっている。調査面積が狭いため、その範囲については明らかでないが、昭和60年度の調査結果や、本年度19トレンチの状況から推測して、相当広範囲にわたって、同方向の地割りが存在するものと推定される。畝によって若干の格差はあるが、おおよそN-50°-Eに方位をもつ。畝と畝の間隔は、30㎝前後で比高差10㎝前後を測る。遺物は土師器の小破片が若干出土したのみである。

土坑名	所 トレン	在 地 チ・グリッド	規 東西(m)×南北(m)	き 深さ(m)	形状	遺総 数	物 主なもの
D— 1 D— 2 D— 3 D— 4 D— 5 D— 6 D— 7 D— 8 D— 9 D— 10 D— 11 D— 11	18トレンチ " " " " " " " " " " " " " "	$\begin{array}{c} {\rm B-3\cdot B-4} \\ {\rm A-6} \\ {\rm A-5} \\ {\rm A-7} \\ {\rm A-7\cdot B-7} \\ {\rm A-6} \\ {\rm A-3} \\ {\rm A-2} \\ {\rm A-2\cdot B-2} \\ {\rm A-2} \end{array}$	$\begin{array}{c} 0.44\times0.24\\ 0.68\times0.54\\ 0.38\times0.29\\ (0.4)\times3.7\\ 0.32\times0.24\\ 1.1\times0.4\\ 1.2\times0.78\\ 0.39\times0.25\\ 0.4\times(0.26)\\ 0.3\times(0.2)\\ (0.42)\times0.56\\ (0.2)\times0.36 \end{array}$	0.30 0.22 0.46 0.40 0.14 0.19 0.28 0.48 0.20 0.28 0.28	隅正隅隅惰長長長隅正楕隅丸 丸丸四方方方方方 大四方方方方 大四方形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	0 9 1 0 0 3 3 0 0 0	古瀬戸
D- 13 D- 14 D- 15 D- 16 D- 17 D- 18 D- 19 D- 20 D- 21 D- 22 D- 23 D- 24	n n n n n n n	A-2 A-2 · B-2 A-3 A-3 A-4 A-4 A-4 A-4 A-4 A-5 B-2 A-2 · B-2	$(0.32) \times 0.38$ 0.34×0.33 0.37×0.35 0.4×0.32 0.52×0.43 $(0.34) \times 0.34$ $(0.28) \times (0.32)$ 0.46×0.33 $0.4 \times (0.35)$ $0.39 \times (0.27)$ $(0.19) \times 0.2$ 0.24×0.24	0.40 0.40 0.22 0.28 0.21 0.18 0.08 0.20 0.30 0.38 0.33	""" 所 精 正 方長 " 方	0 0 0 1 0 0 0 0 0 0 0	布目瓦
D— 25 D— 26 D— 27 D— 28 D— 29 D— 30 D— 31 D— 32 D— 33 D— 33 D— 34 D— 35	""""""""""""""""""""""""""""""""""""""	A-2 B-2 B-2 B-3 A-3 A-3 A-3 A-3 A-3 A-3 A-3	$\begin{array}{c} 0.38 \times (0.3) \\ 0.26 \times 0.22 \\ 0.24 \times (0.17) \\ 0.3 \times 0.25 \\ 0.28 \times 0.25 \\ 0.2 \times 0.18 \\ 0.31 \times (0.16) \\ 0.36 \times (0.28) \\ 0.32 \times 0.29 \\ 0.2 \times 0.17 \\ 0.24 \times 0.2 \end{array}$	0.26 0.11 0.13 0.30 0.21 0.10 0.31 0.37 0.30 0.21 0.14	長隅方隅長 楕 円正 方 方 方 "円 " 方 " 形形形形 形 形形	0 0 0 0 0 0 0	
D— 36 D— 37 D— 38 D— 39 D— 40 D— 41 D— 42 D— 43 D— 44 D— 44 D— 45	n n n n n n n	A-4 A-4 A-4 A-4 A-4 A-4 A-4 A-5 A-5 · B-5 B-5	$\begin{array}{c} (0.25)\times(0.18) \\ 0.28\times0.24 \\ 0.22\times(0.22) \\ 0.19\times(0.17) \\ 0.37\times0.35 \\ 0.32\times(0.17) \\ 0.22\times0.22 \\ 0.2\times0.2 \\ 0.4\times0.29 \\ 0.38\times0.36 \\ 0.28\times0.3 \end{array}$	0.25 0.15 0.31 0.10 0.31 0.15 0.30 0.21 0.25 0.42 0.37	円正円正椅方円正楕円 方 方円 プラッカー 方円 カラリー カアリー カアリッド形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形形	0 0 0 0 1 1 0 0 0	布目瓦
D— 47 D— 48 D— 49 D— 50 D— 51 D— 52 D— 53 D— 54 D— 55 D— 55 D— 57	n n n n n n	B-5 A-5 · B-5 A-5 A-5 A-5 A-5 A-6 A-6 A-6 A-6	$\begin{array}{c} 0.34\times0.32\\ 0.3\times0.27\\ 0.34\times0.2\\ 0.32\times0.2\\ 0.33\times0.28\\ 0.22\times0.21\\ 0.3\times0.28\\ 0.4\times(0.34)\\ (0.34)\times0.23\\ (0.2)\times(0.14)\\ 0.24\times0.2 \end{array}$	0.18 0.33 0.20 0.12 0.24 0.19 0.32 0.41 0.30 0.37	### ### ### ### #####################	1 1 0 0 0 0 0 0 0 0	
D— 58 D— 59 D— 60 D— 61	11 11 11	$A-2 \cdot A-3 \\ B-7 \\ A-7 \cdot B-7 \\ A-7$	0.25×0.2 0.32×0.32 0.32×0.28 0.28×0.27	0.25 0.43 0.28 0.28	" 円 形 正 方 形	0 0 0	

D- 62	1011114	(0.00) \ (0.0)	0.00	+ 104	
$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	18トレンチ A-6	$(0.98)\times(0.6)$	0.23	方 形	0
	" A-6	$(0.25)\times(0.22)$	0.16	<i>"</i>	0
D 64	" A-7	$(0.52)\times(0.42)$	0.21	<i>II</i>	-0
D— 65	" A−7 · B−7	$(0.8) \times 0.53$	0.43	"	0
D- 66	$^{\prime\prime}$ A-7 · B-7	$(0.56) \times (0.36)$	0.23	"	0
D— 67	" A — 7	$(0.32)\times(0.18)$	0.46	"	0
D— 68	" A-9 · A-10	2.85×0.85	1.04	長 方 形	2
D 69	Uトレンチ D−2・E−2	$(1.65)\times(0.63)$	0.23	方 形	15
D 70	" $G-1 \cdot H-1$	1.2×0.96	0.11	椿 円 形	14
D- 71	$''$ $G-1 \cdot H-1$	$(3.4)\times(1.25)$	0.20	方 形	15
D- 72	Vトレンチ G-3	1.28×1.13	0.43	円 形	96
D-73	$^{\prime\prime}$	0.72×0.63	0.53	"	18
D- 74	" G-2	0.9×0.81	0.25	n n	16
D- 75	" H-2	0.43×0.37	0.66	 //	0
D— 76		0.43×0.37 0.44×0.38	0.42	正 方 形	0
D— 76 D— 77					
i i	$H-1 \cdot H-2$	0.36×0.33	0.34	// 	0
D- 78	" I — 2	0.4×0.2	0.30	椿 円 形	1
D- 79	" I — 2	0.5×0.2	0.34	_ "	4
D- 80	" I — 2	0.21×0.2	0.24	正方形	0
D- 81	" H-1·H-2	0.28×0.26	0.19	円形	0
D- 82	" F-1	1.2×0.74	0.24	長 方 形	49
D— 83	" E-1	$1.2 \times (0.6)$	0.29	楕 円 形	17
D- 84	" E ─ 1	$1.07 \times (0.91)$	0.16	隅丸方形	6
D— 85	″ I — 1	0.4×0.3	0.14	椿 円 形	2
D- 86	″ I — 2	0.3×0.2	0.25	円 "形	4
D- 87	" I — 1 · I — 2	0.3×0.3	0.32	"	4
D 88	$G = 1 \cdot G = 2$	1.85×1.25	0.50	楕 円 形	71
D- 89	19トレンチ B-4	0.45×0.4	0.12	円 形	0
D- 90	$V \mid V \rightarrow F - 2 \cdot G - 2$	0.98×0.9	0.59	"	82
D— 91	$\mathbf{F} = 1 \cdot \mathbf{F} = 2$	1.4×1.1	0.32	隅丸長方形	74
D - 92	" G-2	0.61×0.48	0.97	精 円 形	6
D- 93	$H = \frac{1}{2} \cdot H = 1$	0.65×0.56	0.26	円形	1
D— 93 D— 94		1	0.20		6
	" E — 2	0.78×0.66			
D— 95	I = I = I	0.32×0.28	0.20	円 形	1
D— 96	" G-3	1.03×0.8	0.24	長方形	9
D 97	" E — 1	1.05×0.74	0.40	椿 円 形	0
D- 98	" E — 1	1.1×0.6	0.36	長方形	0
D- 99	" E — 1	$1.0 \times (0.48)$	0.12	楕 円 形	0
D — 100	" G−3 · H−3	2.94×2.38	0.45	長 方 形	22
D — 101	" G-1 · H-1	0.98×0.72	0.21	不定形	1
D — 102	" G-1 · H-1	1.47×0.54	0.23	方 形	5
D - 103	" G ─ 1	0.44×0.38	0.38	円 形	54
D-104	" G-1	0.64×0.6	0.30	"	4
D — 105	" G−1	$0.48 \times (0.35)$	0.25	"	30
D-106	" H-2	0.23×0.22	0.26	正方形	0
D - 107	$H = 1 \cdot H = 2$	0.18×0.16	0.11	"	0
D-108	" I-2	0.4×0.25	0.18	楕 円 形	1
D — 109	" I – 2	0.19×0.14	0.08	円 形	0
D—109 D—110	$ \begin{array}{cccc} & & & & & & & & & & & \\ & & & & & & &$	0.15×0.14 0.4×0.34	0.08	וו וו	0
	n $1-2$ $1-2$	0.4×0.34 0.74×0.47	0.23	長 方 形	0
D—111		1		円形	
D-112	" I — 2	0.24×0.24	0.17		-
D-113	" I — 1	0.3×0.3	0.27	正方形	0
D—114	" I — 1	0.28×0.18	0.19	隅丸長方形	0
D — 115	" I — 1	0.23×0.23	0.22	円 形	0
D-116	$I - 1 \cdot J - 1$	0.23×0.22	0.15	"	0
D — 117	" I −1 · J −1	0.45×0.32	0.44	隅丸長方形	0
D — 118	" I — 1 · J — 1	0.3×0.24	0.44	三角形	2
D — 119	″ I − 2	0.23×0.19	0.15	正方形	0
D — 120	" H — 1	0.19×0.18	0.10	"	0
D — 121	" E-1	1.04×0.64	0.40	楕 円 形	0
D - 122	$H-1 \cdot I-1$	$(2.2) \times (1.42)$	1.00	方 形	3
D-123	$H-1 \cdot I-1$	$(1.11) \times (0.84)$	0.64	"	4
D — 124	" H-1	$(1.68)\times(0.82)$	0.80	"	5
D-125	" F-3	0.34×0.3	0.15	楕 円 形	3
D—126	" F-3	0.4×0.3	0.37	用影	5
D— 120 D— 127	n $F-3$ $F-2$	0.4×0.3 $0.68 \times (0.45)$	0.37	13 ,, 1/2	23
D— 127 D— 128	$ \begin{array}{ccc} & & & & & & & & & \\ & & & & & & & & &$	$0.03\times(0.43)$ $0.73\times(0.48)$	0.32	隅丸長方形	7
D—128 D—129	$\frac{"}{"}$ $\frac{F-2}{F-2}$	$0.73 \times (0.48)$ 0.40×0.25	0.50	1	22
		1			
D — 130	" D-1 · D-2	1.15×0.95	0.13	情 円 形	21

```
D - 131
           Tトレンチ ○-2
                                            (0.29)\times(0.3)
                                                                   0.21
                                                                             隅丸方形
                                                                                               0
D-132
           6トレンチ A-7・B-7
                                            0.37 \times 0.39
                                                                   0.22
                                                                                方 形
                                                                             TF
                                                                                               0
D-133
                11 11
                       B-3
                                                                            隅丸方形
                                                                   0.49
                                                                                               0
                                            (0.3) \times (0.4)
D-134
                "
                        A-5 \cdot B-5
                                            1.5 \times 1.17
                                                                   0.27
                                                                             槒
                                                                                 円 形
                                                                                                O
D-135
                "
                       B-5
                                            0.57 \times 0.58
                                                                             Щ
                                                                   0.21
                                                                                      #/
                                                                                               O
D-136
                "
                        B-4 \cdot B-5
                                            0.86 \times 0.85
                                                                   0.22
                                                                                               39
                "
                       A-4 \cdot B-4
                                            0.98 \times (0.83)
D-137
                                                                   0.14
                                                                                  11
                                                                                               30
D - 138
                "
                       A-4
                                            0.45 \times 0.33
                                                                   0.36
                                                                                  "
                                                                                               16
D-139
                "
                       A-4
                                            0.42 \times 0.38
                                                                   0.19
                                                                                  "
                                                                                               1
                11
                       A-6 \cdot A-7
D - 140
                                            0.67 \times 0.24
                                                                   0.17
                                                                            隅丸方形
                                                                                               6
                "
D - 141
                       B-4
                                            0.3 \times 0.26
                                                                   0.30
                                                                            四
                                                                                               2
D-142
           Vトレンチ G−3
                                            0.47 \times 0.43
                                                                   0.81
                                                                                               0
D - 143
                ^{\prime\prime} E -2 \cdot E -3 \cdot F -2 \cdot F -3
                                            1.61 \times 1.43
                                                                   0.36
                                                                                  #
                                                                                               35
D - 144
                " F-1 · F-2 · G-1 · G-2
                                            0.89 \times 0.9
                                                                   0.24
                                                                                  "
                                                                                               6
D - 145
                "
                       D-1\cdot D-2
                                            1.32 \times 1.12
                                                                   0.43
                                                                                  11
                                                                                               70
D - 146
                       F-3
                                            0.83 \times 0.7
                                                                   0.50
                                                                             楕
                                                                                 円
                                                                                      形
                                                                                               22
D-147
                11
                       E-1 \cdot E-2
                                            0.55 \times 0.59
                                                                   0.36
                                                                            田
                                                                                      邢
                                                                                               16
D - 148
                       G-2
                                            (0.65) \times 0.8
                                                                   0.22
                                                                                      形
                                                                                               16
                                                                            椿
D - 149
                "
                        G-2
                                            0.79 \times (0.67)
                                                                   0.32
                                                                            田
                                                                                      形
                                                                                               19
                "
                       G-2
                                            0.68 \times 0.5
                                                                   0.36
                                                                                               10
D - 150
                                                                            円
                                                                                      形
D-151
                11
                       G-2
                                            0.6 \times (0.52)
                                                                   0.37
                                                                                               9
                                                                             椿
                                                                                 円
                                                                                      形
D - 152
                " E-1 \cdot E-2 \cdot F-1 \cdot F-2
                                            1.65 \times 1.33
                                                                   0.52
                                                                                 方
                                                                                               58
                                                                             長
                                                                                      邢
           6トレンチ B-8
D-153
                                            (0.45)\times(0.38)
                                                                   0.35
                                                                                               2
                                                                            隅丸方形
           Vトレンチ G−2
D - 154
                                            0.61 \times 0.6
                                                                   0.18
                                                                                               4
                                                                            Щ
D - 155
                "
                       G-2
                                            0.68 \times (0.38)
                                                                   0.20
                                                                                  "
                                                                                               8
                       G-2
D - 156
                11
                                            0.53 \times 0.57
                                                                   0.13
                                                                                 "
                                                                                               10
                "
                       G-2 \cdot G-3
                                            0.53 \times 0.47
                                                                                 11
                                                                                               8
D - 157
                                                                   0.10
                "
                       G - 3
D - 158
                                            0.48 \times 0.41
                                                                   0.24
                                                                                 "
                                                                                               7
                                            0.45 \times 0.43
D - 159
                "
                       G-2
                                                                   0.11
                                                                                 "
                                                                                               0
D-160
                "
                       G-2
                                            0.88 \times 0.93
                                                                                               20
                                                                                 11
                                                                   0 32
D-161
                "
                       F-2
                                            0.98 \times 0.96
                                                                   0.31
                                                                            不
                                                                                 定
                                                                                               18
D-162
                "
                       F-2
                                                                            Щ
                                            0.78 \times 0.74
                                                                                      #/
                                                                   0.20
                                                                                               13
D-163
                "
                       F-2
                                            0.98 \times (0.47)
                                                                   0.17
                                                                            隅丸方形
                                                                                               10
D-164
                       F-2
                "
                                            0.68 \times (0.57)
                                                                   0.10
                                                                                               2
                                                                                 11
D - 165
                "
                       F - 2
                                            0.51 \times 0.43
                                                                                 方
                                                                                               7
                                                                   0.17
                       E-2 \cdot F-2
                "
                                                                   0.20
D - 166
                                            0.48 \times 0.32
                                                                            楕
                                                                                 四
                                                                                      邢
                                                                                               6
D - 167
                "
                       E-2 \cdot F-2
                                            0.58 \times 0.43
                                                                   0.44
                                                                            長
                                                                                 方
                                                                                      形
                                                                                               5
D-168
                                                                            楕
                                                                                 円
                       G-2
                                            (0.39) \times 0.45
                                                                                     开乡
                11
                                                                   0.42
                                                                                               2
D - 169
                       A-7 \cdot A-8
                                            0.45 \times 0.4
                                                                            四
                "
                                                                   0.31
                                                                                               4
           6トレンチ
D-170
                       B --- 3
                                            0.54 \times 0.52
                                                                   0.19
                                                                                 "
                                                                                               20
                                            0.66 \times 0.64
D-171
                "
                       A-6
                                                                   0.34
                                                                                 "
                                                                                               66
D - 172
                       A - 6
                                            0.45 \times 0.45
                                                                   0.30
                11
                                                                                 11
                                                                                               11
D - 173
                       A-2
                                            0.42 \times 0.33
                                                                   0.37
                                                                            椿
                                                                                 円
                                                                                     形
                                                                                               2
                11
                       B-2 \cdot B-3
                                                                                               7
D - 174
                                            0.42 \times 0.38
                                                                   0.18
                                                                                 "
                                                                            Щ
D - 175
                "
                       A-5 \cdot B-5
                                            0.34 \times 0.33
                                                                   0.24
                                                                                      #/
                                                                                               8
D - 176
                       B - 3
                11
                                            0.37 \times 0.4
                                                                   0.26
                                                                                 "
                                                                                               3
D - 177
                       A-2
                                            0.58 \times 0.56
                                                                   0.38
                                                                                               7
                                                                            隅丸方形
D - 178
           Rトレンチ B-1・B-2・C-1
                                            2.18 \times 1.12
                                                                   0.13
                                                                                               66
D - 179
           19トレンチ
                       B-7
                                            0.34 \times 0.28
                                                                   0.09
                                                                            楕
                                                                                 円
                                                                                     形
                                                                                               2
D - 180
                       B-6
                                            0.2 \times 0.19
                                                                   0.25
                                                                            Щ
                                                                                      形
                                                                                               0
                       A-5
D-181
                                            0.19 \times 0.17
                                                                   0.10
                                                                                               0
                ##
D - 182
                       A - 5
                                            0.3 \times 0.25
                                                                   0.07
                                                                                 11
                                                                                               0
D - 183
                       A-4 \cdot A-5
                                            0.84 \times 0.74
                                                                   0.18
                                                                            隅丸長方形
                "
                                                                                               1
                       B-4
D - 184
                                            0.27 \times 0.25
                                                                   0.09
                                                                            Щ
                                                                                      形
                                                                                               0
D-185
                       B-4
                                            0.39 \times 0.33
                                                                   0.04
                                                                                               0
                11
D - 186
                        A-4 \cdot B-4
                                            1.93 \times 0.72
                                                                   0.16
                                                                            楕
                                                                                 円
                                                                                     形
                                                                                               1
                       B-4
                                            0.29 \times 0.27
                                                                            Щ
                                                                                      形
                                                                                               0
D - 187
                                                                   0.16
                11
D - 188
                "
                       A-4
                                            0.37 \times 0.39
                                                                   0.10
                                                                                 11
                                                                                               2
D - 189
                       A - 4
                                            0.43 \times 0.45
                                                                                               0
                "
                                                                   0.12
                                                                                 11
D - 190
                        A -- 4
                                            0.3 \times 0.26
                                                                   0.09
                                                                                 方
                                                                                     形
                                                                            īF
                                                                                               1
D - 191
                       A — 4
                                            (0.97)\times(0.9)
                                                                            方
                                                                                      形
                                                                                               19
                                                                                                          骨
                "
                                                                   0.13
D - 192
                        B-4
                                            0.32 \times 0.3
                                                                            円
                                                                                      形
                                                                                               7
                "
                                                                   0.09
                       B-4
                                                                                 Щ
D = 193
                                            0.83 \times 0.35
                                                                            楕
                                                                                     形
                                                                                               11
                "
                                                                   0.15
D - 194
                        B -- 3
                                            0.55 \times 0.3
                                                                                 "
                                                                   0.13
D-195
                                                                            隅丸長方形
                "
                       B - 3
                                            0.6 \times 0.33
                                                                   0.11
                                                                                               6
D - 196
                                            0.58 \times 0.55
                "
                       A-3 \cdot B-3
                                                                   0.16
                                                                            正
                                                                                 方
                                                                                      邢/
                                                                                               12
                       B-3
\overline{\mathrm{D}}
                                            (0.25) \times 0.28
                                                                            四
                                                                                      形
                "
                                                                   0.11
                                                                                               6
D - 198
                        B-3
                                            0.32 \times 0.3
                "
                                                                   0.07
                                                                                               1
D - 199
                       A - 3
                                            0.67 \times 0.51
                                                                            槒
                                                                               円 形
                                                                                               6
                                                                   0.12
```

D — 200	19トレンチ B-3	0.3×0.29	0.15	円 形	0	
D-201	" $A-3 \cdot B-3$	0.42×0.33	0.12	方 形	3	
D — 202	" B-3	$0.42 \times (0.35)$	0.07	円 形	2	
D — 203	" A-3	0.58×0.37	0.11	長方形	6	
D — 204	" A-3	0.64×0.62	0.11	正方形	14	
D-204 D-205	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	$0.74 \times (0.23)$	0.13	円 形	5	
i	" B-2	0.45×0.43	0.08	円形	1	
D — 206	" B-2 " B-2	0.45×0.45 0.3×0.18	0.08	精 円 形	0	
D — 207			0.10	円形	0	
D — 208	" B-2	$0.15 \times (0.17)$		隅丸長方形	4	
D — 209	" A-2 · B-2	0.63×0.41	0.07	円 形	2	
D — 210	" B-2	$0.7 \times (0.7)$	0.23	精 円 形	9	
D — 211	" A-2 · B-2	1.03×0.75	0.11	円 形	1	
D — 212	" A-8	0.27×0.23	0.20		12	
D — 213	" A-2	0.3×0.16	0.09	精 円 形		
D — 214	$V \vdash \nu \nu \neq C - 1 \cdot D - 1$	$(2.3) \times 2.5$	0.30	隅丸方形	0	
D — 215	Rトレンチ C-1・C-2	1.11×1.04	0.14	長方形	31	
D — 216	" D-1	$(0.95)\times(1.89)$	0.19	隅丸方形	17	
D — 217	6トレンチ A-2	$1.42 \times (0.88)$	0.23	隅丸方形	4	
D — 218	$ $ $ $ $ $ $ $ $ $ $ $	$(0.88) \times 0.84$	0.23	隅丸方形	25	
D — 219	" B-3	0.3×0.31	0.32	円 形	4	,
D — 220	19トレンチ A — 3	$(0.78) \times (0.82)$	0.30	隅丸方形	0	
D — 221	R トレンチ E−1・F−1	$(1.32) \times (0.68)$	0.32	隅丸方形	2	
D-222	" F-1	0.72×0.59	0.14	円 形	11	
D — 223	" F-1 · G-1	$0.62 \times (0.41)$	0.15	隅丸方形	3	
D-224	6トレンチ A-4・A-5	$(1.34) \times 1.3$	0.22	隅丸方形	49	
D — 225	Vトレンチ F−3	0.36×0.3	0.50	円 形	0	
D — 226	6トレンチ B−3	0.64×0.5	0.34	隅丸長方形	0	
D — 227	" A-4 · A-5	0.4×0.39	0.15	円 形	0	
D-228	19トレンチ F-1・G-1	$0.94 \times (0.68)$	0.20	隅丸方形	27	
D 229	Rトレンチ F-1・F-2	0.63×0.6	0.06	隅丸方形	2	
D-230	" G-2	0.5×0.48	0.23	円 形	3	
D — 231	19トレンチ A-3	0.47×0.4	0.17	円 形	4	
D-232	" A-4 · B-4	1.63×0.67	0.24	不 定 形	18	
D — 233	" A-4 · B-4	0.76×0.69	0.21	円 形	10	
D — 234	" A-4	0.41×0.35	0.21	円 形	1	
D-235	" A-4	0.55×0.51	0.21	正 方 形	9	
D-236	" A-4	$(0.56) \times 0.48$	0.17	円 形	5	
D — 237	$n A-4 \cdot A-5$	$1.85 \times (0.53)$	0.23	隅丸方形	11	
D-238	" B-3	$0.35{\times}0.27$	0.25	楕 円 形	0	
D — 239	" B−3	0.32×0.21	0.26	楕 円 形	0	
D-240	" A-3 · B-3	0.58×0.42	0.18	楕 円 形	3	
D 241	" B-3	1.18×0.55	0.15	隅丸長方形	13	骨
D-242	" A-3 · B-3	$0.46 \times (0.19)$	0.17	隅丸方形	2	
D-243	" B-3	$0.82 \times (0.7)$	0.20	円 形	9	
D-243				正方形	7	
D-244 D-245	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	1.4×1.49	0.15		ì	馬歯
1	" 3. A-4. B-3. B-4	1.0×1.02	0.13		22	দ্রে ফ্র
D-246	$R \vdash \nu \rightarrow F - 1 \cdot F - 2$	$(1.36) \times 0.78$	0.10	隅丸方形	4	
D— 247	" F-2	0.34×0.28	0.26	楕 円 形	2	
D 248	19トレンチ A-2・B-2	1.48×1.08	0.15	隅丸長方形	3	
D-249	" A-4 · B-4	1.5×1.03	0.45	楕 円 形	3	
D — 250	" A-4 · B-4	0.81×0.8	0.40	円 形	0	
D 251	" A-5 · B-5	1.53×0.26	0.19	隅丸長方形	0	
D- 252	Tトレンチ B−1	1.05×1.06	0.34	円 形	9	
D — 253	" L-1·M-1·M-2·N-1·N-2	6.82×0.65	0.30	隅丸長方形	520	
D — 254	" E-2	1.48×1.15	0.30	隅丸長方形	41	
D— 255				隅丸方形	13	
D— 256		$0.94 \times (0.49)$	0.40			
	19トレンチ A-5・B-5	0.65×0.57	0.15	不定形	0	
D — 257	" A-5 · B-5	$(0.65) \times 0.4$	0.13	不定形	4	

			- — т			
D-258	19トレンチ A-5・A-6・B-5	$(0.71) \times 0.34$	0.18	長 方 形	0	
D-259	" $A-5 \cdot A-6 \cdot B-6$	$(0.95) \times 0.33$	0.07	楕 円 形	3	
D-260	" B−5 ⋅ B−6	1.1×0.45	0.16	隅丸長方形	1	
D-261	<i>"</i> B − 6	0.51×0.3	0.17	楕 円 形	0	
D-262	" A − 6 · B − 6	1.1×0.26	0.06	"	1	
D-263	6トレンチ B−4	0.47×0.39	0.30	11	. 0	ĺ
D-264	Tトレンチ A-2・B-2	$1.12 \times (0.34)$	0.24	"	0	
D-265	$V \vdash \nu \nu \neq D-1 \cdot D-2$	$0.76 \times (4.8)$	0.43	隅丸方形	0	
	1					

6 井 戸 址

I - 1 号井戸址(fig21、PL17-2)

UトレンチD−2グリッドに位置する。W−5を破壊して構築されていた。規模は上幅、径2m、下幅は西半分が攪乱により、破壊されていたため明らかでない。土層はほぼレンズ状堆積している。遺物から中世以降と推定される。

I - 2 号井戸址 (fig21、PL17 - 3)

VトレンチI-1グリッドに位置する。規模は確認面で、上幅径1 m、下幅0.6 m、深さ1.6 mを測る。土層は、下層は水平堆積を呈し、上層はレンズ状堆積を呈していた。遺物は、土師器、須恵器、鉄滓等、古代末期の様相を呈している。

Ⅰ - 3 号井戸址(fig21、PL17-1)

VトレンチD−1グリッドに位置する。規模は確認面で、上幅東西径1.6m、南北径2.2m、下幅1.4mを測る。深さは、湧水によって完掘できなかったため、明らかでない。遺物は近世~近代の陶磁器が多量に出土している。

I - 4 号井戸址(fig21、PL16-8・9・10)

RトレンチB-1 グリッドに位置する。西側を調査区域外に置き、FAを切り込んで、構築されていた。規模は確認面で、上幅C1.7m、下幅C0.2m、深さC1.4m0規模を有す。遺物は総数で、C242点出土しており、C9世紀代の須恵器环、短頸壺等が出土している。

7 溝 址

W-1号溝 (fig22-1、PL27-5)

18トレンチのほぼ中央部、A-6.7、B-5.6グリッドに位置する。重複関係は1 号礎石群、 $D-62\cdot63\cdot64\cdot65\cdot66\cdot67$ より本遺構が先行している。規模は確認面で上幅3.4m、下幅0.96m、深さ、現地表面下2.1mを測り、方位をN-56° -Eにとる。土層は断面逆台形を呈し、きれいなレンズ状

堆積を示している。遺物はカワラケ類を中心に、38点出土しており底面付近からは、礫が集中して出土しており、その中に、五輪塔の水輪、石臼の破片が含まれていた。出土土器には美濃産の灰釉菊皿があり、15~16世紀に比定される。No. 42は水輪を転用した骨蔵器で四方に、四門の梵字を刻み、それを墨でぬりつぶし、さらにまわりを朱墨で囲っている。類例としては、上野国分寺で、空輪、風輪を陰刻後赤色塗彩、火、水輪を黒色塗彩されたものが発見されている。

W-2号溝(fig22-2、PL18-1~5)

18トレンチ、 $A-9\cdot 10\cdot 11$ 、 $B-8\cdot 9\cdot 10$ グリッドに位置する。W-3と重複関係にあり、より新しいが調査の不手際で、東側立ち上がり部を破壊してしまった。復元規模1.6m、深さ、現地表面下1.0mを測り、方位をN-68°-Eにとる。断面逆台形を呈し、土層はきれいなレンズ状堆積を示している。重複関係はD-68より古く、W-3よりも新しい。遺物はカワラケ、土鍋、鉄器、碁石、紡錘車、古銭、鉄滓等379点出土している。底面付近からは礫が集中して出土しており、その中に、石臼、砥石の破片が含まれていた。

W-3号溝 (fig22-2、PL19-1~9)

18トレンチ、 $A-11\cdot 12\cdot 13$ 、 $B-11\cdot 12\cdot 13$ グリッドに位置する。 $W-2\cdot 4$ と重複関係にあり、両溝に先行する。規模は、下幅0.8m、深さ、現地表面下3.7mを測り、方位を $N-70^\circ-E$ にとる。断面逆台形を呈し、土層はきれいなレンズ状堆積を示している。遺物はカワラケ類を中心に、321点出土しており、鉄釘、至元通宝、と多量の骨片があった。又、底部付近に礫が集中して投棄されており、その中に石臼、宝篋印塔、五輪塔、骨蔵器等が含まれていた。

W—4号溝 (fig22─2、PL20─1·2)

18トレンチ、A—13、B—13グリッドに位置する。W—3と重複関係にあり、本溝が新しい。規模は、北壁断面で観察の結果、現地表面下1.8mから掘り込まれ、深さ、1.78mを測る。幅は、東側が未完掘であるため明らかでないが、断面逆台形を呈し、方位をN—16° —Wにとる。土層はきれいなレンズ状堆積を示している。遺物は、細片が少量出土したのみであるが、鉄滓等も出土している。

W-5号溝 (fig22-3、PL28-8)

Uトレンチ、B-2、C-2、 $D-1\cdot2$ 、 $E-1\cdot2$ グリッドに位置する。重複関係はI-1よりも古く、W-8よりも新しい。規模は西側が、撹乱によって破壊されているため、幅は明らかでない。深さ1.1mを測り、方位は $N-97^\circ-E$ にとる。断面逆台形を呈し、土層は乱れていた。遺物は近世陶磁器類を中心に797点出土しており、多量の骨の集積が認められた。年代を示すものとして、 $14\sim15$ 世紀の常滑焼、14世紀後半代の瀬戸美濃焼梅瓶、15世紀前半の瀬戸美濃焼鉢2

点、13~14世紀代の龍泉窯系青磁碗、13世紀代の中国製白磁碗2点、16世紀末期の美濃焼等が底部から出土している。又、文字は読めないが古銭が1点出土している。

上層部からも、18~19世紀を中心とした陶磁器類の出土があり、比較的長く溝が埋まらずに機能していたことが伺える。上層の遺物の中にも、伊万里系の染め付け角小鉢や、花生など、上手なものも含まれている。

W-6号溝 (fig22-4、PL20-3)

Uトレンチ、 $L-1\cdot 2$ 、 $M-1\cdot 2$ 、 $N-1\cdot 2$ グリッドに位置する。北側を削平され、南側も撹乱によって破壊されていた。溝状の掘り込みになっているため、溝として扱ったが、底部は平らで堅くしまっており、古い道路址の可能性も考えられる。遺構は、殆ど現地表面近くにあり、方位を $N-13^\circ-W$ にとる。土層は新しく、遺物は18世紀代の伊万里系染め付け小とっくりが出土している。

W-7号(fig23-1、PL20-4·5·6)

Vトレンチ、I-2・3、J-2グリッドに位置する。南側と、西側を調査区域外に置く。ちょうどコーナーの部分で、規模は、深さ、確認面から2.5mを測り、方位をN-73°-Eにとる。断面逆台形を呈し、土層はきれいなレンズ状堆積を示している。遺物はカワラケ類を中心に、178点出土しており、鉄滓、至元通宝等も出土している。底面近くから礫が集中して出土しており、その中に、石臼の破片が含まれていた。年代を示すものとして、15~16世紀代の舶載陶器と思われる耳壺が出土している。溝の性格は、古絵図に見られる蒼海城の堀址に一致しており、出土遺物の年代からも傍証することができる。

W-8号溝(fig24-1、PL20-7)

Uトレンチ、B−2、C−2グリッドに位置する。W−5と重複関係にあり、本溝が先行する。 規模は確認面で上幅4.8m、下幅2.9m、深さ1.7mを測り、方位をN−96°−Eにとる。断面は、 しっかりした逆台形を呈し、土層はきれいなレンズ状堆積を示している。遺物は酸化焰焼成の須 恵器を中心に、66点出土しており、瓦、馬骨等も含まれている。遺物の下限は10世紀後半代と推 定され、国府周辺域で確認されている。条里溝との関連で興味深い。

W-9号溝(fig24-2、PL20-8・9)

Vトレンチ、G-1グリッドに位置する。西側を調査区域外に置き、東側はD-88、H-4によって破壊されていた。規模は、上幅1.8m、下幅1.0m、深さ0.4mを測り、方位をN-73°-Eにとる。断面三角形を呈し、土層はほぼ水平堆積を示している。遺物は土師器、須恵器を中心に121点出土しており、遺物の下限は、10世紀代を示している。

W-10号溝 (fig24-2、PL20-8·9)

Vトレンチ、G-1、H-1グリッドに位置する。W-9と平行しており、D-88、H-4に西側で破壊されている。規模は、上幅 1.8 m、下幅0.2m深さ現地表面下0.4mを測り、方位をN-73°-Eにとる。断面三角形を呈し、土層はほぼ水平堆積を示している。遺物はW-9同様、土師器、須恵器を中心に37点出土しており、銅滓、古銭等も含まれている。遺物の下限は、10世紀後半代と推定される。

W-11号溝 (fig24-3、PL20-10)

6トレンチ、A-1、B-1 グリッドに位置する。北側を撹乱によって削平され、南側を調査区域外に置く。W-12と平行しており、規模は、上幅0.6m、下幅0.2m、深さ確認面で0.6mを測る。主軸方位を $N-39^\circ-W$ にとる。断面は緩やかに曲線を描く、土層はほぼレンズ状堆積を示している。遺物は総数で、184点出土しており、殆どは、古墳時代の土師器、須恵器の破片であったが、灰釉陶器も出土しており、下限は、10世紀後半代と思われる。

W—12号溝(fig24—3、PL20—10)

6トレンチ、A-1、B-1・2グリッドに位置する。W-11同様、北を撹乱で破壊され、南を調査区域外に置く。規模は、上幅0.4m、下幅0.2m、深さ確認面から0.6mを測る。断面形態はほぼ垂直に掘り込まれており、土層はレンズ状堆積を示している。遺物は、細片が少量出土したのみであり、殆ど土師器の小破片であったが、直接本遺構の年代を示すと思われるものは皆無であった。

W-13号溝(fig24-4)

6トレンチ、A-0・1 グリッド、調査拡張区域で検出された。W-14と平行しており、西、東側ともに調査区域外へと続いている。昨年度の調査では、八日市場域の大溝に平行している溝は確認されておらず、おそらく、それに後出するため地形的制約を受けてW-14に平行しているものと推定される。規模は確認面で、上幅0.5m、下幅0.1m、深さ0.15mを測り、断面形態は、鋭角な逆三角形を呈していた。土層はレンズ状堆積しており、比較的新しい様相を呈している。遺物は、殆ど無かったが、断面土層から見て、近世以降の所産と推定される。

W-14号溝 (fig24-4、PL21-1)

6トレンチ北の現有道路は、八日市場城の堀址を埋めずに約2m前後の比高差を持って、そのまま道路として利用されている。昨年度の調査で、この溝の東側コーナー部分を検出しており、比較的残存状況が良好であったため、今回も調査区域を拡張して、この溝の検出に努めた。しか

し、生活道路であるため調査にも制限があり、僅かに立ち上がり部分を調査しえたに過ぎない。 しかも、この部分はかなり撹乱が著しく、掘り込みは確認できたが、中の土は新しい撹乱土であった。底部は道路敷きの下であり、断面形態も明らかでない。遺物は無かった。

W-15号溝(fig24-5、PL21-2 · 3 · 4 · 5)

19トレンチ、A-7、B-7グリッドに位置する。 $H-36\cdot37$ 、D-179、畝状遺構1に先行し、H-65より新しい。規模は、上幅1.0m、下幅0.6m、深さ0.6mを測り。方位をN-19°-Wにとる。断面逆台形を呈し、土層はきれいなレンズ状堆積を示しており、水流の痕跡と思われる粗砂とシルトのラミナが確認されている。遺物は土師器と須恵器を中心に、36点出土している。

W-16号溝 (fig25-1、PL21-2·3·4)

19トレンチ、A-7、B-7グリッドに位置する。W-15に隣接しており、時期的にも近い。規模は、上幅0.8m、下幅0.36m、深さは確認面で0.3mを測る。方位はN-6°-Eにとり、断面逆台形を呈す。土層はほぼレンズ状堆積を示しており、水流の痕跡と思われる、粗砂のラミナが検出された。遺物は、総数17点と細片が少量出土したのみである。

W-17号溝 (fig25-2、PL21-6⋅8)

Rトレンチ、 $A-1\cdot 2$ 、 $B-1\cdot 2$ グリッドに位置する。 $H-52\cdot 54$ と重複関係にあり、両住居に後出する。規模は、上幅 $0.8\,\mathrm{m}$ 、下幅 $0.6\,\mathrm{m}$ 、深さ $0.4\,\mathrm{m}$ を測る。方位を $N-19^\circ$ -Wにとる。断面形態はほぼ垂直に掘り込まれており、土層はほぼ水平堆積を示している。遺物は総数で、10 点出土しており、殆どは、古墳時代の土師器であった。遺構の年代は、FAの純層を切って遺構が掘り込まれており、6 世紀前半代と推定される。

W-18号溝 (fig 25-3、PL21-7·8)

Rトレンチ、 $A-1\cdot 2$ グリッドに位置する。重複関係は $H-54\cdot 53$ を破壊して掘り込まれており、W-17に平行する。規模は確認面で、上幅0.6m、下幅0.4m、深さ0.36mを測り、方位を $N-21^\circ-W$ にとる。断面形態は垂直に掘り込まれており、土層はほぼ水平堆積を示していた。遺物は古墳時代の土師器を中心に出土している。FA純層を切って構築されており、溝としては、特異な断面形態を示すことから、その性格が注目される。2号畝状遺構に直交し、昨年度調査のW-17と近い方向性を示すことから、この地区一帯に比較的広範囲に同様な地割りが推定される。

W-19号溝 (fig25-4、PL21-9)

Rトレンチ、 $B-1\cdot 2$ グリッドに位置する。D-178と重複関係にあり、西側を破壊されていた。 規模は確認面で、上幅1.2m、下幅0.5m、深さ0.5mを測り、方位をN-84°-Wにとる。断面逆 台形を呈し、土層はほぼレンズ状堆積を示しており、若干の水流の痕跡が認められた。遺物は総数で、33点出土しており、殆どは、混入品の土師器小破片であった。遺構の年代は中世~近世と思われる。

W-20号溝(fig25-5、PL21-10)

Sトレンチを北から南に縦断する。W-22と重複関係にあり、後出する。規模は確認面で、上幅1.3m、下幅0.5m、深さ0.5m、方位をほぼ北南にとり、若干蛇行する。断面逆台形を呈し、土層はほぼ水平堆積している。遺物は土師器、須恵器を中心に、114点出土しており、下限は9世紀代と推定される。全体に摩滅していた。

W-21号溝 (fig25-5、PL21-10)

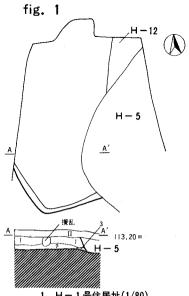
Sトレンチを北から南へと縦断する。W-22と重複関係にあり、後出する。規模は確認面で、上幅0.7m、下幅0.3m、深さ0.4mを測り、方位をN-9°-Eにとる。断面逆台形を呈し、土層はほぼ水平堆積している。遺物は土師器、須恵器を中心に、44点出土しており、下限は9世紀後半代に位置付けられる。全体に摩滅していた。

W—22号溝(fig 25— 5 、PL21—10)

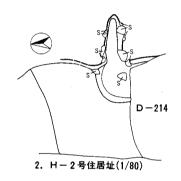
Sトレンチを北から南に縦断する。W— $20\cdot 21$ と重複関係にあり、両溝に先行する。規模は確認面で、上幅0.6m、下幅0.4m、深さ0.4mを測り、方位をほぼ北南方向にとり、蛇行していた。断面逆台形を呈し、土層はほぼ水平堆積を示しており、水流の痕跡が明瞭である。遺物は、9世紀代の土師器、須恵器を中心に、31点出土しており摩滅していた。

W─23号溝(fig 25─6)

Rトレンチ、 $G-1\cdot 2$ グリッドを、西から東へと縦断する。 $H-42\cdot 45$ 、2 号畝状遺構を破壊している。規模は確認面で、上幅 $0.48\,\mathrm{m}$ 、下幅 $0.24\,\mathrm{m}$ 、深さ $0.24\,\mathrm{m}$ を測り、断面を逆台形を呈していた。土層は新しく近世以降の所産と推定される。

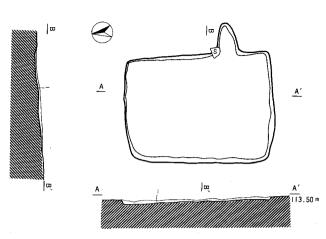


1. H-1号住居址(1/80)

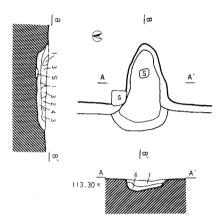


В D - 214lΦ <u>A′</u> **z** 113.40 m

3. H-2号住居址置(1/40)

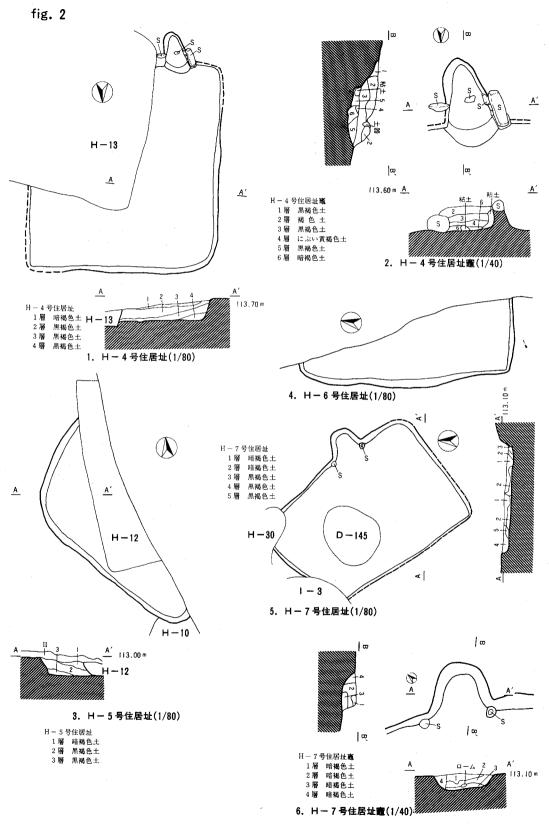


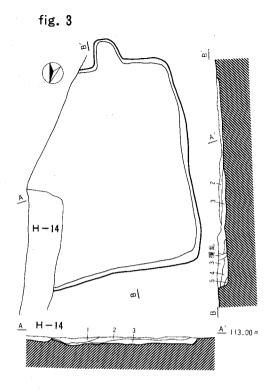
4. H-3号住居址(1/80)

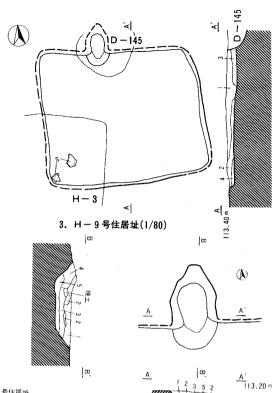


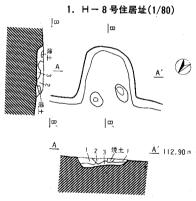
5. H-3号住居址置(1/40)













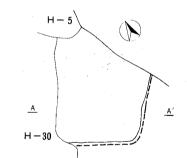
- H-8号住居址竈
- 1層 暗褐色土 2層 黑褐色土 3層 黒褐色土



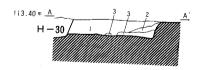
4層 黒褐色土 H-9号住居址竈

3層 黒褐色土

- 1層 黒褐色土 2層 黒 色 土 3層 黒 褐色土
- 5層 極暗褐色土

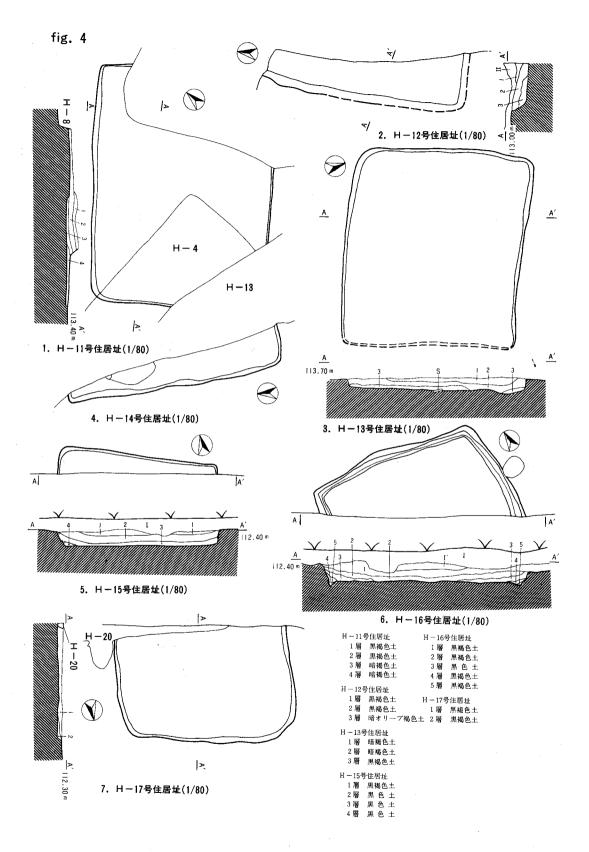


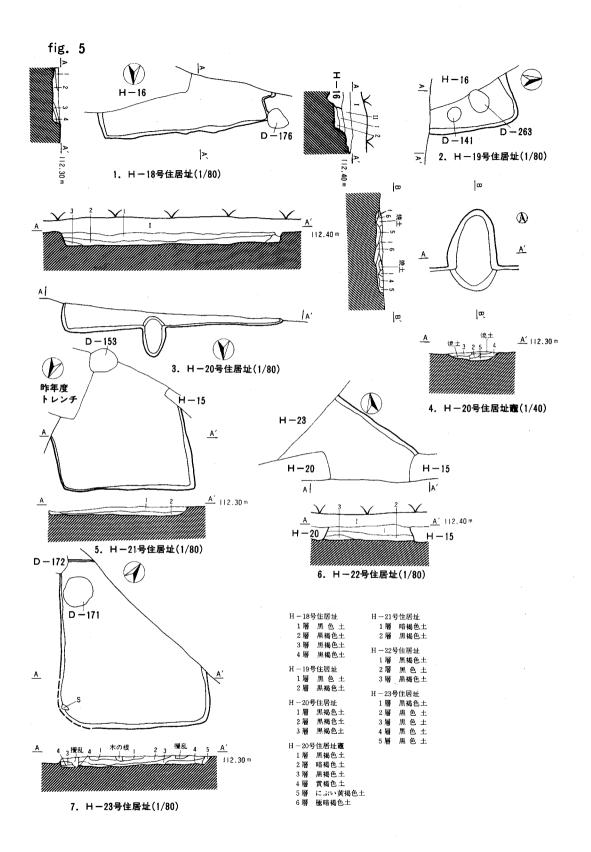
4. H-9号住居址竈(1/40)

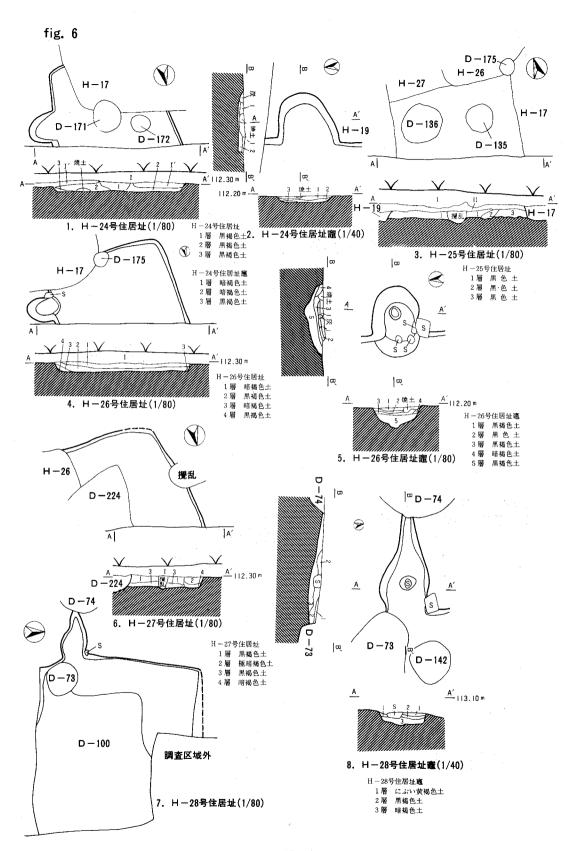


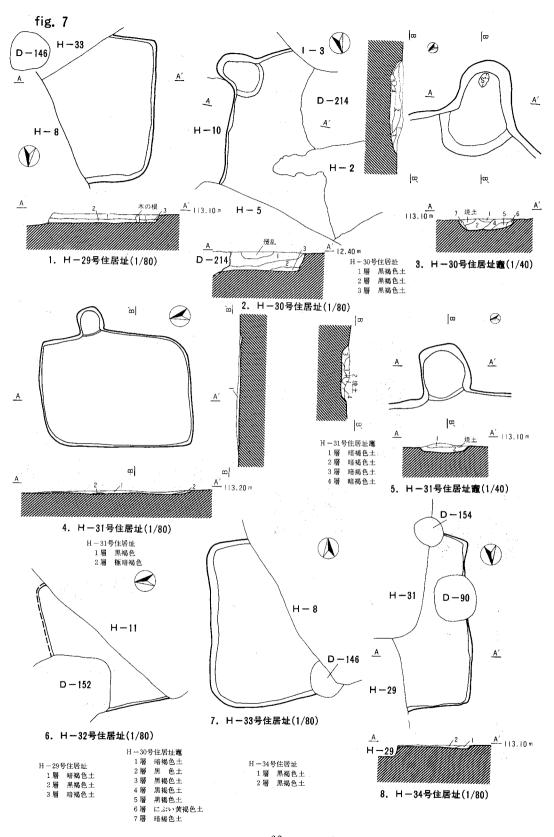
5. H-10号住居址(1/80)

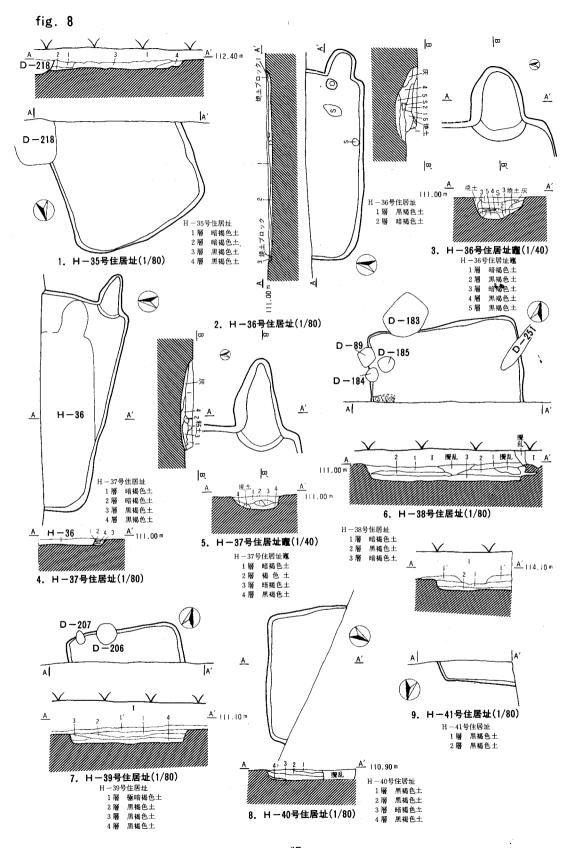
- H-10号住居址
- 1層 黒褐色土 2層 黒褐色土
- 3層 黑褐色土

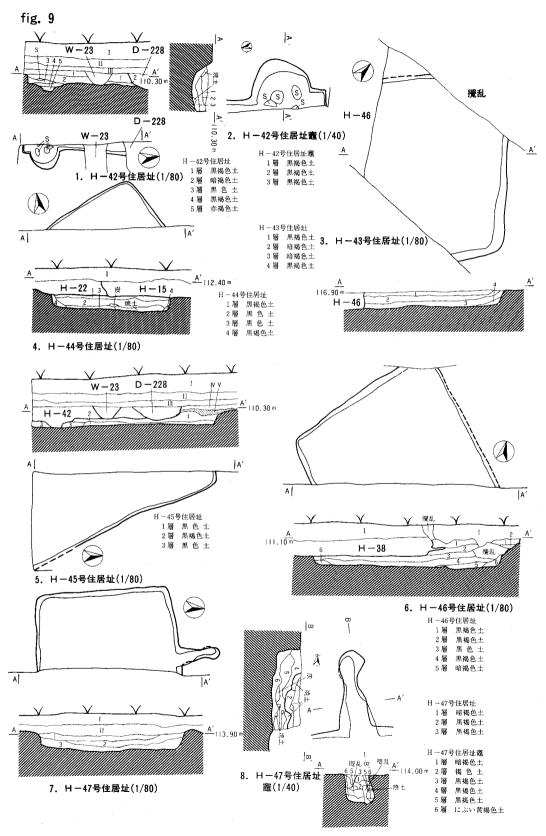


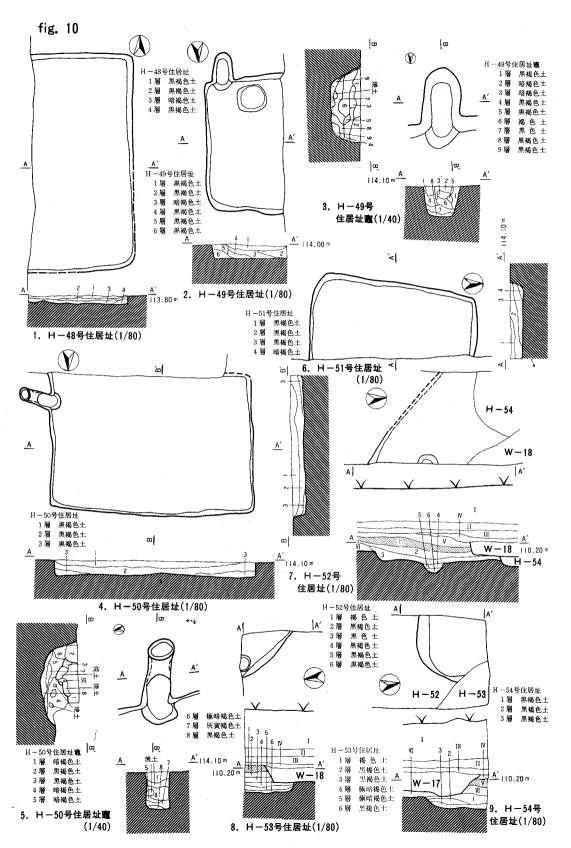


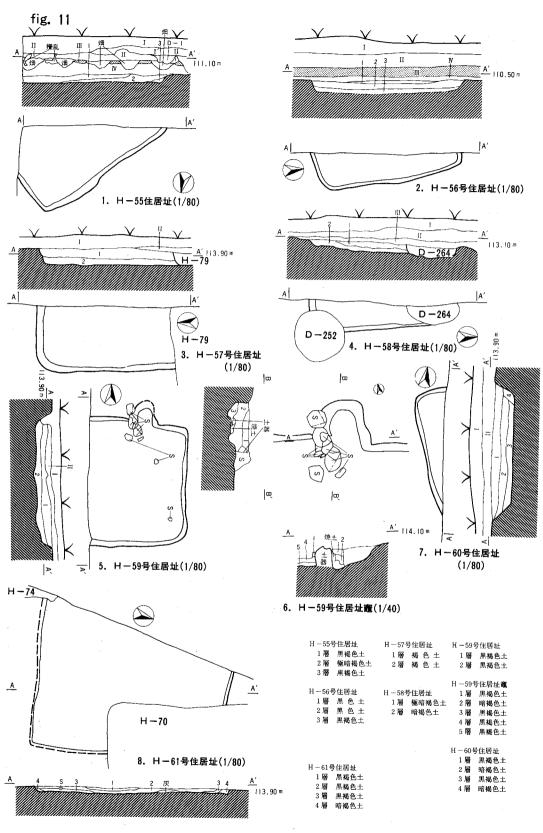


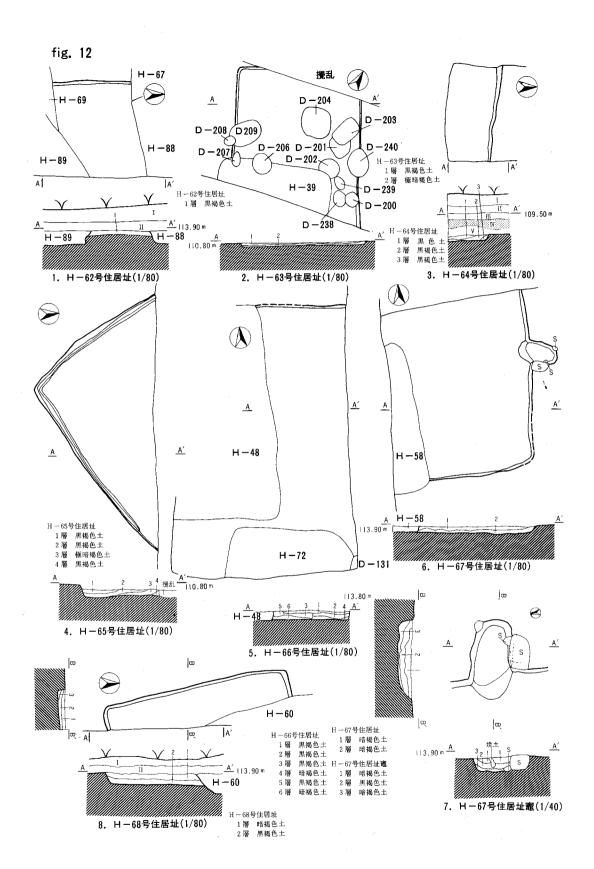


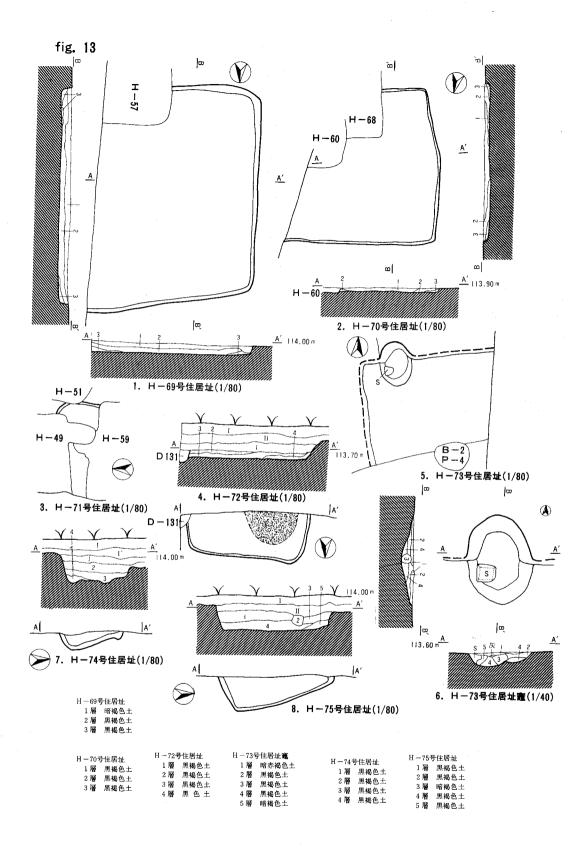


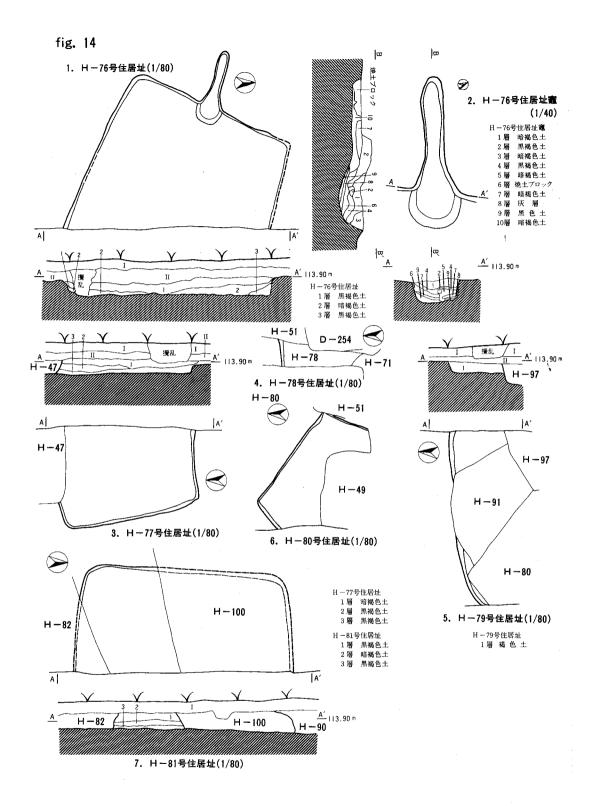


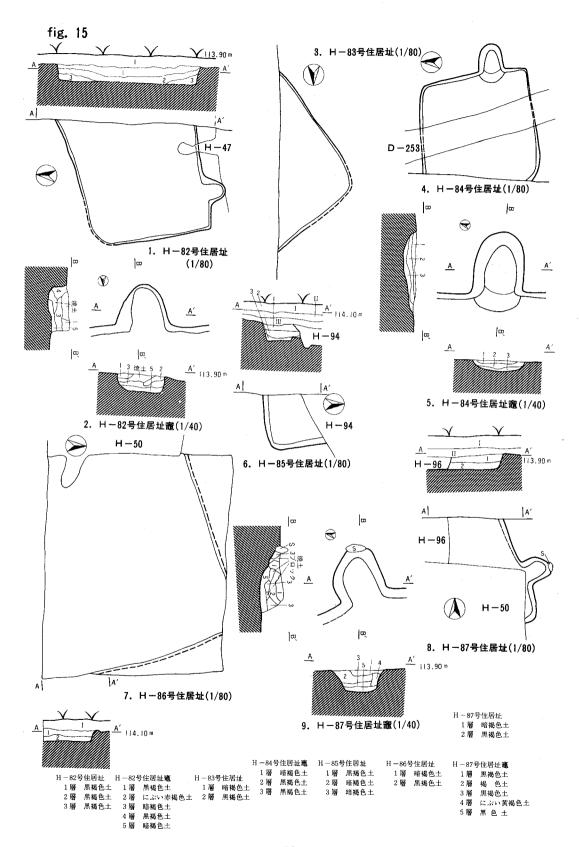


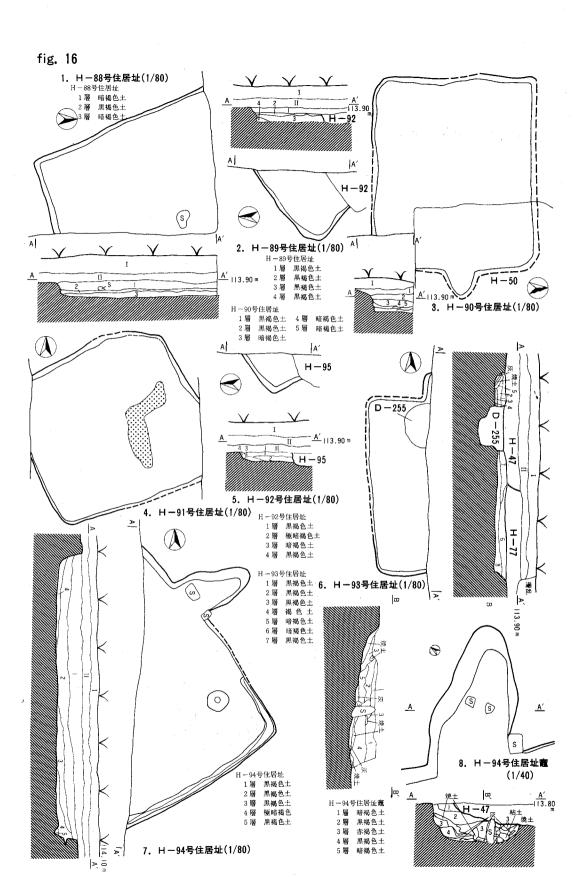


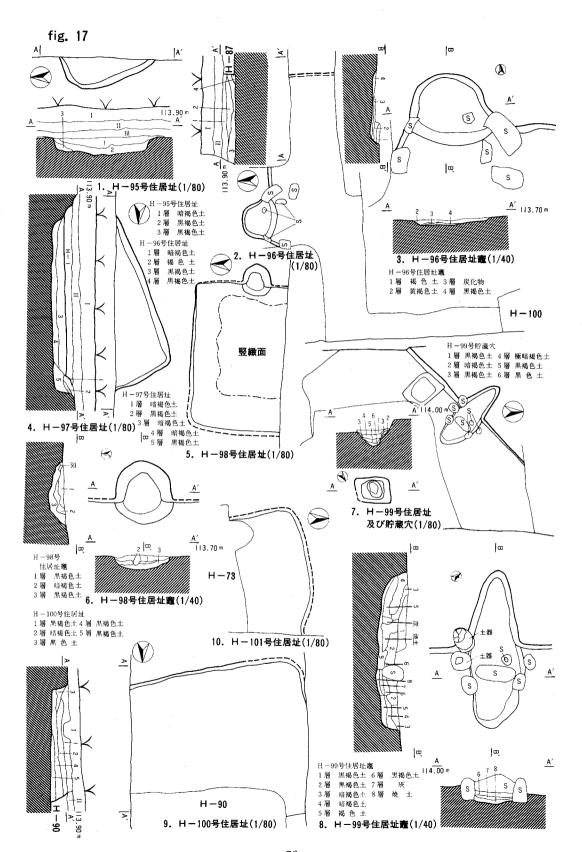


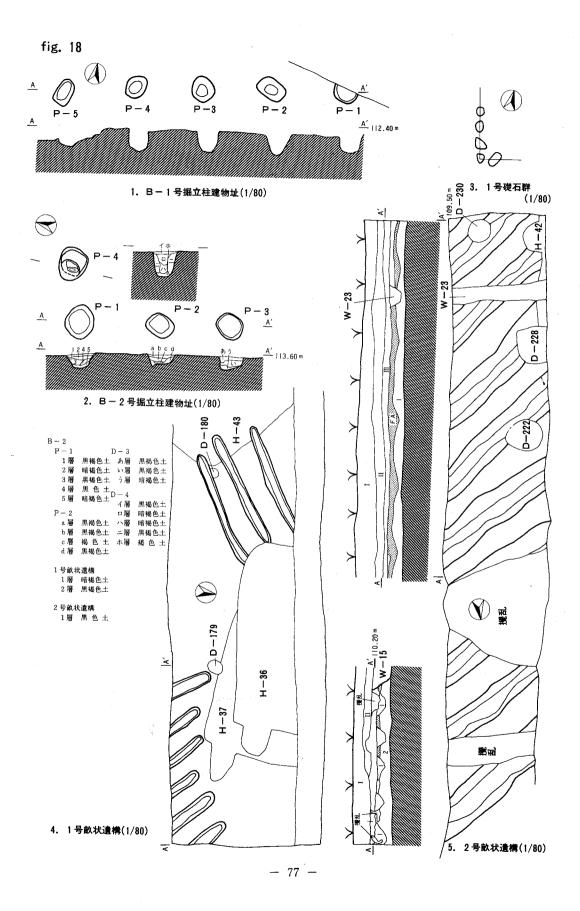


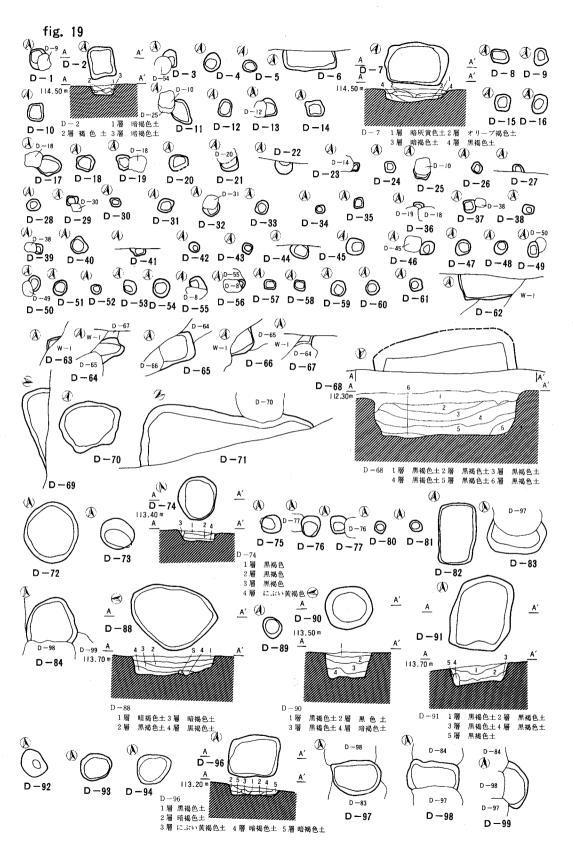


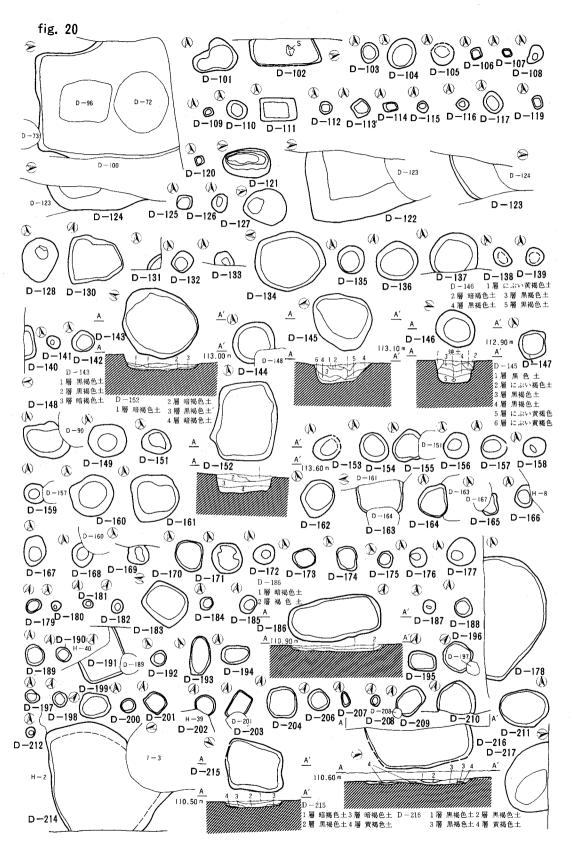


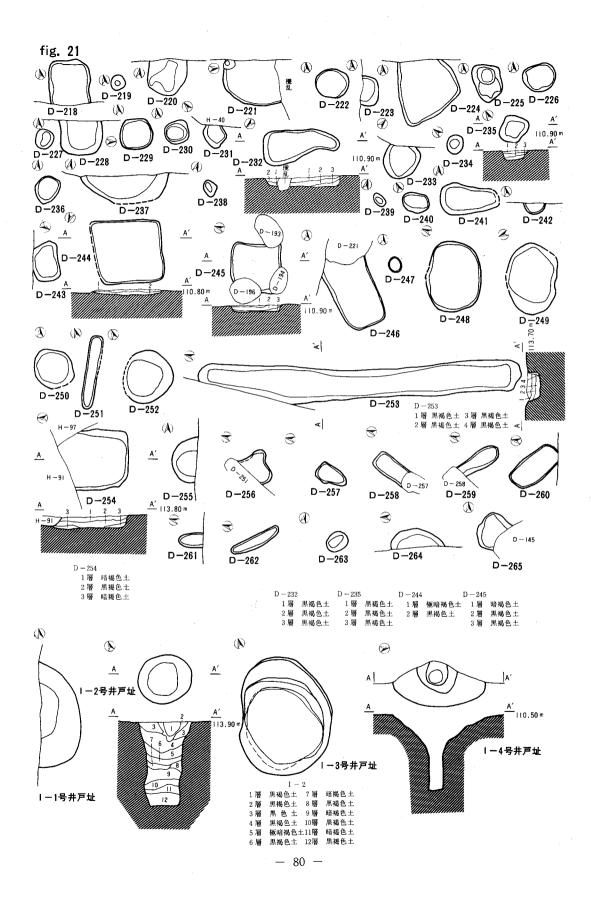












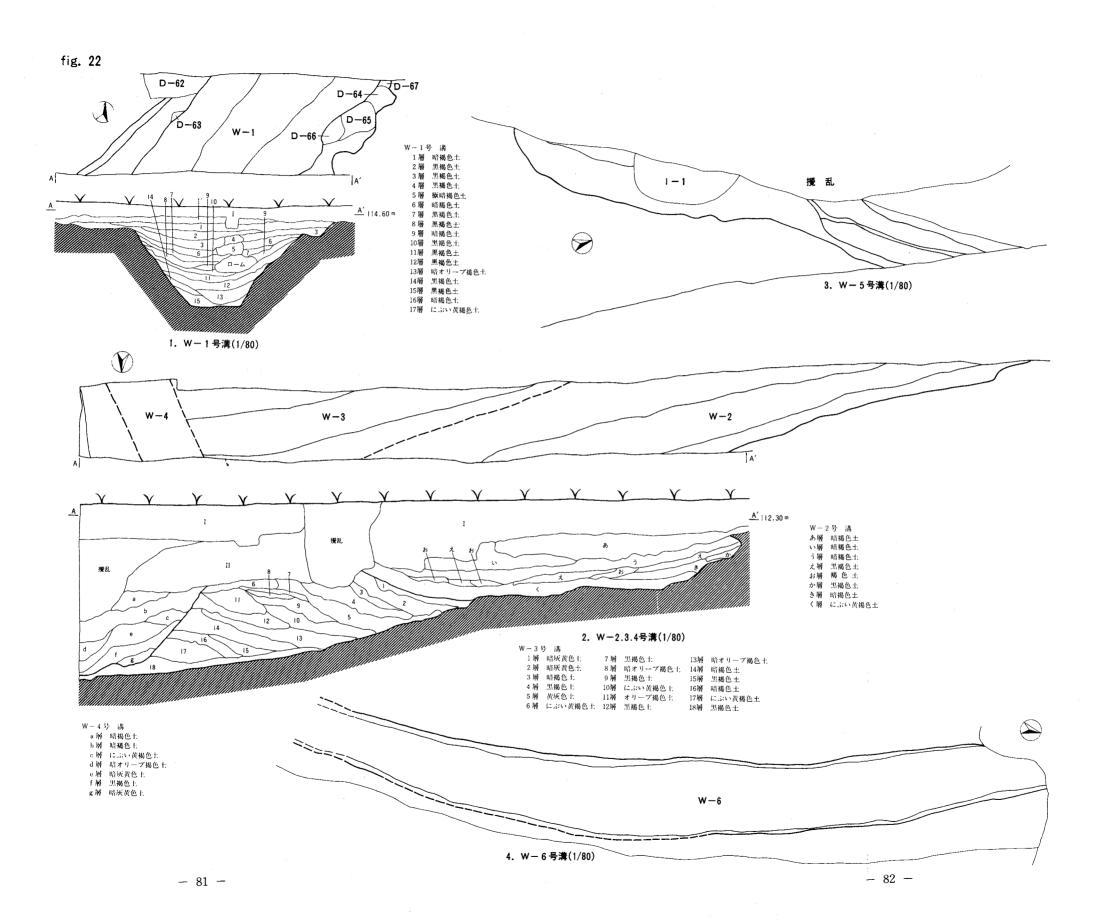
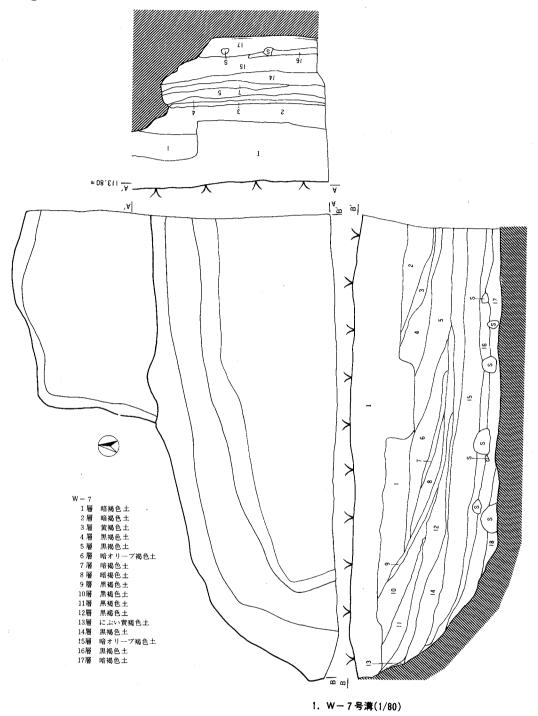
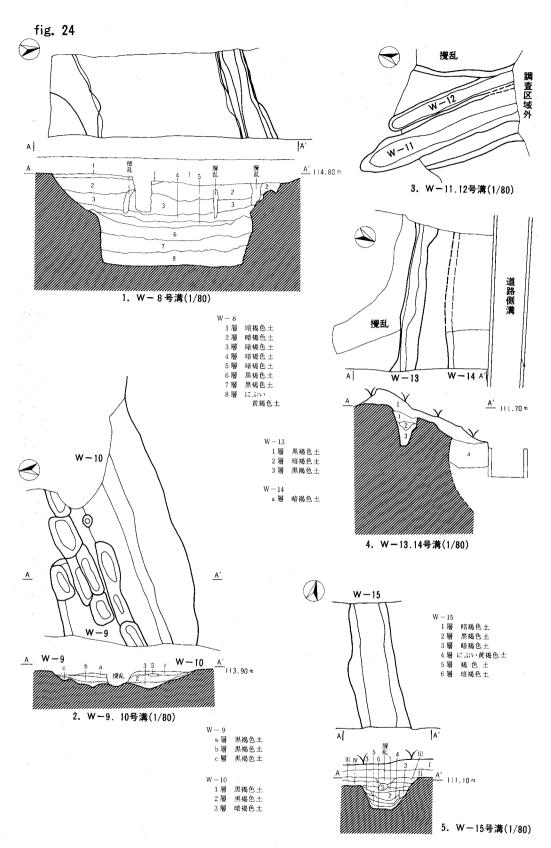
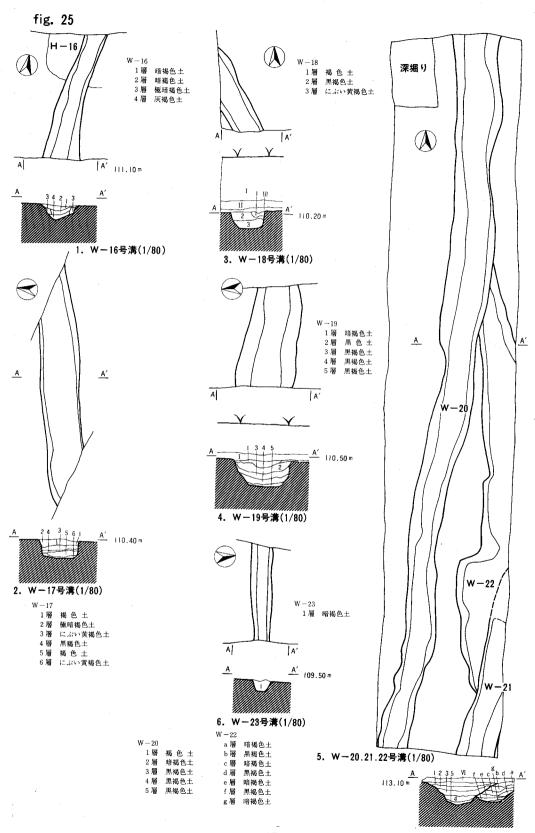


fig. 23







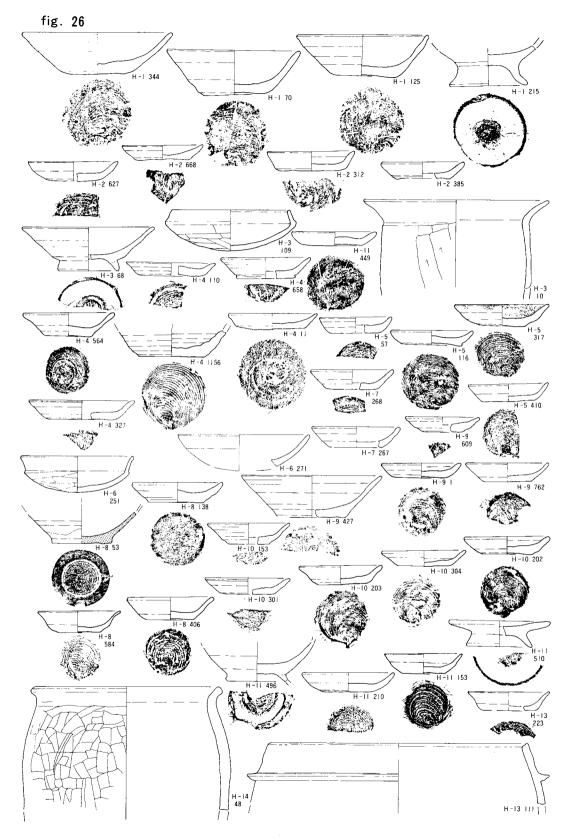


fig. 27

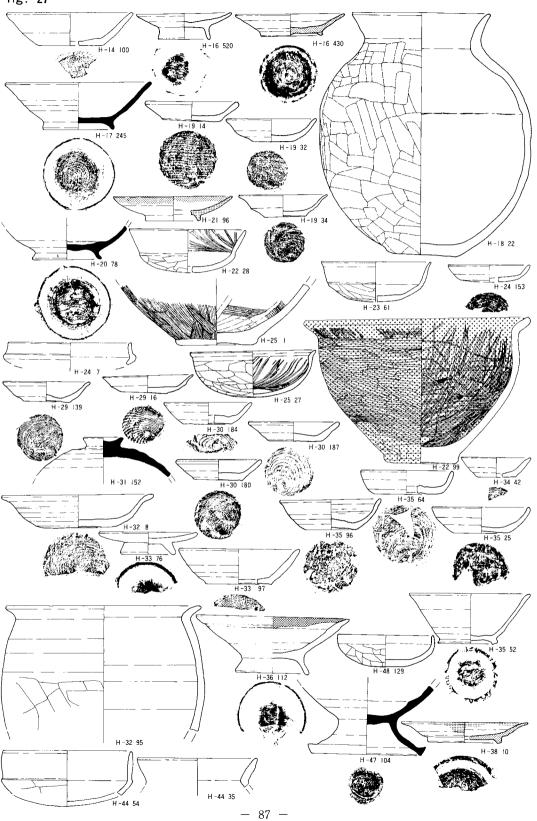


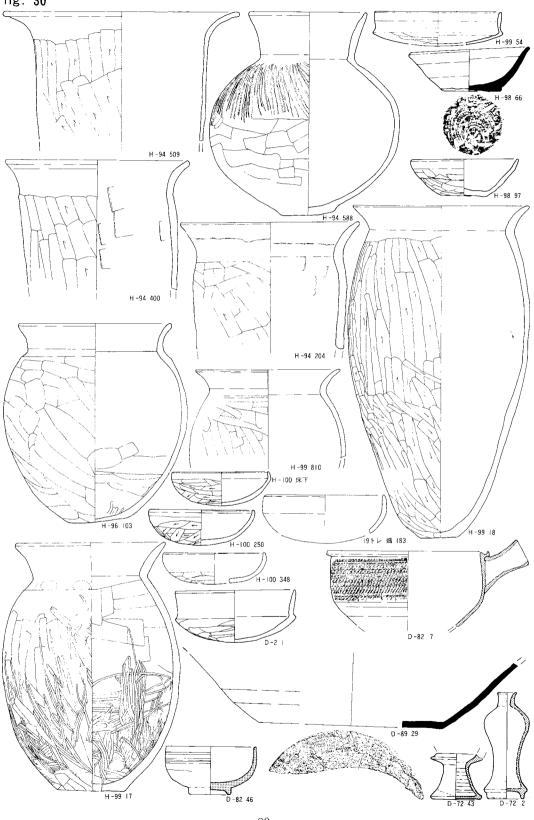
fig. 28 H-49 117 H-50 1311 H-42 21 H-49 84 -<u>3</u>H −51 138 H-50 325 H-42 24 H-55 19 H-61 393 H-52 143 H-61 416 H-61 637 H-59 339 H-62 48 H-65 131 H-65 49 H-67 459 H-68 50 H-69 592 H-59 340 H-70 174 H -69 49 H-70 337 H -70 121

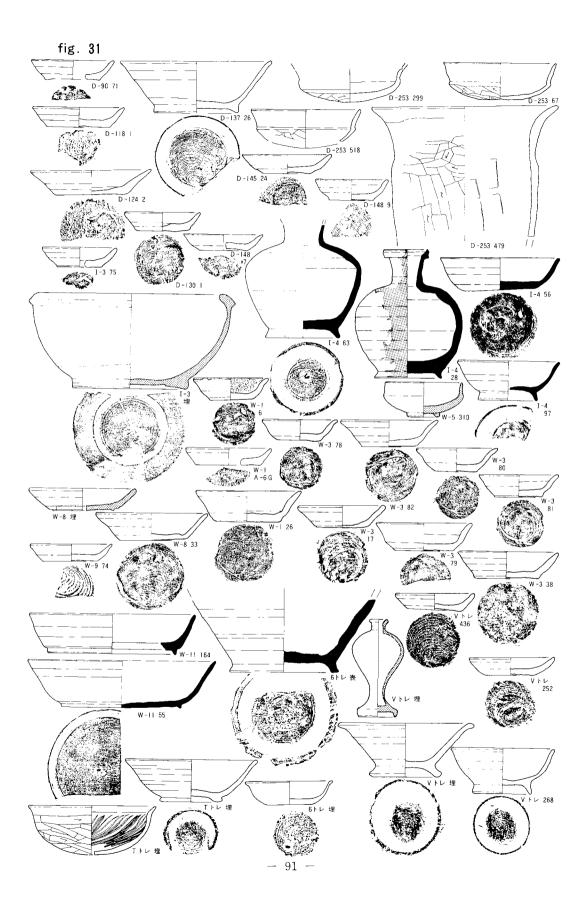
H - 70 370

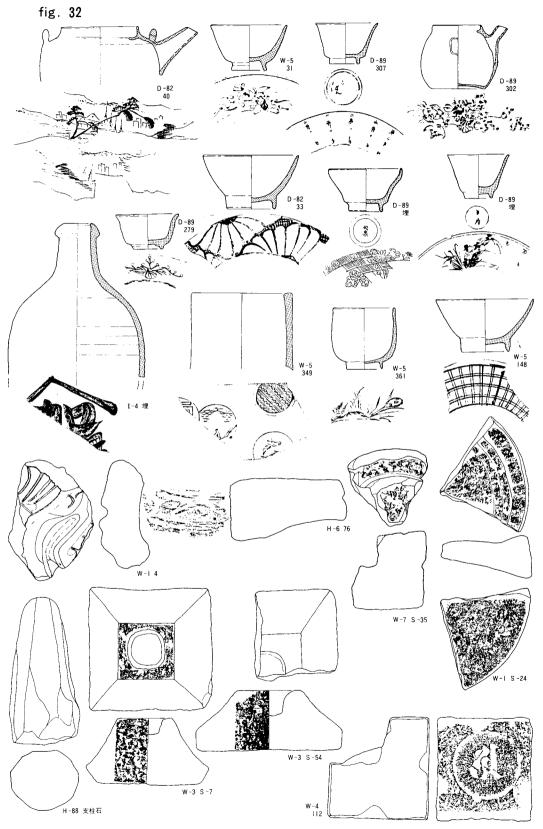
H-70 434

fig. 29 H-76 173 H-79 113 H-80 35 H-78 69 H-86 II H-87 530 H-90 457 H-81 291 H-90 321 H-90 295 H-91 237 /H-76 660 H-90 32 H-91 367 H-93 97 H-93 96 H-94 383 н-93 190 // H-94 150 H-93 176 H-94 381 H -95 58 H-94 576 H-97 9 H-97 16 - 89 -

fig. 30







- 92 **-**

fig. 33 W-3 S-173 W-3 S-165 W-3 S-155 W-3 S-82 W-3 S-24 W-3 S-11

- 93 -

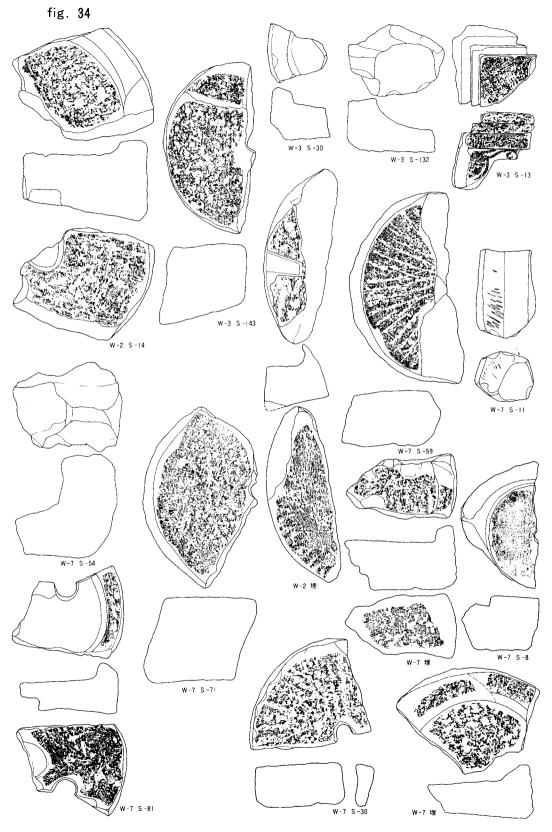
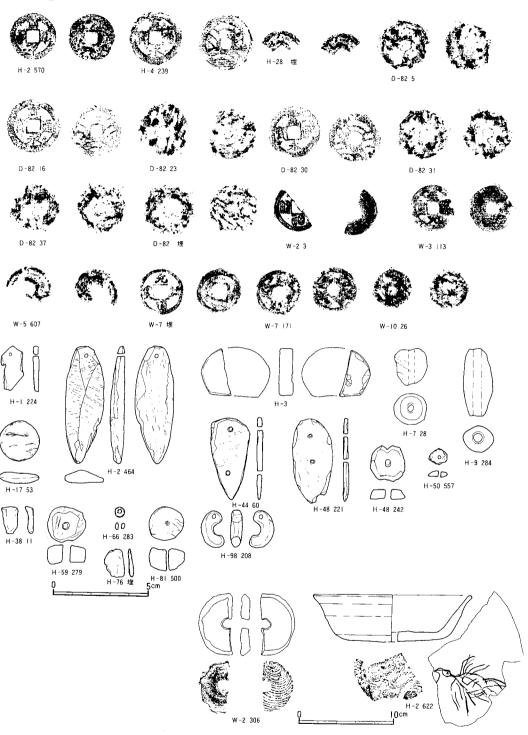


fig. 35





1. H-1号住居址





2. 日-1号住居址石出土状態



7. H-2号住居址竈断面



3. H-1、5、12号住居址断面



8. H-3号住居址遺物出土状態



4. H-2号住居址



9. H-3号住居址



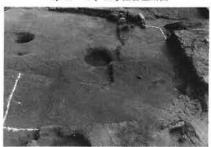
5. H-2号住居址竈



10. H-4号住居址竈



1. H-4、13号住居址断面



2. H-4、13号住居址



3. H-5号住居址



4. H-6号住居址



5. H-7号住居址遺物出土状態



6. H-7号住居址遺物出土状態



7. H-7号住居址



8. H-7号住居址竈

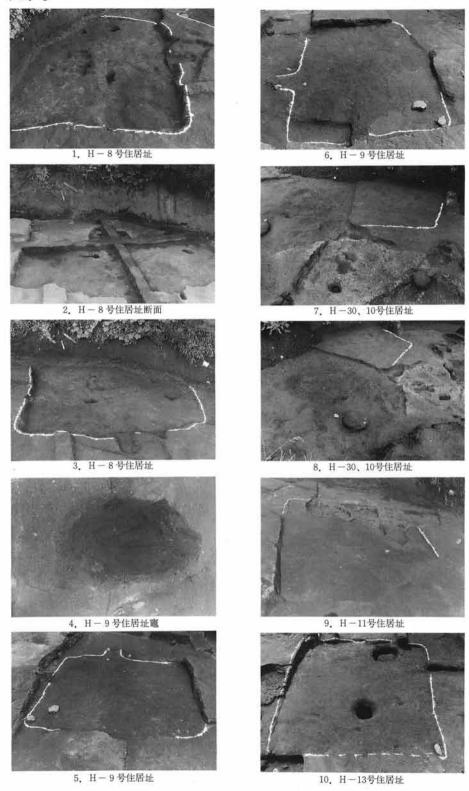


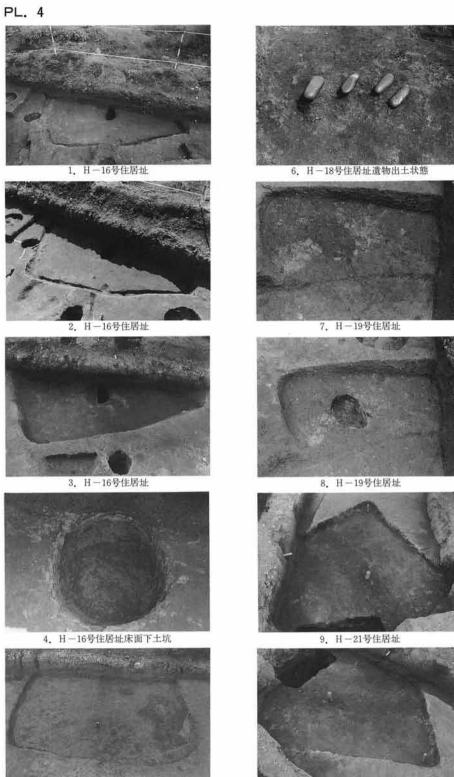
9. H-7号住居址床面下土坑(D-94)



10. H-8号住居址竈

PL. 3

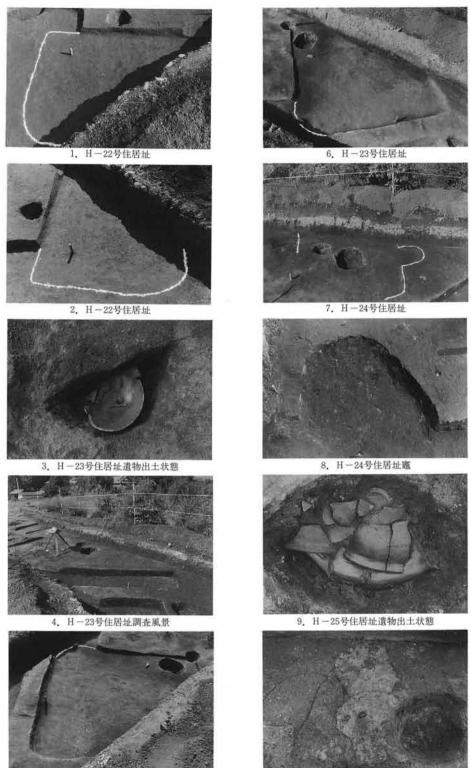




10. H-21号住居址

5. H-17号住居址

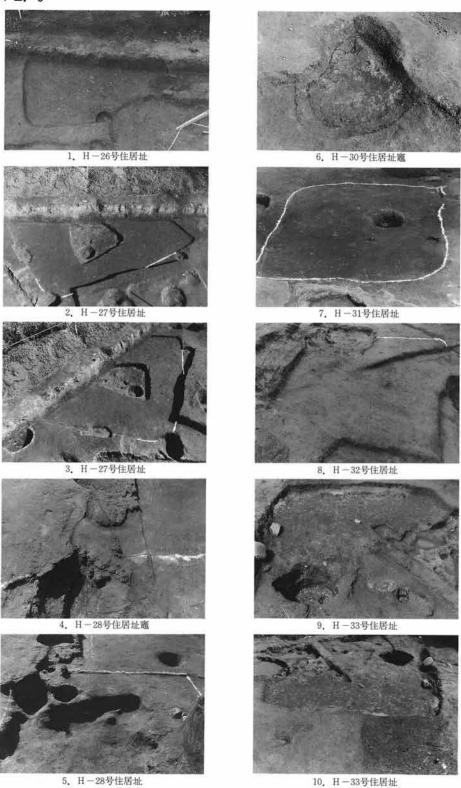
PL. 5



10. H-26号住居址床面燒土散布状況

5. H-23号住居址

PL. 6







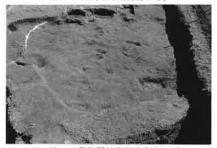
2. H-34号住居址



3. H-35号住居址(西から)



4. H-35号住居址(北から)



5. H-35号住居址堀り方(西から)



6. H-36号住居址(西から)



7. H-36号住居址(南から)



8. H-36、37号住居址



8. H-38号住居址



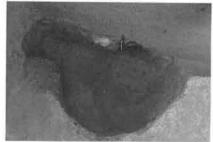
10. H-39号住居址

PL. 8



1. H-40住居址

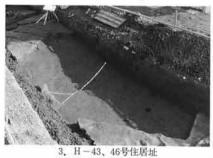




2. H-42号住居址竈



7. H-44号住居址遺物出土状態





8. H-44号住居址



4. H-43号住居址



9. H-45、46住居址



5. H-43号住居址断面



10. H-46号住居址

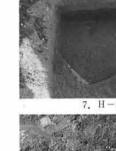


1. H-47号住居址



2. H-50号住居址断面





7. H-55号住居址

6. H-54号住居址



3. H-51号住居址





4. H-53号住居址



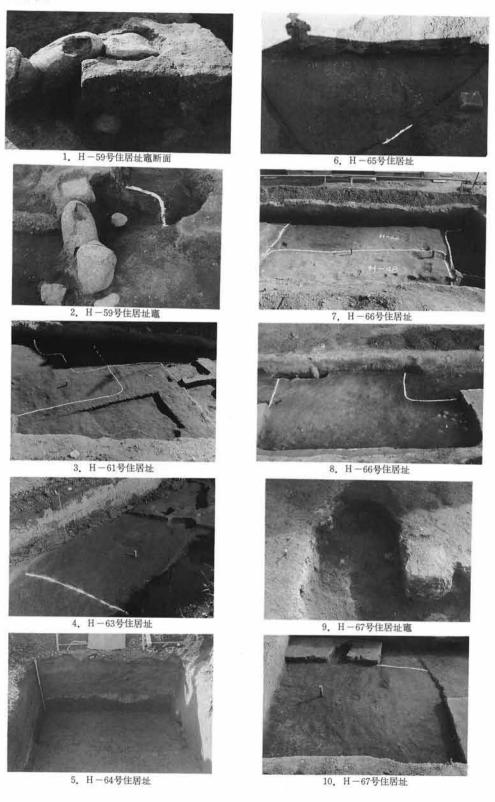
9. H-56号住居址

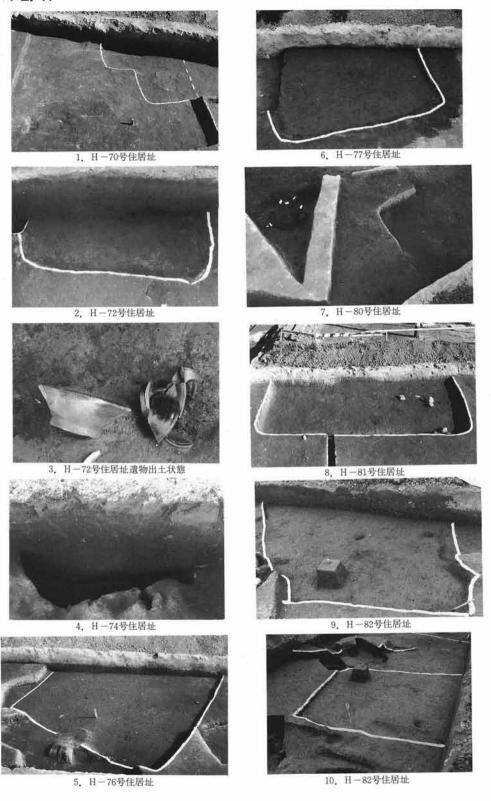


5. H-54号住居址

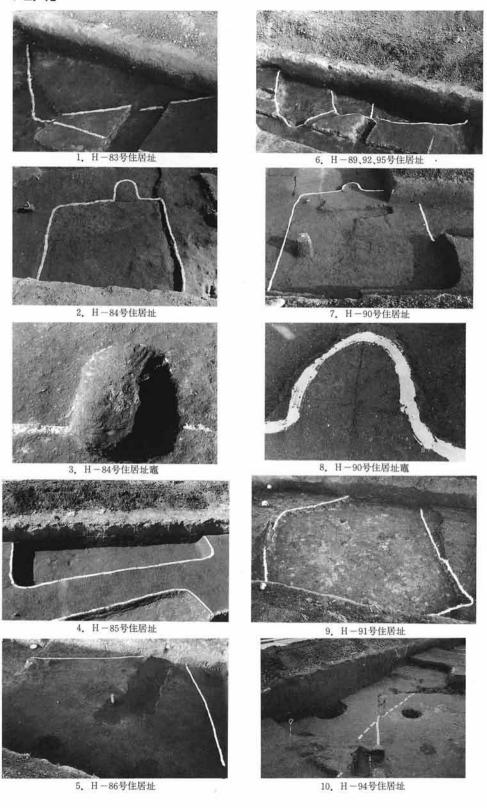


10. H-58号住居址





PL. 12





1. H-96号住居址遺物出土状態



2. H-97号住居址



3. 出一98号住居址断面



4. H-99号住居址遺物出土状態



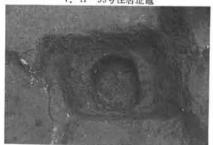
5, 日-99号住居址竈用材



6. H-99号住居址竈用材



7. H-99号住居址竈



8. H-99号住居址貯蔵穴

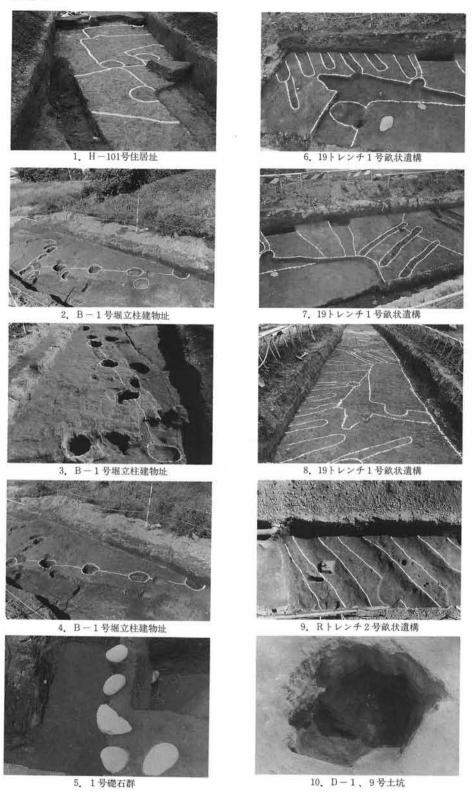


9. H-100号住居址断面(西から)

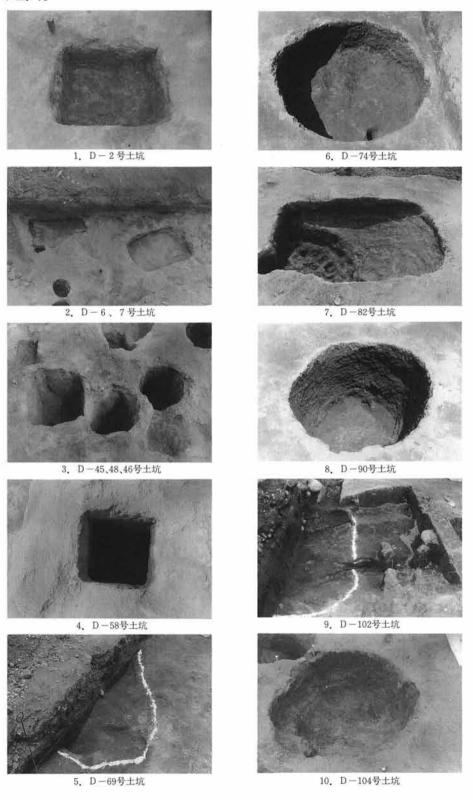


10. H-100号住居址断面(南から)

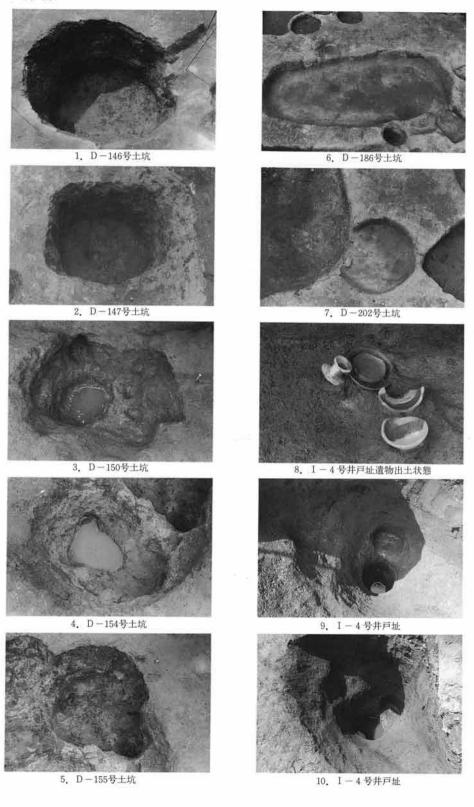
PL. 14

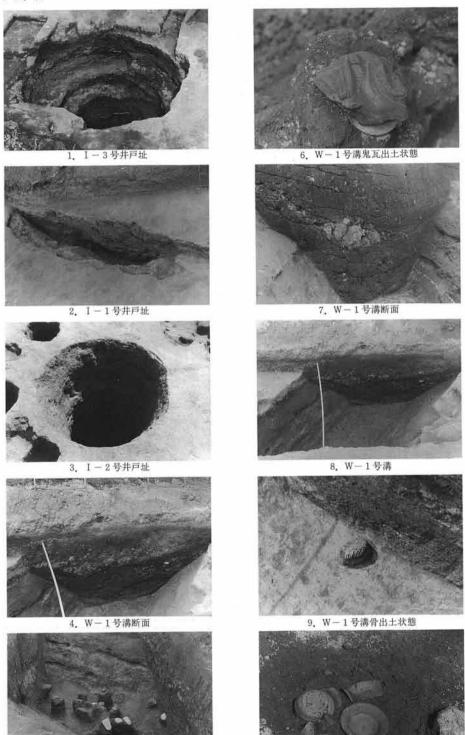


PL. 15



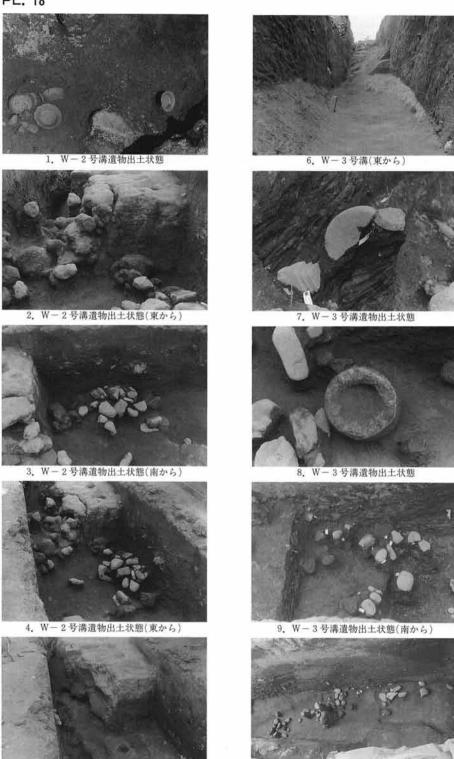
PL. 16





10. W-2号溝遺物出土状態

5. W-1号溝遺物出土状態



10. W-3号溝遺物出土状態(南から)

5. W-2号溝(東から)



1. W-3号溝遺物出土状態





2. W-3号溝遺物出土状態



7. W-3号溝遺物出土状態



3. W-3号溝遺物出土状態



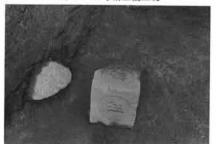
8. W-3号溝遺物出土状態(東から)



4. W-3号溝重複土坑



9. W-3号溝遺物出土状態(南から)

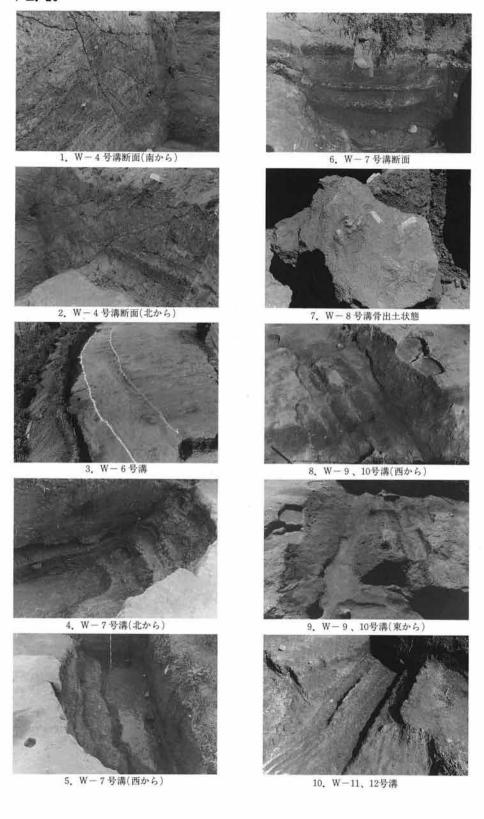


5. W-3号溝遺物出土状態

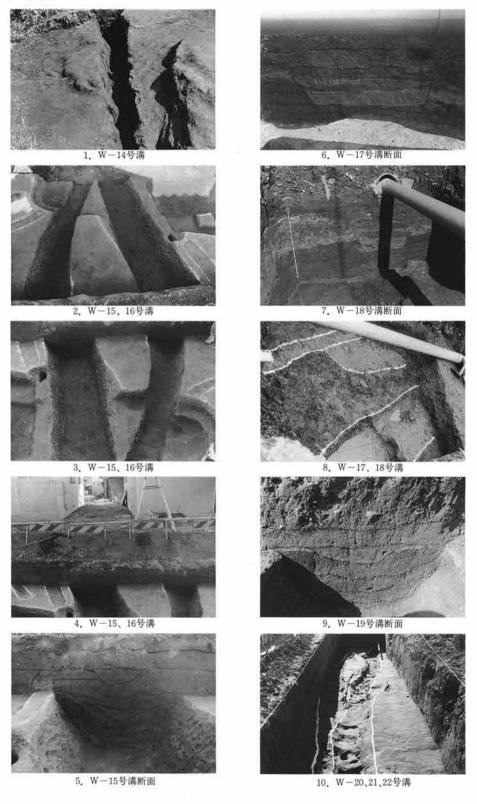


10. 蒼海城絵図

PL. 20



PL. 21

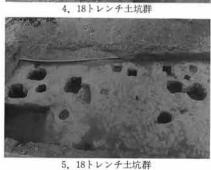


















7. Vトレンチ全景(南から)



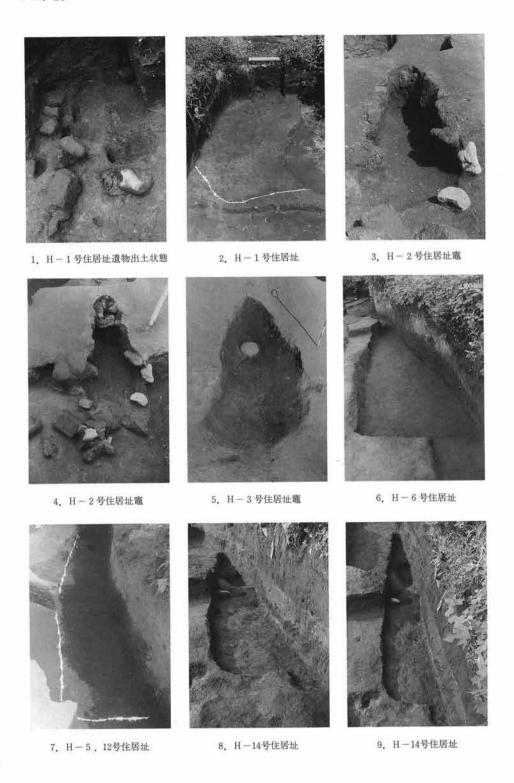
8. Vトレンチ全景(南から)



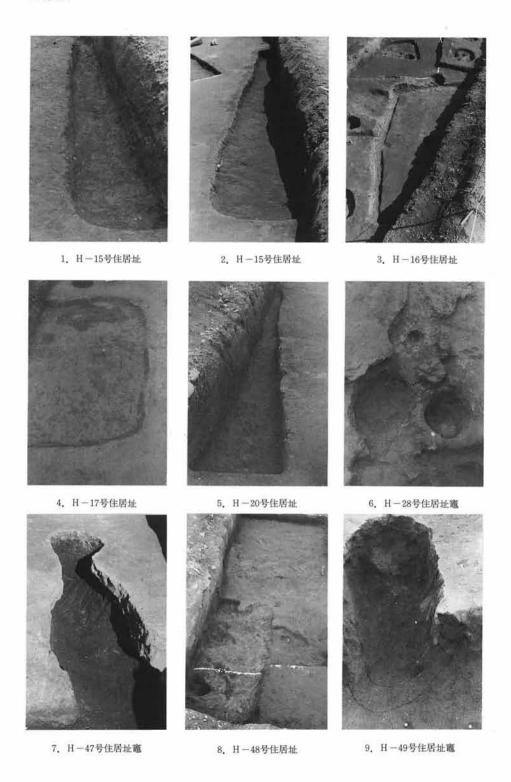
9. 6トレンチ全景(西から)



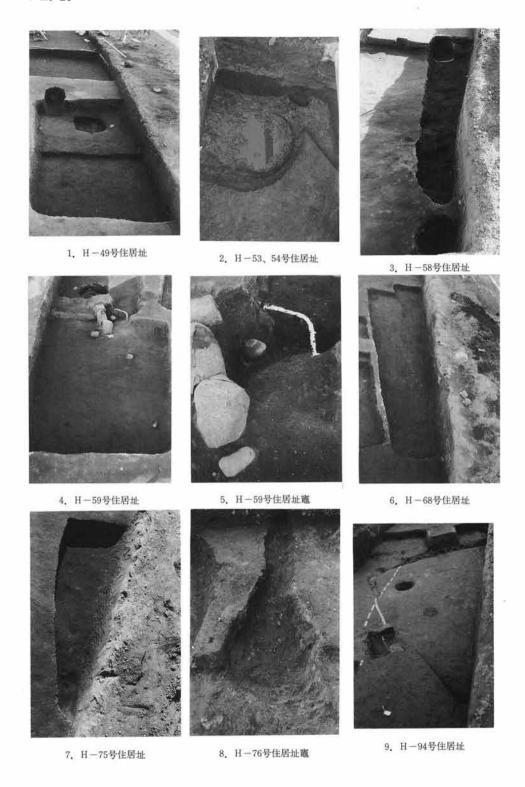
10. 6トレンチ全景(東から)

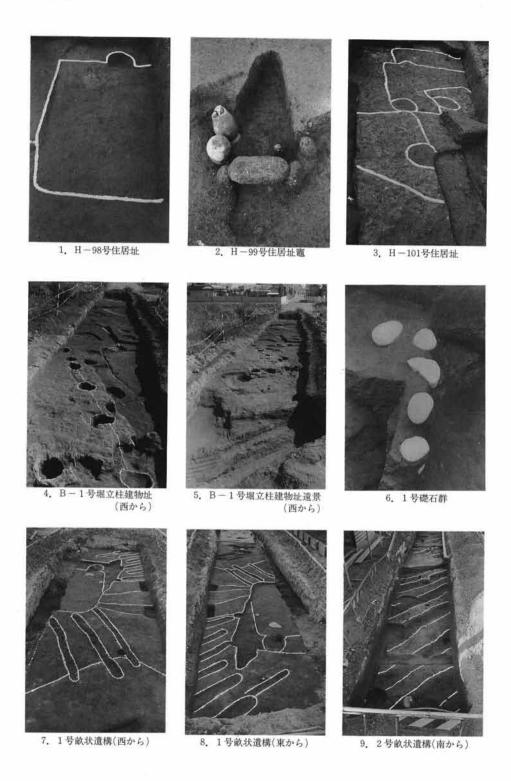


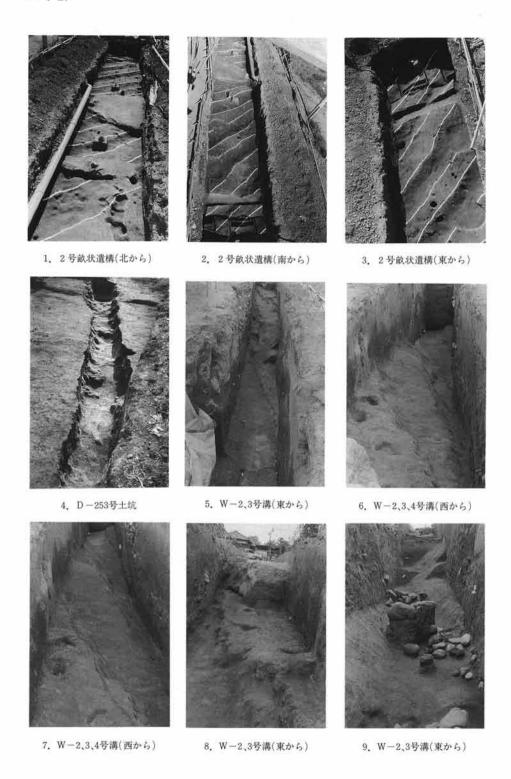
PL. 24

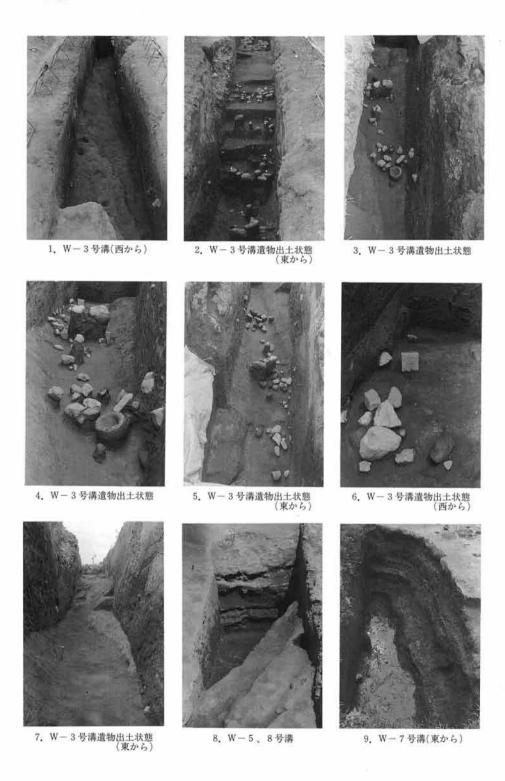


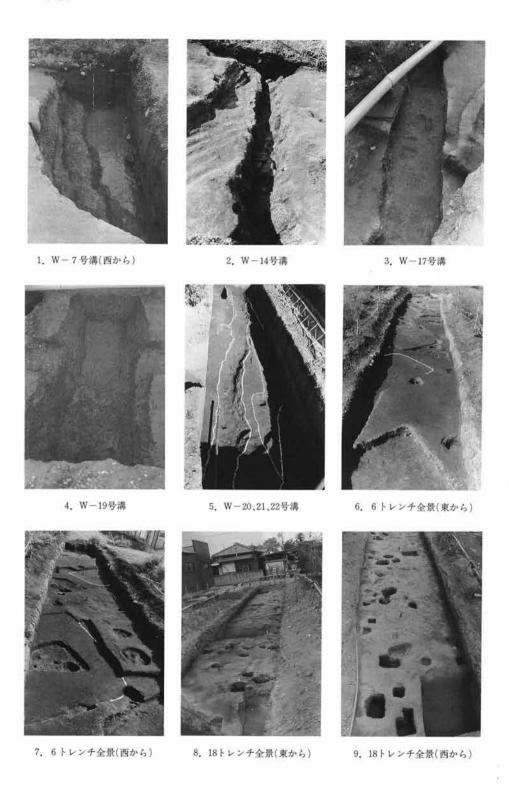
PL. 25















1. 18トレンチ全景(東から) 2. 19トレンチ全景(西から)



3. 6トレンチ調査風景



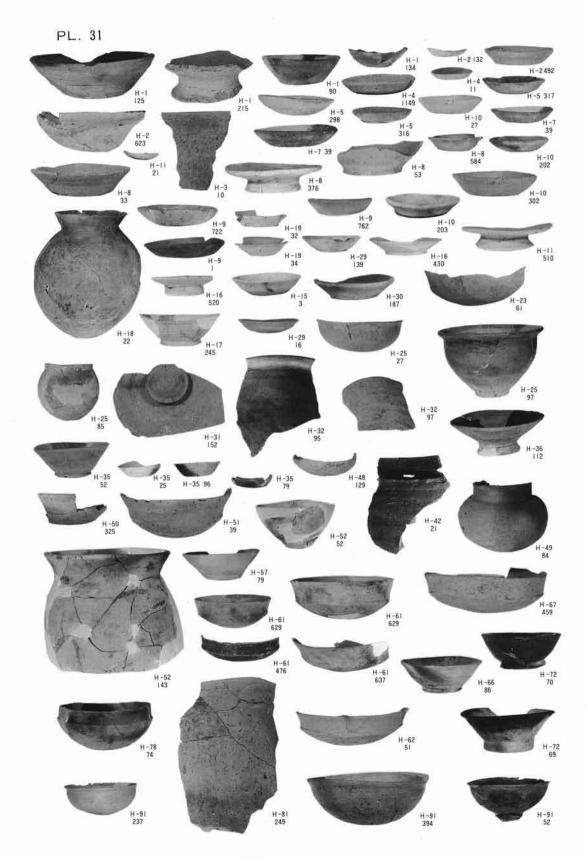
4. 調査風景スナップ



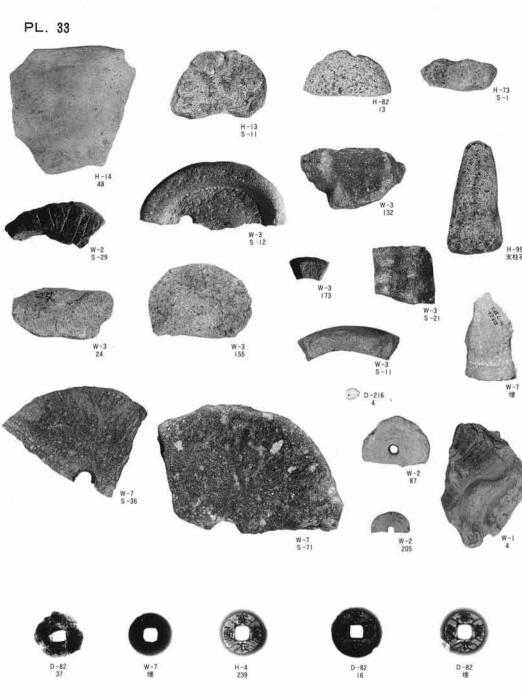
5. 現地見学会スナップ

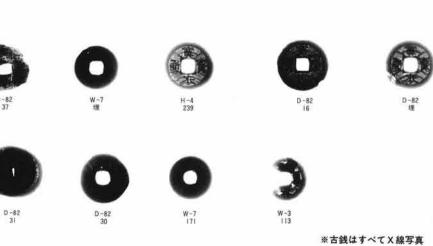


6. 現地見学会スナップ









Ⅵ 考 察

前橋市内出土の古式須恵器について

本調査でFA下の畑や、H-65号、H-91号住居址から出土している須恵器の环蓋は、大阪和泉陶邑窯 I 型式 3、4 段階に並行する時期のものと推定される。これらは、いわゆる、初期須恵器と呼ばれる範疇のものであり、その生産及び供給形態が注目されるところである。近年、須恵器の編年研究を軸に、考古学年代が求められており、須恵器がその根幹となっていることから、ひとたび間違えると大きな、研究の遅滞にさらされる危機感をもっている。こうした点、最近の、実測図に頼った外見だけの序列にはおおいに反省すべき点があると思われる。元来、揺籃期とは、その形が定まらないことから名付けられた名称であるはずであり、形式の比定が困難なのが当然である。近年の地方窯産須恵器の陶邑編年への比定は、一見明瞭で爽快であるかの錯覚に陥り易いが、その影には見逃す事のできない大きな指針の過ちが介在していることを忘れてはなるまい。こうしたことを踏まえて、本論では、前橋市内出土の I ~ II 期前半に相当すると思われる須恵器を集成してみたい。ここに集成した物の殆どが、既に発表済みのものであるが、一部、未発表の物、及び実測図に不備を認め、再実測を試みた物もある。時間等の制約から問題点も多々あると思われるが、今後それらを補って完全なものにして行きたいと考えている。協力戴いた関係者各位に謝意を表する次第である。

小神明湯気遺跡H-26号住居址(1) 竈を有する竪穴住居址のほぼ床面直上より出土した。他の土師器はいわゆる和泉式のものと位置付けられる。須恵器は天井部を欠損するが、おそらくつまみを有すると推定される。外稜は鋭く突出しており、その上下には成形時に強くナデることによりつけられたと推定される沈線をもつ。全体に厚手で、端部は丸くおさめている。外面天井部は、細かい単位の回転へラケズリで、ひじょうに丁寧に仕上げられており、内面は、手持ちによるユビナデを施す。外形は、陶邑では揺籃期の最古の一群に類似しているが、端部の調整や形態にやや疑問も残る。胎土は緻密で白色鉱物粒、黒色鉱物粒を多く混入する。東海周辺の製品と推定される。焼成は良好で、外面青灰色を呈す。

小神明湯気遺跡H-30号住居址(2) 竈を有する焼失家屋の床面直上から出土した。端部はしっかりと面取りされており、直線的に内傾して外稜部へと至る。外稜は比較的高い位置に巡る。天井部は細かいヘラケズリで、一度、厚く作ってから削っている。ひじょうに丁寧に仕上げられており、胎土は緻密で白色鉱物を多量に混入する。定形化以後の東海湖西の製品と推定される。焼成は良好で、色調は内面青灰色、断面セピア色を呈し、外面には、白色自然釉の付着が著しい。 荒砥島原遺跡E区9号住居址(3) 竈を持つ住居址から出土している。口縁部8分の1の小破片で、復元口径13.1㎝を測る。原典では甕としているが、田口(1987)では、TK73型式期に比定される腺としている。口縁部は強く外反し、端部に一条の隆線を持ち、その下に波状文を巡ら

す。端部は丸くおさめる。外面回転横ナデ後櫛描波状文、内面回転横ナデ。共伴の土師器高环はいずれも、脚部エンタシス状を呈する。胎土は緻密で、硬質、還元焰焼成、灰色を呈す。

元総社明神遺跡 VI、H-65号住居址 (4) FA下の住居址より出土している。肉厚の端部はしっかりと面取りされており、稜線は鋭く突出する。口縁部付近 6 分の 1 前後の破片である。胎土は緻密で、白色鉱物粒を混入する。焼成は良好で、内外面は青灰色、断面セピア色を呈し、白色自然釉が付着する。天井部の大半は欠損するが、回転へラケズリが施されている。

元総社明神遺跡VI、H-91号住居址(5) 竈を持たない住居址内より出土。口縁部付近6分の 1前後の破片である。端部はしっかり面取りされ、稜線内はしっかりと突出する。口縁部は丸み を帯び、横方向にナデを施す。天井部は欠損するが、回転へラケズリによる。口径13.4cmを測る。 胎土はやや粗く白色鉱物粒を含む。 I 型式 3段階に比定される。

荒砥島原遺跡 E 区 7 号住居址 (6) 竈を持つ住居址から出土。模倣环を含むセットである。須恵器の高环は坏部上半の小破片で、復元口径17cmを測る。口縁部は僅かに外反し、端部はやや立ち上がる。体部に2本の突線があり、この区画中に波状文が巡る。外面口縁部回転ヨコナデ、体部回転横ナデ後10本1単位の波状文を施文する。内面口縁部~体部回転横ナデ、口縁端部へラ調整。胎土は緻密で、硬質、還元焰焼成による青灰色を呈し、外面に自然釉付着。I型式3段階に比定される。

柳久保水田址(7) 浅間B軽石下の水田址より出土。直接、遺構に伴うものではなく、台地上の和泉期集落よりの流れ込みと考えられる。小破片の復元実測であり、角度にやや難があったが、中央隆帯の下方には、自然釉の付着がないことから、ここが最大巾であることが推定される。隆線をはさんで上下に波状文が施され、施文後、注口部を外から内側にあけている。中央の隆線をはさんで2段の波状文を施す大型腺は管見では東京都足立区伊興遺跡例がある。I型式3段階に比定される。胎土は比較的精選されており、焼成堅緻で、内・外面灰色、断面セピア色を呈す。**荒砥北原遺跡7号住居址(8)** 端部を丸くおさめた短い脚部から、突帯及び櫛描き波状文の巡る环部に至り、耳状の把手を付す。脚部にも櫛描き波状文が3段にわたって施文されており、透かし孔は、それらを切って6方向に穿たれている。环部口縁はやや歪んでおり、脚端部には自然釉の塊が付着している。胎土は良く精選されており、小砂粒、白色鉱物粒、溶けた黒色鉱物粒等が混入されている。焼成は堅緻で、自然釉は白色を基調としている。胎土や全体の特徴から、陶邑産ではないと云われており、おそらく、東海周辺の地方窯産と推定される。I型式3段階に比定される。

元総社明神遺跡 V、H-44号住居址 (9) 図では欠損しているが、口縁部は下にさらに延びる可能性がある。 I 型式 4 段階の直口壷と考えられ、稜線をはさんで、櫛描き波状文が施される。 竈の有無は不明の竪穴住居址床面直上より出土。共伴の土師器はいずれも和泉期のものである。 胎土は良く精選されており、焼成堅緻で、内・外面灰色、断面セピア色を呈す。

小神明九料遺跡H-48号住居址 (10) 竈を有するFA下の住居址より出土。口縁部のみ残存す

る腺である。極端に突出して面取りした外稜により口縁部も二段に作られている。外稜をはさんで上下に櫛描き波状文を施す。胎土は良く精選されており、白色鉱物粒を多量に混入する。焼成 堅緻で灰色を呈し、白色自然釉の付着が著しい。東海周辺の地方窯産で、I型式4段階に比定される。

(#16)

前山遺跡溝(11) 原典では、陶邑 I 型式 4~5 段階の坏身 2 個体、蓋 3 個体となっているが、 実見の結果、報文No.1・5 の身はともに同一個体と思われ、これらは、蓋身のセット 1 個体づつ を確認したものと考えられることから、担当者の了解を得て再実測を試みた。全体に摩滅が著し く、胎土は良く精選されており、白色鉱物粒が多量に含まれている。焼成は甘く、焼き締まりが ない。内・外面は青灰色、断面はセピア色を呈する。やや萎少化しており、口唇端部をつまみ出 して一段付けている。東海地方の製品と推定され、 I 型式 4 段階に比定される。

元総社小学校校庭遺跡住居址 (12) 元総社明神遺跡の範囲内に含まれる。元小の校庭から発見された古墳時代後期の竪穴式住居址から出土した。かって、群馬大学史学研究室を中心に調査されたもので、本品を含む出土品の一部は現在、前橋工業高校歴史研究部が所蔵している。偏平な底部にやや斜め上方に突出した蓋受けをもち、内傾してしっかり面取りされている口縁部へと至る。口縁の反り具合や、全体のプロポーションは東山11号窯製品に類似している。胎土に小砂粒、白色鉱物粒を混入する。焼成堅緻で、内外面ともに暗灰色を呈す。一部に白色自然釉が付着。

元総社明神遺跡VI、Tトレンチ(13) 表土中よりの採集遺物であるため、出土状況、遺溝の内容は不明であるが、H—91等の古式須恵器を出土する住居址が付近にある。口径8.8cmの口縁部付近のみしか残存しないが、大きさから樽型腺と推定されるが、高环の脚端部の可能性もある。胎土粗く小砂粗を混入する。焼成は堅緻で内外面ともに灰色を呈す。在地窯産と思われる。

小神明湯気遺跡H-29号住居址(14) 竈を有する竪穴住居址より出土。口縁部付近の小破片で、口径の小さい樽型腺の一部と考えられる。端部はシャープに面取りされており、外稜の下に波状文を有する。胎土は比較的良く精選されており、白色鉱物粒を多量に混入する。焼成は堅緻で内、外面灰色、断面セピア色を呈す。東海周辺の地方窯産で、I型式3~4段階に比定される。

元総社明神遺跡 V、H-49号住居址 (15) 口縁部付近 8 分の 1 程度の环身の破片で底部を全く欠損する。器高に比して口径が大きいため、偏平な感じを受ける。蓋受けはやや下向きに突出しており、口縁部は内傾気味に立ち上がるが、上半で直立して口唇付近では外開き気味である。端部は一段内そぎをしているため鋭く尖っている。比較的器肉は薄い。胎土は精選され、白色鉱物粒、黒色鉱物粒を混入する。焼成堅緻で内、外、断面ともに灰色を呈する。

荒砥上諏訪遺跡1号住居址(17) 口縁部と体部の境に明瞭な段を持つ須恵器环蓋である。天井

部は回転へラケズリ、内面はロクロ整形痕が残っている。器面にやや歪みが見られる。全体的につくりが良好である。原典では、覆土中にはFPが認められるとしているが、FAの降下前のセットととらえて問題なく、再検討を要する。I型式5段階に比定される。

西大室Ⅲ (梅の木) 遺跡 (18) 居宅址の周辺であるが、環溝よりは外側から出土している。环蓋身のセットで各々全体の3分の1程度の残存状況である。蓋は口縁端部をややつまみ出す感じに突出させ、面とりをしており、ほぼ直立して天井部へ至る。外稜は下に沈線を入れることにより鋭く突出させている。天井部のケズリの範囲は広く、比較的高い天井を有する。身は、ほぼ平底の底面から丸みを帯びて立ち上がり、蓋受けは鋭く突出している。やや内湾して、直立して丸みを帯びる端部へと至る。ケズリは底部約半分に施されている。胎土は両者ともに比較的よく精選されており、焼成堅緻で内・外面灰色、断面セピア色を呈す。外面の一部に黒色自然釉の付着がある。Ⅰ型式5段階に比定される。

元総社町前内出 (19) 出土地は、染谷川東岸の河岸段丘上である。遺溝の性格は不明であるが、 古墳の可能性もある。把手部を欠損するが、いわゆる把手付き椀である。底部は平底で、手持ち ヘラケズリを施す。体部中央には、稜線にはさまれて6本程度の単位の櫛描き波状文が施され、 口唇部は内そぎをして、一段稜を設けている。整形は、全体にシャープな感じをうける。

東上野町古墳 (20) 畑の地下1mの所から出土したというが、出土遺跡は古墳であるらしい。 完存している把手付きである。底部はやや底上げ気味で、器形は全体的に丸みを帯びており、中 央の櫛描き波状文を挟むように2条1組の沈線が施文されている。口唇部はやや外反する。県内 で器形的に本品と類似する物に大泉町仙石山遺跡4号住居址出土品がある。

小神明九料遺跡BH-9号住居址 (21) FA下住居址の出土品である。环蓋の口縁部10分の1程度の小破片であるため、図にやや難があるかも知れない。口縁端部はつまみ出され、しっかりと面取りされている。ほぼ直立しており、天井部との境には、しっかりしたかなり高い外稜を有する。整形が全体にシャープで、胎土はよく精選されており、焼成はやや甘く灰色を呈す。 I型式5段階に比定される。

梅の木遺跡H-14号住居址 (22) 豪族居宅卦で有名になった梅の木遺跡の竈を有する住居址より出土。遺構の北半分を居宅の堀に破壊されており、居宅の上限を求めるのに重要な資料となりうる。須恵器は総数で十数片出土しており、すべて大甕の破片で、胎土、焼成から2個体に分類することができる。

22は角度の復元も難しい口縁部極小破片である。口唇は丸く仕上げ、0.6cm入って突線を一条巡らす。かなり大きく外反するものと思われる。内面はナデによる整形が施される。胎土は良く精選されており、白色鉱物粒を混入している。焼成は堅緻で、内、外、断面ともに青灰色を呈する。東海周辺の地方窯の製品と思われる。

梅の木遺跡H-14号住居址 (23・24) 23は自然釉の付着具合と断面の曲面からみて肩部の破片と思われる。4点接合された。外面は格子状タタキが施され、その後、部分的にユビで横方向に

ナデられている。ある一定の間隔を持って、スリットを入れているかのようであるが、破片であるため明らかにしがたい。内面は青海波状文のあて具痕を丁寧にナデ消している。24は下半部の破片で、外面の格子状タタキはかなり消されている。内面はやはり丁寧にナデ消されている。焼成は堅緻で、内面青黒色、外面は黒色で、白色の自然釉が著しく付着しており、断面はセピア色を呈する。胎土中に白色鉱物粒を混入しており、東海周辺の製品と推定される。

元総社明神遺跡VI、FA下畑 (25) 大甕の胴上半部小破片である。FA 直下の畑内より出土している。外面は平行タタキ後、横方向にナデてスリットを入れている。内面はあて具痕をナデ消している。胎土は精選されており、白色鉱物粒を混入する。焼成堅緻で内、外、断面ともに、灰色を呈している。

南田之口遺跡H-2号住居址 (26) FA純層下の出土品で4点とも同一個体の上半部と推定される。外面調整は平行タタキで横方向にナデてスリットを入れている。内面はあて具痕をきれいにナデ消している。胎土はよく精選されており、焼成は堅緻で、内、外面は灰色、断面はセピア色を呈している。

小神明湯気遺跡H-26号住居址 (27~29) 三点とも同一個体と推定される。1の环蓋とセット関係にある。竈を持つ竪穴住居址からの出土品である。外面はひじょうに細かい格子状タタキと思われるが、(28)の下半部には一部平行タタキも併用されていることから、あるいは平行タタキの交互、繰り返しとも推定される。部分的にナデてスリットを入れている。内面はすべてあて具痕をナデ消している。胎土はよく精選されており、白色鉱物粒を多量に混入する。焼成堅緻で、外面青灰色で、白色の自然釉が著しく付着。内面灰色、断面はセピア色を呈す。東海周辺の地方窯産と推定される。

元総社明神遺跡 V、W-17号溝(30) 豪族居住址と推定される F A 純層下溝内より出土している。外面調整は平行タタキによる。内面はあて具痕の青海波状文をきれいにナデ消している。胎土は緻密で、焼成は堅緻、色調は内外面灰色、断面はセピア色を呈す。口縁部が残存していないので時期決定は難しいが、F A 下の出土であり、共伴の土師器から見ても I 型式 4 段階前後に比定されると思われる。

荒砥天之宮遺跡 C 区12号住居址 (31) 住居址のほぼ床面直上より出土した。樽型 顧嗣部の2分の1ほどの破片で、注口部分、口縁部は欠落していた。復元胴部長は左右対称の場合、18.3cmを測る。胴部最大径14.4cm、側面径8.7cm、器肉は0.9~1.1cmと比較的厚い。胴部は3本の沈線で区画され、各々の間には、9本一単位の櫛状工具による波状文が施される。内面はナデにより仕上げられる。器面には自然釉の付着が著しい。

王山古墳(32~35) いずれも石室内及びそれらの撹乱内より出土している。32・33ともに环蓋の天井部付近の破片である。端部は残っていないが、破片から、口径は、比較的大きいMT15型式期に特徴的なものであると考えられる。胎土は甘く、少砂粒を多量に含んでいる。

34は、口縁部付近小破片の復元実測であるため、角度、口径等にやや難がある。石室内の出土

遺物であり、本墳の年代を考える上で、興味ある資料である。址蓋の可能性も考えたが、割れ口部分が隆帯に移行する部分と考えられることから、42の端気着帳遺跡例と同様の体部に二条隆線を持つ、無蓋高环であると断定した。胎土も42とは類似しており、口径の大きいII型式1段階に比定される。35は高环の脚部付近の破片である。34と同一個体かどうか明らかでない。端部をつまみ出す特徴的な技法は、太田金山周辺の製品と推定される。胎土は精選されており、焼成堅緻で灰色を呈す。

端気着帳遺跡H-3号住居址 (36) 全体の3分の1程度残存する。法量は小さいが、端部はしっかりと面とりをしている。比較的肉厚である。胎土は白色鉱物粒を多量に混入しており、焼成は甘く、脆弱である。色調は内、外、断面ともに灰色で、部分的に橙色を呈す。 I 型式5段階~II型式1段階前後に比定される。

富田東原 4 号墳(37) 本古墳は径16.5mの小円墳で主体部は削平されていた。埴輪は円筒列、 形象列の存在が確認されている。須恵器は土師器の模倣环とともに周堀内より検出されており、 完存していた。体部ほぼ中央に最大径を持ち、急激にくびれて口縁部は直立する。胴部中央の刺 突によ 列点状文を二条の沈線で区画する。底部外面へラケズリ、内面には回転整形痕が残り、 胎土は緻密で、石英粒等の夾雑物が含まれている。焼成堅緻で、肩部の半分は自然釉がにぶく光 っている。Ⅱ型式1段階に比定される。田口一郎氏は残存器形として指摘している。

端気着帳遺跡H―1号住居址(38~47) 一括セットとして興味ある資料である。38は口縁部の 小破片であるが、端部の面取り、直線的な口縁部、しっかりした外稜と比較的高い天井部をもつ。 1型式5段階に比定される。これに対し、39の蓋は偏平な天井部に、極端に開いた口縁部、口径 の大きいこと等から、40とともにⅡ型式1段階に比定される。41の短頸壷は小破片で復元角度に やや難もあるが、おそらくこれもII型式1段階を前後する時期の所産と考えられよう。42の高环 は3方の長脚1段透かし孔を持つ。环部に2段の外稜を持つ。口径の大きい II 型式1段階に特徴 的なものである。43の蓋は、口唇端部をつまみ出して、外反させる特徴的な器形を呈する。胎土 は良く精選されており、白色鉱物粒を混入する。焼成は堅緻で、内、外、段面共に灰色を呈し、 外面は黒色の自然釉が全面に付着している。時期は44・47とともに新しい要素をもちⅡ型式2段 階に比定されるものである。44は坏身の破片で、やや底上げ気味の平底から、丸みを持って口縁 部へといたる。蓋受けは、ほぼ水平に向かって突出し、口縁部は肉薄で内傾し、端部で直立気味 に立ち上がる。口唇部は丸く収めている。胎土は比較的良く精選されており、溶けた黒色鉱物粒、 細砂粒、白色鉱物粒、等を混入する。焼成は良好で内外面灰色、断面赤紫色を呈し、外面には自 然釉の付着が著しい。47も器形的には44に類似する环身で、平底から丸みを帯びて立ち上がり直 立する口縁部へと至る。底部付近は削りが著しく、図のくぼみは誇張では無く、えぐり取られた ようになっている。胎土は微砂粒、白色鉱物粒を混入し、焼成は堅緻で、内外面灰色、断面は赤 紫色を呈す。外面に自然釉が著しく付着したために、重ね焼きをした蓋の一部が剝落して、蓋受 けに付着している。45は原典では高坏としているが、2段の3方透かしを千鳥状配列しており、

脚付き長頸坩の脚部と思われる。2段透かし孔の中間に、2条の沈線を持つ。II型式1段階に比定される。高环の脚部46は3方の長脚一段透かしを持つ。42とは別個体と推定される。やはり、II型式1段階の所産と推定される。これらを出土した住居址は1辺8mもある大型の住居址で、他の住居址に比して遺物の中に須恵器の占める割合が高い。又、石製模造品等も出土しており、集落の中でもやはり特筆していた。

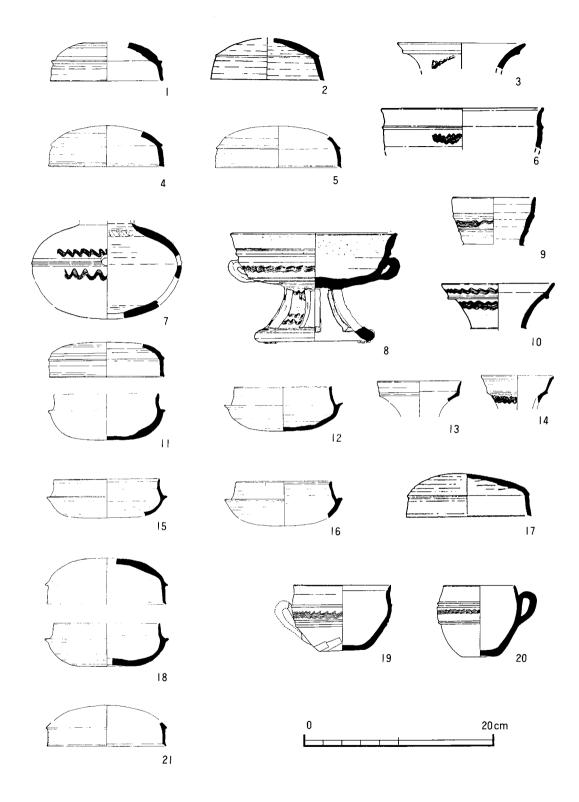
前二子古墳(48~53) 有名な前二子古墳石室内一括資料である。本墳の出土品については多く の文献にとりあげられ、その出土経緯についてはここで改めて述べるまでもなく、古くより学界 で話題とされている。しかし、その年代的な検知での試みは少ない。確実視されている資料の中 では、48の装飾器台がもっとも古式の様相を呈しており、全国的類例を見ても、形態的に類似す る出雲金崎古墳例は比較的古く位置付けられており、本品も、 I 型式 5 段階に位置付けたい。通 称、四神付き飾り土器とも言われる本品は、円錘台状の台部の上に円筒形の胴部を立て、その上 にやや深めの形式化され、底の抜けている小形受け皿をのせている。総高は58cm前後で上皿は口 唇部をつまみ出す感じに突帯をもうけ、やや丸みを帯びる中位には櫛描き波状文で装飾され、や や下部に二条一組みの沈線を施す。胴部も二条一組みの沈線によって、五区画六段に区分され、 それぞれの段には中四段は二単位で、最上段と最下段のみ一単位の櫛描き波状文を施文後、上五 段には縦長の長方形で、最下段のみ円形の四方透かし孔が切られている。各区画の沈線部分には 干鳥状に付点が付けられている。円錘台の台部は櫛歯状刺突文により施文され、その上に手づく ねによる稚拙な小動物が三つのっており、一個所これが剝落したと考えられる痕跡が認められる。 これらの位置関係は、四面ほぼ等間隔であり、鳥を正面に見ると、左に亀、右には体に渦巻き模 様を持ち、とぐろを巻いた一見、蛇のようなものがのっている。四神とすると青龍を表現してい に相当するらしいものが残存している。器表の色調は暗灰色を呈し、焼成はやや甘い。鳥のミ ニチュアと环部外面及び、台部の側面は赤彩されており、环部内面は赤もしくは白色塗彩、 のミニチュアと坏部外面及び、台部の側面は赤彩されており、环部内面は赤もしくは白色塗彩、 筒部は白もしくは、青色塗彩されている可能性が強い。他の大半はⅡ型式1段階に比定される。 49の腺は口縁部の広いずん胴な器形である。口縁部上位に一段稜線を持ち、そこより下位に全面 9~10本単位の波状文を三段にわたって施されている。体部は中よりやや上位に最大径を持ち、 二条の沈線にはさまれて櫛歯状工具による刺突文が施文されている。それらの模様を切って中央 部に一つ注口を持つ。胎土は比較的精選されており、焼成は甘い。全面赤彩されている。50は高 坏型を呈する大型器台で、深めの上皿に双曲線状に大きく開く脚部を付している。くびれ部には 突帯状の補強帯を付しており、総高39.2cmで、环部は口縁に突帯と二条一組みの沈線を付してお り、中位にも、二条一組みの沈線を施し、その上下に櫛描きの波状文を施している。焼成は甘く 焼き締まりがない。坏部と脚部に赤彩されている。51の直口壷は口縁部をほぼ直線的に外反する。 体部は中央よりやや上面に最大径をもち、そこから直線気味にくびれる。口唇部は丸く仕上げら れている。口縁部に二条一組のみ沈線を二ケ所施文し、その間に6~8本単位の櫛描き波状文を

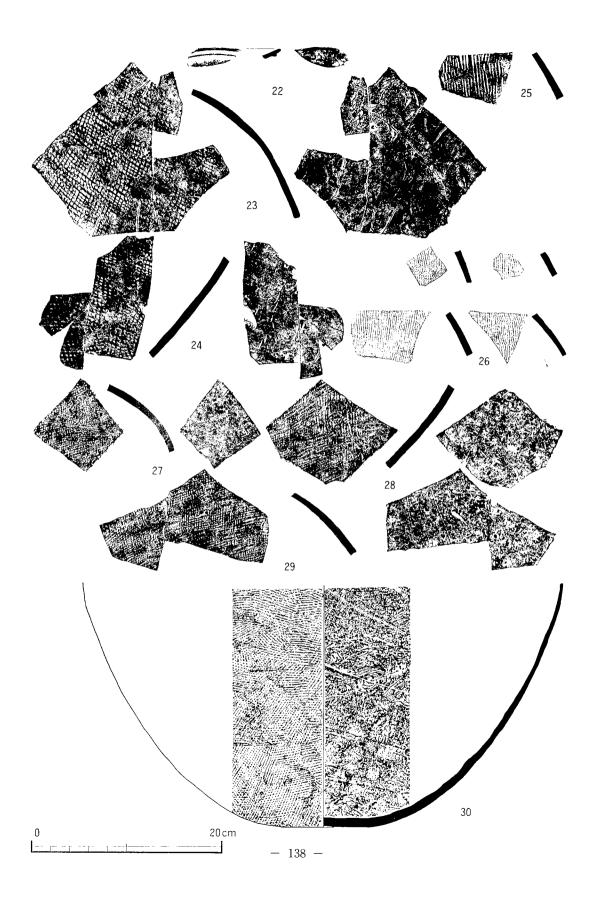
2段に施文する。体部は上半には一条と中位に二条一組の沈線を施し、その上に櫛歯状工具による刺突文が施文されている。焼成は比較的甘い。胎土は精選されている。胴部より上半に赤彩されている。Ⅱ型式1段階に比定される。52の高环はやや長脚気味の無蓋高环である。坏部は比較的浅く、下位に1段外稜をもってほぼ直線的に外反し、それより下位は、回転ヘラケズリが施される。脚部は中位に三角形三方透かしを施し、それをはさむように二条一組みの沈線を2ヶ所施している。なお沈線施文後、透かしを切っていることが、切り合い関係に示されている。端部は一段稜を持って丸くつまみ出されている。胎土は精選されており、白色鉱物粒を混入する。焼成は比較的良く、青灰色を呈す。53の堤瓶は環状耳を持つ堤瓶で、体部はカキメにより全面仕上げられている。口縁部は短く直立し、端部で鋭く外反する。全体に肉厚でぼってりとした作りになっている。口縁上位に5~6本単位の櫛描き波状文が施されている。胎土は比較的良く精選されており、白色鉱物粒を混入する。焼成はやや甘く、胴部の一部に赤色塗彩されている。

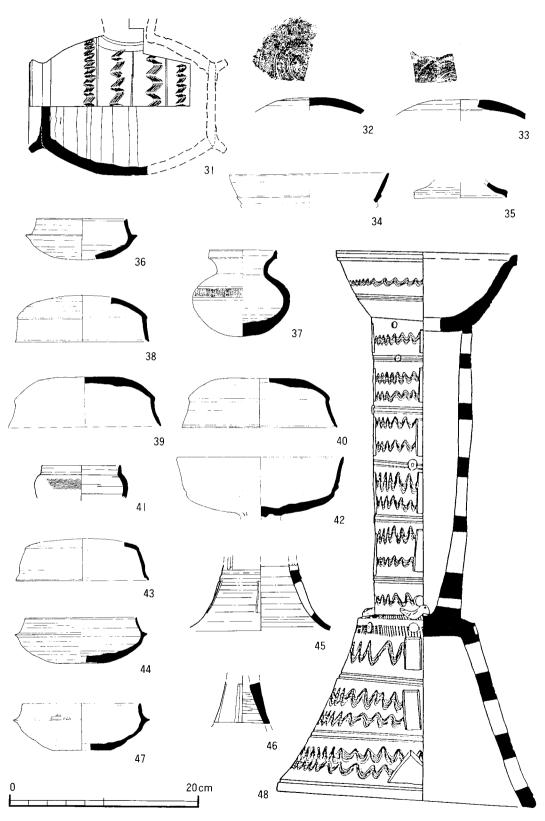
上陽村24号墳(54) 初期の横穴式古墳の石室内より出土している。本古墳の年代を示すものと考えられる。無蓋高环で、長脚一段の三方透かしを持つ。环部は丸みを帯びた半球状を呈し、2条の沈線により、口縁部と区画している。その下方には、5~6本単位の櫛描き波状文が施されている。脚部の端部は1段稜線を持って丸くつまみ出されている。胎土は比較的良く精選されており、焼成良好で灰色を呈している。II型式1段階に比定される。

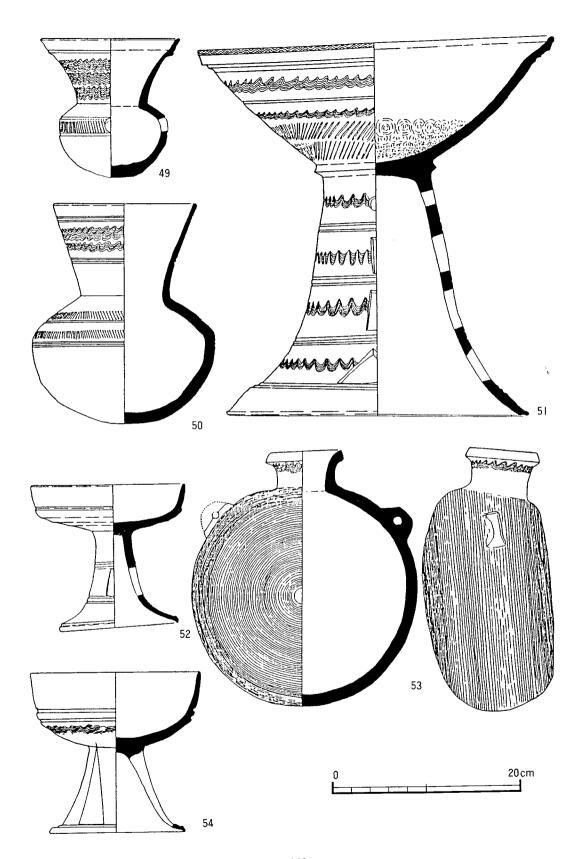
(註)

- (註1) 加部二生「前橋市内出土 I ~ II 期前半の須恵器」『東国における古式須恵器をめぐる諸問題』 (1987) 千曲川水系古代文化研究所編、今回の記載内容がこれに優先するものである。
- (註2) 原典では端部が若干外反するようにみえるので今回新たに再実測をした。
- (註3) 石坂茂『荒砥島原遺跡』(1983) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (註4) 大場磐雄「武蔵伊興」『国学院大学考古学研究報告第2冊』(1962) 大場磐雄・鈴木敏弘『武蔵伊興遺跡』(1975)
- (註5) 坂口一『荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡』(1986) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- (註6) 武部喜充『前山遺跡発掘調査報告書』(1986)
- (註7) 井上唯雄「荒砥上諏訪遺跡」『群馬県史資料編2』原始古代2(1986)
- (註8) 石塚久則「前内出出土の把手付き椀」『東国における古式須恵器をめぐる諸問題』(1987)
- (註9) 石塚久則「「東上野出土の把手付き椀」『東西における古式須恵器をめぐる諸問題』(1987)
- (註10) 梅沢重昭「仙石丘山遺跡」『大泉町誌』下巻
- (註11) 徳江秀夫「荒砥天之宮遺跡」『東国における古式須恵器をめぐる諸問題』(1987)
- (註12) 田口一郎「古式須恵器をめぐる諸問題 群馬県の在地窯産の古式須恵器一」『東国における 古式須恵器をめぐる諸問題』(1987)
- (註13) 愛知県陶磁資料館『特別展-須恵器展-』(1982)
- (註14) Ernest Satow「Ancient Sepulchral Mounds in Kaudzuke」『Journal of the Asiatic Society of Japan』 Vol.Ⅷ part Ⅲ(1880)









元総社明神遺跡VI

昭和63年3月20日 印刷 昭和63年3月25日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 前 橋 市 上 泉 町 6 6 4 - 4

印刷 株 式 会 社 報 通前橋市箱田町 361-3